

東関東自動車道(千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 2

— 市原市今富遺跡 —

平成10年 3 月

日 本 道 路 公 団
財団法人 千葉県文化財センター

東関東自動車道(千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 2

— 市原市今富遺跡 —



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第336集として、日本道路公団の東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴って実施した市原市今富遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。この調査では、多量の土師器が出土するなど、この地域の古墳時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また、地域の歴史資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心からの感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村好成

凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による東関東自動車道（千葉・富津線）建設に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉市原市今富字文蔵733ほかに所在する今富遺跡（遺跡コード219-042）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は研究員 森本和男が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、日本道路公団、市原市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第3図 昭和40年市原市役所発行 1/3,000市原基本図「28」、「36」
 - 第4図 国土地理院発行 1/25,000地形図「姉崎」
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年、平成9年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 本書で呼称した遺構番号は、編集の都合上、調査時の番号と異なる。

本文目次

第1章	はじめに	
第1節	調査の概要	
1	調査の経緯	1
2	調査方法	3
第2節	遺跡の位置と環境	
1	遺跡周辺の地形	3
2	周辺の遺跡	6
第2章	遺構と遺物	
第1節	縄文時代	9
第2節	弥生時代	9
第3節	古墳・奈良時代	14
1	住居跡	14
2	掘立柱建物	47
3	粘土採掘坑	62
4	土坑	64
5	古墳	66
6	包含層	83
6	一括出土遺物	117
第4節	近世	120
1	塚	120
2	火葬墓	120
第3章	まとめ	133
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	今富遺跡発掘調査範囲(1/2,000)	2	第8図	陥穴	13
第2図	本調査範囲及びグリッド配置図	4	第9図	炉穴	13
第3図	今富遺跡周辺の地形	5	第10図	壺棺墓	13
第4図	今富遺跡の位置と周辺の遺跡(1/25,000)	7	第11図	壺棺	14
			第12図	住居1	15
第5図	遺構配置図(1)(1/800)	10	第13図	住居1出土遺物	15
第6図	遺構配置図(2)(1/800)	11	第14図	住居2	16
第7図	遺構配置図(3)(1/800)	12	第15図	住居3	17

第16図	住居3 カマド	18	第53図	建物3 エレベーション図	51
第17図	住居3 出土遺物	18	第54図	建物4	52
第18図	住居4・5・6・7	19	第55図	建物5	53
第19図	住居8	20	第56図	建物6・7・8・10	54
第20図	住居8 出土遺物	21	第57図	建物9	55
第21図	住居9	21	第58図	建物11	56
第22図	住居10	22	第59図	建物12	57
第23図	住居10出土遺物	23	第60図	建物13	58
第24図	住居11・12・13・14	25	第61図	建物14	59
第25図	住居11出土遺物	26	第62図	建物15	60
第26図	住居13出土遺物	27	第63図	建物16	61
第27図	住居15・16、土坑1	28	第64図	建物17	62
第28図	住居15カマド	29	第65図	粘土採掘坑1・2	63
第29図	住居15出土遺物	29	第66図	土坑2・3	65
第30図	住居17	29	第67図	土坑4	65
第31図	住居18	30	第68図	土坑6	67
第32図	住居19・20・21	31	第69図	粘土採掘坑・土坑及びその他の遺構 出土遺物	68
第33図	住居19出土遺物	31	第70図	古墳(長老塚)調査前	69
第34図	住居22	32	第71図	古墳(長老塚)表土除去後	70
第35図	住居23・24、土坑5	33	第72図	古墳断面図(東西)	71
第36図	住居25	34	第73図	古墳断面図(南北)	72
第37図	住居25出土遺物	35	第74図	古墳主体部	73
第38図	住居26	36	第75図	古墳出土遺物(1)	75
第39図	住居27・28	37	第76図	古墳出土遺物(2)	78
第40図	住居27出土遺物	38	第77図	古墳出土遺物(3)	80
第41図	住居28出土遺物	38	第78図	古墳出土遺物(4)	82
第42図	住居29・30	38	第79図	包含層の土器出土平面図	83
第43図	住居31	39	第80図	包含層断面図(1)	84
第44図	住居31出土遺物	40	第81図	包含層断面図(2)	85
第45図	住居32・33	43	第82図	包含層出土遺物(1)	86
第46図	住居32出土遺物	44	第83図	包含層出土遺物(2)	89
第47図	住居33出土遺物	45	第84図	包含層出土遺物(3)	92
第48図	住居34	46	第85図	包含層出土遺物(4)	95
第49図	住居34出土遺物	47	第86図	包含層出土遺物(5)	97
第50図	建物1	48	第87図	包含層出土遺物(6)	98
第51図	建物2	49	第88図	包含層出土遺物(7)	100
第52図	建物3	50			

第89図	包含層出土遺物(8)	102	第97図	包含層出土遺物(16)	117
第90図	包含層出土遺物(9)	104	第98図	包含層出土遺物(17)	118
第91図	包含層出土遺物(10)	106	第99図	包含層出土遺物(18)	119
第92図	包含層出土遺物(11)	109	第100図	塚	121
第93図	包含層出土遺物(12)	110	第101図	塚断面図	122
第94図	包含層出土遺物(13)	112	第102図	火葬墓	123
第95図	包含層出土遺物(14)	114	第103図	7世紀の土器編年	134
第96図	遺構及び包含層出土遺物(15)	116	第104図	8・9世紀の土器編年	135

表 目 次

表1	遺構名称対応表	3	表4	土器一覧表	125
表2	周辺遺跡一覧表	8	表5	金属製品一覧表	131
表3	遺構一覧表	124	表6	その他遺物一覧表	132

図 版 目 次

図版1	今富遺跡周辺航空写真 (1967年撮影、約1/10,000)	図版17	建物11・12・13
図版2	今富遺跡周辺航空写真 (1997年撮影、約1/10,000)	図版18	建物14・15・16
図版3	炉穴、陥穴、壺棺墓	図版19	建物16・17
図版4	住居1・3	図版20	粘土採掘坑2、古墳遺景
図版5	住居3・4・5・6	図版21	古墳空中撮影
図版6	住居7・9・10	図版22	古墳周溝断面
図版7	住居10・11~14・15、土坑1	図版23	古墳墳丘断面、主体部残存状態
図版8	住居16・17・18	図版24	包含層遺物出土状態、塚
図版9	住居18・19・20	図版25	塚断面、火葬墓
図版10	住居21・22・23・24、建物13、土坑5	図版26	住居1・3・8・10出土土器
図版11	住居25・26	図版27	住居10・11・13・15・19・25・28・31 出土土器
図版12	住居27・28・29・30	図版28	住居31・32出土土器
図版13	住居31・32	図版29	住居33・34、その他出土土器
図版14	住居33・34、建物1	図版30	粘土採掘坑、土坑出土土器、壺棺
図版15	建物1・2第97図 包含層出土遺物(16)	図版31	古墳出土土器(1)
図版16	建物3・4・9	図版32	古墳出土土器(2)、包含層出土土器(1)
		図版33	包含層出土土器(2)

图版34 包含層出土土器 (3)

图版35 包含層出土土器 (4)

图版36 包含層出土土器 (5)

图版37 包含層出土土器 (6)

图版38 包含層出土土器 (7)

图版39 包含層出土土器 (8)

图版40 包含層出土土器 (9)

图版41 包含層出土土器 (10)

图版42 包含層出土土器 (11)

图版43 包含層出土土器 (12)

图版44 包含層出土土器 (13)、磁石、土製品

图版45 鉄器

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯

日本道路公団によって、東関東自動車道（千葉富津線）の道路建設事業が計画された。対象区域内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、千葉県教育庁生涯学習部文化課と協議の結果、現状保存の困難な部分についてはやむを得ず発掘調査による記録保存を行うこととなり、千葉県文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。今富遺跡は、こうした経緯のもとで調査された遺跡の一つで、調査対象面積は34,900㎡であった。発掘調査は昭和63年度、平成元年度、平成2年度に実施され、それぞれ、2,500㎡、4,000㎡、9,800㎡の本調査を実施した（第1図）。

発掘調査が終了した後、平成5年度から整理作業を開始した。なお、発掘調査、整理作業の実施期間、担当職員は下記のとおりである。

発掘作業

昭和63年度

調査部長	堀部昭夫
班長	佐久間豊
担当者	小林信一

平成元年度

調査部長	堀部昭夫
班長	佐久間豊
担当者	加藤正信、村木正記

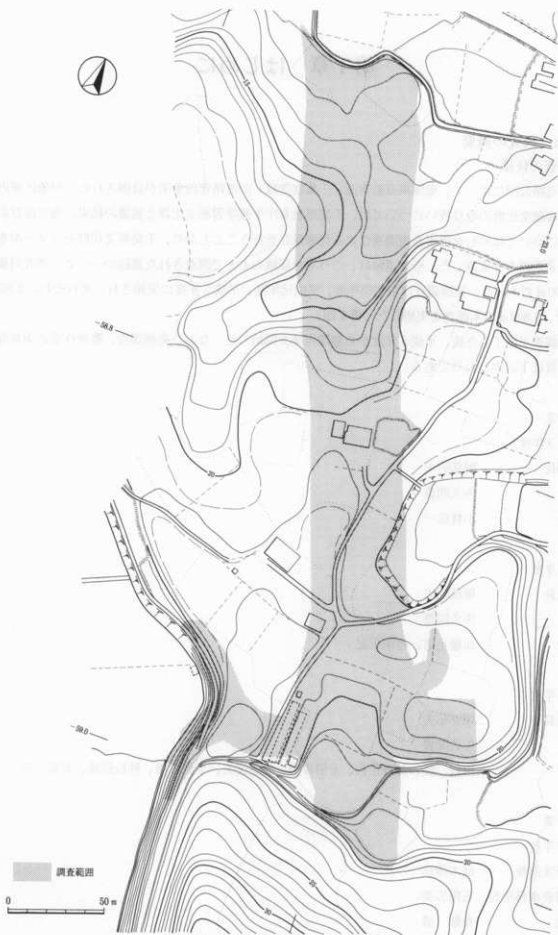
平成2年度

調査部長	堀部昭夫
班長	佐久間豊
担当者	田村 隆、加藤正信、永沼律朗、高梨俊夫、半沢幹雄、沖松信隆、糸原 清

整理作業

平成5年度

調査研究部長	高木博彦
市原調査事務所長	石田広美
担当者	糸原 清



第1図 今富遺跡発掘調査範囲 (1/2,000)

平成6年度

調査研究部長 西山太郎

市原調査事務所長 石田広美

担当者 野口行雄、城田義友

平成7年度

調査研究部長 西山太郎

市原調査事務所長 森 尚登

担当者 森本和男

平成8年度

調査部長 西山太郎

南部調査事務所長 高田 博

担当者 森本和男

平成9年度

調査部長 西山太郎

南部調査事務所長 高田 博

担当者 森本和男

報告書掲載番号	発掘調査番号	整理番号	報告書掲載番号	発掘調査番号	整理番号
陥穴	SX020	048	建物1	SB018	023
炉穴	SX013	016	建物2	SB017	031
礎石基	022	040	建物3	ピット群01-17	081
住居1	SB002	022	建物4	SB025	049
住居2	SB012	018	建物5	SB024	050
住居3	SB021	025	建物6	SB029	051
住居4	SB020	026	建物7	SB028	052
住居5	SB016	027	建物8	SB027	053
住居6	SB015	029	建物9	SB023	055
住居7	SB014	028	建物10	SB030	054
住居8	SB011	032	建物11	SB022	061
住居9	SB002	033	建物12	SB006	066
住居10	SB015	029	建物13	SB005	068
住居11	003	003	建物14	SB008	065
住居12	004	005	建物15	SB007	067
住居13	005	006	建物16	SB010	070
住居14	006	004	建物17	SB009	071
住居15	001	009	粘土様態枕1	SX011	017
住居16	002	010	粘土様態枕2	SX012	020
住居17	SB038	047			
住居18	SB026	046	土坑1	小竅穴01	007
住居19	019	042	土坑2	SK003、土坑3	013
住居20	021	041	土坑3	SK002、土坑2	014
住居21	020	043	土坑4	SK001	015
住居22	SB004	069	土坑5	SK007	064
住居23	SB013	063	土坑6	036	002
住居24	SB003	078			
住居25	SB037、S1101	072	古墳(長老塚)	SX002	002
住居26	028	066			
住居27	029	068			
住居28	033	057			
住居29	031	059	堀	SD020、SX001	001
住居30	032	060	火葬墓	SX102	073
住居31	S1102	074			
住居32	S1105	076			
住居33	S1109	075			
住居34	S1104	079			

表1 遺構名称対応表

2 調査方法

調査の方法は、発掘調査の開始に際して、対象となる区域を包含するよう国土地理院の国土座標を基準とした発掘区の設定を行った。この発掘区は基本的に20×20mの方眼を大グリッドとして設定し、20mを単位に西からA、B、C、D、... L、北から1、2、3、... 22と呼称し、さらにその大グリッドを2×2mの小グリッドに100分割した。本調査の前に、上層10%、下層4%の確認調査を行い、その結果を考慮して本調査範囲を決定して調査を実施した(第2図)。

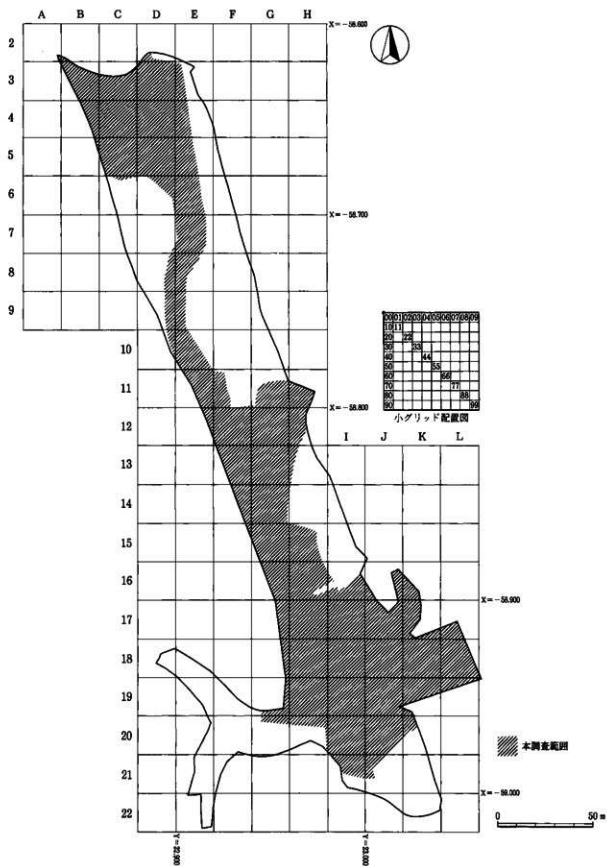
調査および整理の時に名付けた遺構番号と、報告書で掲載する遺構番号とは異なる。それぞれの遺構番号については、対応表を作成した(表1)。

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地形

今富遺跡の地籍は、市原市今富字文蔵733他で、房総半島の西北部の東京湾に面した台地上にあった。房総半島の北部には洪積世台地(下総台地)がひろがり、その中央を南東から北西へ養老川が流れている、また、その南側、房総半島の中央を東から西へ小櫃川が流れている。今富遺跡は、この二つの河川にはさまれた台地の北側縁辺にあり、養老川流域の狭い平野に面している。標高は約10~20mであった。

遺跡はやや平坦な段丘上にあり、北側前面には養老川流域の平野が広がる。平野との比高差は約12mである。遺跡の東側300mのところに、南東から北西方向へ、養老川に流入する小さい支流が流れている。また、遺跡の東側100mのところには今富堰という比較的大きい溜池がある。遺跡南側には標高約35mの



第2図 本調査範囲及びグリッド配置図



第3図 今富遺跡周辺の地形

小規模な台地があり、そこから東関東自動車道の道路建設事業にともなって、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落跡であった今富新山遺跡が検出され、発掘調査が実施された。発掘調査範囲は、東関東自動車道の道路建設事業範囲内に限定されたが、遺跡の範囲は、調査範囲外の東西に広がっていると考えられる（第3図、図版1、2）。

2 周辺の遺跡

養老川をのぞむ台地縁辺部に遺跡が多く分布し、台地奥部と養老川流域の平野部には比較的分布が少ない（第4図、表2）。旧石器時代の遺跡は、台地のやや奥部に位置する海保野口遺跡と、台地周辺部に位置する今富新山遺跡から検出された。旧石器時代の遺跡の発掘調査例は少ないが、おそらく台地上一帯に旧石器時代の遺跡が存在すると思われる。縄文時代の遺跡は、房総台地内側の比較的狭い台地上に存在する。古墳時代の遺跡として、養老川をのぞむ台地縁辺部に多数の古墳が分布している。これらの古墳は、下流の姉崎から今富までの左岸台地縁辺に存在する姉崎古墳群の一部を形成し、古代の上海上国造の系列につながる首長墓と推定されている。台地奥部に古墳はほとんど分布しない。いくつかの台地上で土師器採集の報告がなされているので、台地上における集落遺跡の存在が考えられるが、調査例は少ない。歴史時代の遺跡である養老川流域の今富院寺遺跡が、今富遺跡から北西約1.5kmの平野部にある。今富院寺は7世紀末に海上評（郡）の評（郡）寺として建立された。また、その西方約800mの所に、海上郡の郡衙推定地である西野遺跡があり、付近一帯は古代の時期に地方行政の要衝であった。その他にも、生産遺跡の所在が台地上からも報告されているので、付近に集落が営まれたと思われるが、発掘調査された遺跡は少ない。中世の館、もしくは城跡が川をのぞむ台地縁辺に距離をおいて点在する。時代が下って近世になると、塚が平野部と台地上に、偏在することなく分布している。海とのかかわり合いが深かった縄文時代には、狭い開折谷に囲まれた台地上で人々の生活が営まれた。古墳時代になると、養老川流域の平野部に生産基盤が移行した。その平野を見下ろすようにして、台地縁辺部に古墳が造営された。この時代にも台地上で集落が営まれたと思われるが、実体はまだ不明である。歴史時代になると、平野部に養老川流域における地方行政の中心地がおかれた。さらに中世になると、その平野部を監視、あるいは防衛するかのようにして、館あるいは城が造築されたのである。時代が下って近世になると、塚が平野部と台地上に、偏在することなく分布している。



○ 旧石器時代 ● 縄文時代 ▲ 弥生時代 ▲ 古墳時代 □ 歴史時代 ■ 中近世

第4図 今富遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)

	時代	遺跡名		時代	遺跡名
81	旧石器時代	南條野口遺跡	51	古墳時代	熊本小谷遺跡
82		今富新山遺跡	52		大塚古墳
9	縄文時代	本山遺跡	54	小谷古墳群	
10		今富崎ノ下	55	竹谷古墳群	
11		宮原遺跡	57	北小谷古墳	
15		神代遺跡	58	公家ノ台遺跡	
17		分目遺跡群	59	小島原遺跡	
18		布谷台遺跡	60	佐藤戸古墳	
19		堂谷台遺跡	62	公家ノ台古墳群	
24		東野遺跡	64	中ノ谷遺跡	
25		大作原遺跡	66	嵐成塚	
26		蟹久保貝塚	71	上境町遺跡	
27		南條野口西岸段丘部	72	廿五里十三割遺跡	
28		大塚遺跡	76	休所遺跡址	
33		山見塚貝塚	77	福ノ宮古墳	
34		下伊沢遺跡	82	今富新山遺跡	
35		不入ノ小塚遺跡			
37		不入ノ遺跡群	3	歴史時代	十五沢遺跡(群)
38		カブシ谷遺跡	4		坊ノ谷遺跡
39		見立林遺跡	5		今富崎寺跡
40		尾ノ久保遺跡	11		宮原遺跡
41		尾沢遺跡	15		神代遺跡
42		尾沢谷遺跡	31		花中台遺跡
47	廣宮台遺跡	32		板谷遺跡	
49	八幡台遺跡	37		不入ノ遺跡群	
51	熊本小谷遺跡	61		善徳城跡	
58	公家ノ台遺跡	64		中ノ谷遺跡	
59	小島原遺跡	67		白塚台遺跡	
61	南條野口遺跡	71		上境町遺跡	
		72		廿五里十三割遺跡	
11	弥生時代	宮原遺跡	79		村上遺跡
37		不入ノ遺跡群	80		國府推定地
64		中ノ谷遺跡	81		南條野口遺跡
82		今富新山遺跡			
6	古墳時代	今富文庫古墳	1	中近世	十五沢花やしき塚
7		今富塚山古墳	2		十五沢上人塚
11		宮原遺跡	8		矢兵衛塚古墳
15		神代遺跡	12		宮原御所
16		分目古墳群	13		神代城
17		分目遺跡群	14		分目城跡
18		布谷台遺跡	20		野兵衛塚
21		東野古墳群	21		東野古墳群
22		徳岡山古墳群	22		徳岡山古墳群
23		引田寺山古墳群	23		引田寺山古墳群
24		東野遺跡	26		大高台塚群
29		西殿原遺跡	44		片又木の供養塚
30		山見塚古墳	45		片又木の供養塚
35		不入ノ小塚遺跡	46		南條大塚
37		不入ノ遺跡群	61		善徳城跡
38		カブシ谷遺跡	63		中ノ谷宮貝塚
39		見立林遺跡	64		中ノ谷遺跡
40		尾ノ久保遺跡	65		白塚洗馬塚
41		尾沢遺跡	68		白塚古墳群
42		尾沢古墳	69		白塚供養塚
43		尾沢谷遺跡	70		鳥穴神社塚群
46		南條古墳群	73		廿五里新開三山塚
47		廣宮台遺跡	74		廿五里八幡台塚
48		南條宮谷前古墳群	75		村上山王殿遺跡
49	八幡台遺跡	78	村上城跡		
50	南條神社古墳	81	南條野口遺跡		

表2 周辺遺跡一覧表

第2章 遺構と遺物

調査区は南北約400m、幅約60mの細長い範囲で、本調査を行ったのは、遺構の検出された部分であった。検出された遺構は、主に古墳時代と奈良時代の住居跡、掘立柱建物跡であった。出土した遺物も古墳時代から奈良時代にかけての土器片が多かった。今富遺跡の本調査範囲は南北に細長く広がり、狭い範囲から検出された遺構は、さほど密集しておらず、ある特定の場所に偏在することもなかった。調査区南側にやや広い段丘面があり、そこから住居跡、掘立柱建物跡、古墳が、比較的多く検出された。遺構は、縄文時代の陥穴1基、炉穴1基、弥生時代の壱棺墓1基、古墳時代から奈良時代にかけての住居跡34軒、掘立柱建物跡17棟、粘土採掘坑2基、土坑7基、古墳時代の古墳1基、近世の塚1基、火葬墓1基が見つかった(第5、6、7図)。

第1節 縄文時代

縄文時代の遺構として、陥穴と炉穴がそれぞれ1基検出された。陥穴と炉穴は、それぞれ離れたところから検出され、周囲に同じ時代の遺構も無く、孤立した存在であった。遺物はほとんど出土しなかった。

陥穴(第8図、図版3)

調査区中央段丘上の12Gグリッドの西側に位置する。長さ3.4m、幅0.7m、深さ1mの細長い陥穴で、主軸は東北-西南を向き、遺物は出土しなかった。

炉穴(第9図、図版3)

北側の段丘縁辺部4Cグリッドの斜面に位置する。周囲に同じ縄文時代の類似した遺構がなく、孤立した存在である。3基の楕円形状の炉穴からなる。それぞれ南側端部に火床部があった。中央の比較的大きな炉穴は、ほぼ南北を向き、長さ1.5m、幅0.76mであった。東側の炉穴は長さ0.84m、幅1.44mで、西側の炉穴は長さ8.4m、幅4.6mであった。少量の土器片が出土した。

第2節 弥生時代

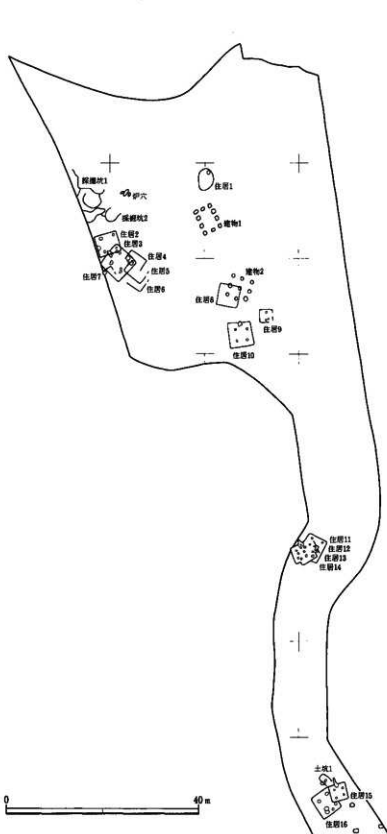
弥生時代の遺構として壱棺墓が1基検出された。調査区内にその他の弥生時代の遺構は無く、また、遺跡周辺からも弥生時代の遺構が無いようなので、孤立した存在である。

壱棺墓(第10図、図版3)

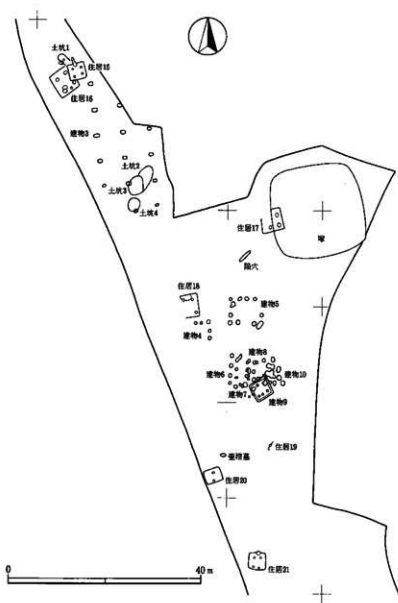
調査区中央やや南よりの段丘上14Fグリッドの東側に位置する。高さ約40cmの壱が、主軸を西北に向けて横になった状態で検出された。壱の傍に浅いくぼみがあった。壱の内部からは何も出土しなかったが、出土状況などから、この壱が棺として使用されたと思われる。

遺物(第11図、図版30)

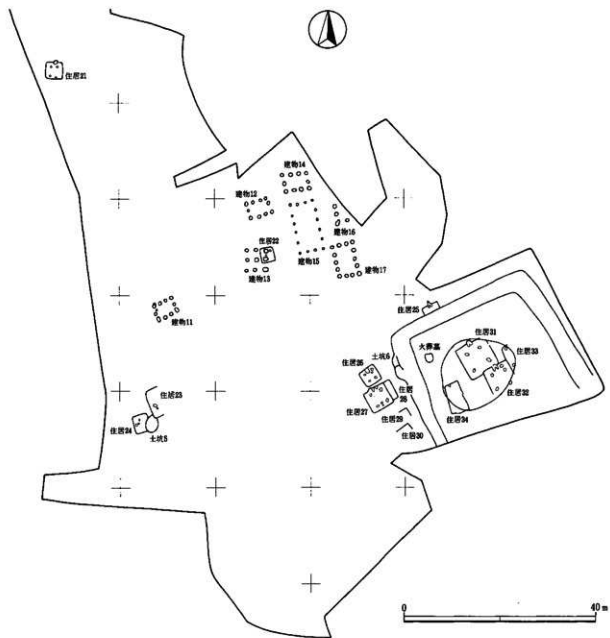
口縁部を欠いた胴部のみ的大型な壱である。現行の高さ40.5cm、胴部径35.4cm、底径10.2cmであった。土器外面のところどころに細かい刷毛模様が残っていたが、摩滅した面が多い。内面は丁寧になでてい



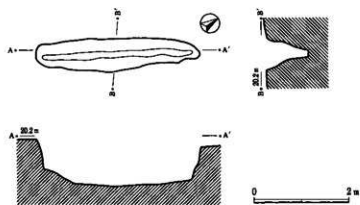
第5図 遺構配置図(1) (1/800)



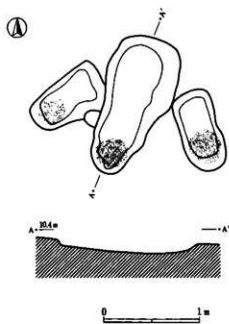
第6図 遺構配置図(2)(1/800)



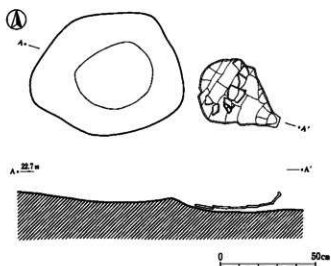
第7図 遺構配置図(3) (1/800)



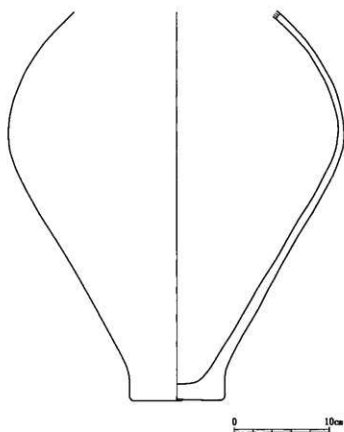
第8图 陷穴



第9图 炉穴



第10图 臺棺墓



第11図 壺棺

た。

第3節 古墳・奈良時代

古墳時代から奈良時代にかけての遺構として住居跡34軒、掘立柱建物跡17棟、粘土探掘坑2基、土坑7基、古墳1基があった。住居跡、掘立柱建物跡は段丘上の調査区全体に分布し、さほど顕著な密集を見せていない。古墳（長老塚）は調査区南よりの段丘上にあった。調査区北側の段丘には西から谷が入り、この谷の傾斜部から多量の土器が出土した。

1 住居跡

竪穴住居跡は34軒あり、主に調査区北側の段丘と調査区南側の段丘で確認された。段丘斜面部でも少数ながら見つかった。重複している住居が多く、そのうちのいくつかは建て替えの可能性も考えられる。北壁にカマドのある正方形の住居跡が一般的であった。比較的遺存状態の悪い住居が多かった。

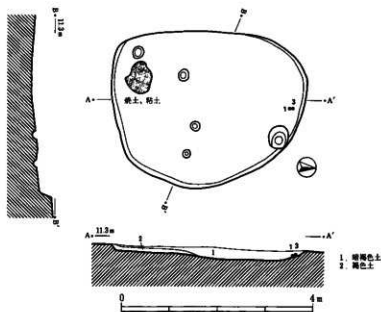
住居1（第12図、図版4）

調査区北端の段丘斜面、4Cグリッド東北端と4Dグリッド西北端にまたがって位置している。南北4.08m、東西3.28mあり、やや楕円形をして形態が明確でなかった。壁の深さは、残存状態の良い南東壁で0.24cmあり、西壁は削平されていてなかった。遺構内から、深さ10cmにも満たない小さなビットが4ヶ

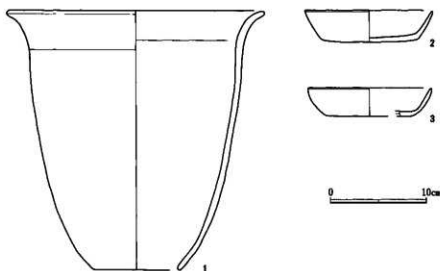
所検出された。これらの小さなピットは、規則性もなく穿たれ、機能不明のピットである。東南隅から焼土もしくは粘土が出土し、カマド残存部の可能性がある。遺構の覆土中より土器片が少量出土した。

遺物（第13図、図版26）

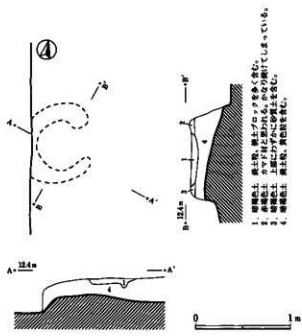
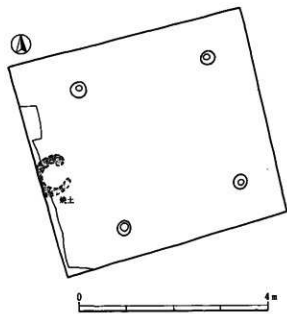
図化できた遺物は、土師器の瓶1点と杯2点であった。1の瓶はほぼ完形に近い部分が残存し、口径26.7cm、底径9.1cm、器高26.9cmである。外面は縦位にヘラ削りをし、口縁部および内面はナデ調整をしている。胎土に黒色と白色の比較的大きな粒子を含む。色調は内外面とも黄褐色で、部分的に黒褐色を呈する。焼成は良好である。2の杯は3分の1が残存し、口径13.2cm、底径10.1cm、器高3.3cmである。外面、底面をヘラ調整し、口縁部および内面をナデ調整している。胎土に荒い砂粒を含む。色調は赤みを帯びた黄褐色である。焼成は良好である。3の杯は5分1が残存し、口径12.8cmである。2の杯と同じような調整を施しているが、胎土に荒い砂粒を含んでおらず、細かい砂粒のみであった。色調は黄褐色で、焼成は良好である。



第12図 住居1



第13図 住居1 出土遺物



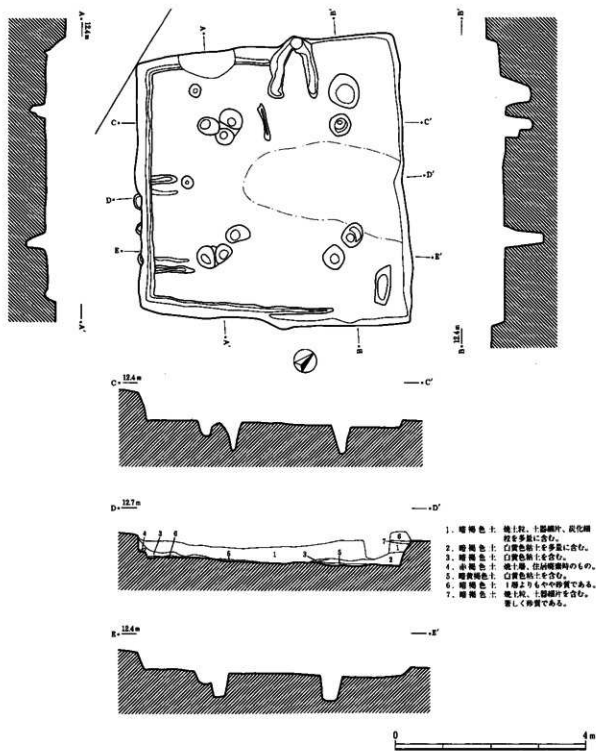
第14図 住居2

住居2 (第14図)

調査区北側の段丘上、4 Bグリッド東南端と4 Cグリッド西南端にまたがって位置している。南側は住居3と重複している。遺構の残存状況は良好でなく、わずかに床面の一部とカマドの痕跡、4本の柱穴が確認できた程度であった。壁を検出できなかったため、住居の形態および大きさは推定による。推定線によると主軸の角度は253度であった。径26cmから34cmの柱穴は住居の対角線上に並び、深さは残存している面から10cm~20cmであった。

西側からカマドの残骸と思われる焼けた焼土層が検出されたが、カマド範囲を明確に識別できなかった。

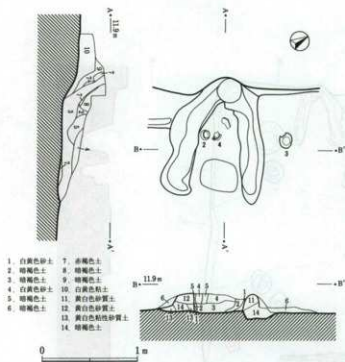
住居覆土中より少量の土器片が出土した。



第15図 住居3

住居3 (第15、16図、図版4、5)

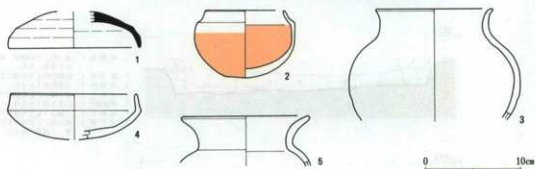
調査区北側の段丘上、4 Bグリッド、4 Cグリッド、5 Bグリッド、5 Cグリッドの交点付近に位置し、



第16図 住居3 カマド

土器片が多く出土した。

カマドは北壁中央のやや東寄りにあり、残存状態は比較的良好であった。煙導部は住居の壁から外側へ少し突出していた。カマド焼き口付近から少量の土器片が出土した。

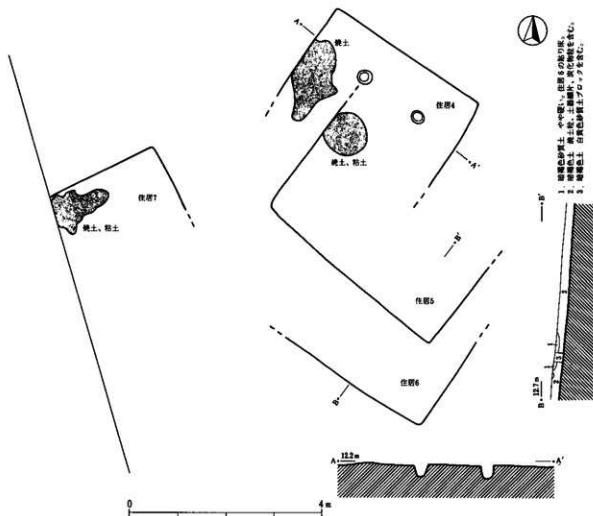


第17図 住居3 出土遺物

遺物（第17図、図版26）

図化できた遺物は、土師器の杯2点、甕2点、須恵器の蓋1点であった。1は須恵器の蓋で5分の1が残存し、口径は13.7cmであった。外面をヘラ調整、口縁および内面をナデ調整している。胎土に白色のやや大きい粒子を含む。2はほぼ完形の土師器の杯で、カマドの焼き口付近から出土した。口径8.3cm、器高7.1cmである。胎土に比較的細かい白色砂粒と雲母片を含む。外面をヘラ調整、口縁および内面をナデ調整している。色調は内外面とも黄褐色を呈し、外面の一部が黒褐色である。外面の一部、口縁を除いた

内面に朱塗りの痕跡がうかがえる。焼成は良好である。4の杯は4分の1が残存し、カマドの焚き口付近から出土した。口径13.2cmである。胎土に細かい白色砂粒を含む。外面をヘラ調整、口縁および内面をナデ調整している。色調は内面が黒褐色で、外面が黄褐色である。焼成は良好である。3の甕は口縁部と胴上半部が残存し、カマドの東側から出土した。口径12.2cmである。胎土に比較的細かい白色砂粒と雲母片を含む。内外面ともナデ調整している。色調は明黄褐色を呈し、口縁の内面一部が黒褐色である。焼成は良好である。5の甕は口縁部のみ残存し、口径は13.4cmである。胎土に細かい白色砂粒を含む。口縁部内外面とも横ナデ調整をし、外面は荒いヘラ削りで調整している。色調は内外面ともに明褐色を呈する。焼成は良好である。



第18図 住居4・5・6・7

住居4 (第18図、図版5)

調査区北側の段丘上、4Cグリッドの西南および5Cグリッド西北に位置する。西側は住居3、南側は住居5と重複する。遺存状態がきわめて悪く、柱穴2本とカマドの痕跡を確認できただけであった。住居の壁を検出できず、土の硬化面等を参考にして壁北半分の推定線を想定した。推定線によると主軸は302度を向き、長さは3.69mであった。径26cm~30cm、深さ約25cmの小さい柱穴が2本検出された。

カマドは火床部の焼土のみが残存し、カマド構築材と思われる白黄色粘土が若干周辺に散在していた。遺物は、住居跡の精査中に少量の土器片が見つかっただけである。

住居 5 (第18図、図版 5)

調査区北側の段丘上、5Cグリッドの西北に位置する。北側は住居4、南側は住居6と重複する。遺存状態がきわめて悪く、カマドの痕跡を確認できたただけであった。住居の壁を検出できず、土の硬化面等を参考にして壁南半分の推定線を想定した。推定線によると主軸は309度を向き、長さは4.45mであった。柱穴、周溝は検出されなかった。

カマドは、火床部の焼土とカマド構築材の白黄色砂が残存していた。

住居 6 (第18図、図版 5)

調査区北側の段丘上、5Cグリッドの西北に位置する。北側は住居5と重複する。遺存状態がきわめて悪く、土の硬化面等を参考にして住居の南端部の推定線を想定した。おそらく、住居北半分およびカマドは、住居5によって破壊されたのであろう。柱穴、周溝は検出されなかった。

住居 7 (第18図、図版 6)

調査区北側の段丘上、5Bグリッドの北東隅と5Cグリッドの北西隅に位置する。西側半分が調査区外にあり、カマドから東半分の一部を確認できた。遺存状態が悪く、土の硬化面等を参考にして壁東北部の推定線を想定した。推定線によると主軸は333度を向く。柱穴、周溝は検出されなかった。

カマドの遺存状態は悪く、カマド構築材の白黄色粘土ブロック、焼土等が少量残存していた。カマドの残存部分から土器片が少数出土した。

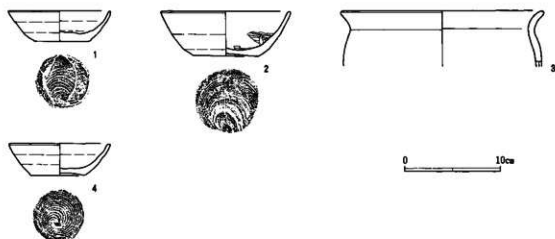


第19図 住居 8

住居 8 (第19図)

調査区北側の段丘上、5Dグリッドの北西寄りにあり、建物2と重複する。遺存状態がきわめて悪く、カマド構築材と焼土からなるカマドの残骸、少量の土器片の分布、炭化材の残存状況等から住居跡の存在を想定した。一部の壁が残存し、それをもとにして住居跡の範囲を推定した。推定線によると、主軸は281度を向き、主軸の横幅は4.7mであった。残存していた壁の深さは5cm~10cmであった。柱穴、周溝は検出されなかった。

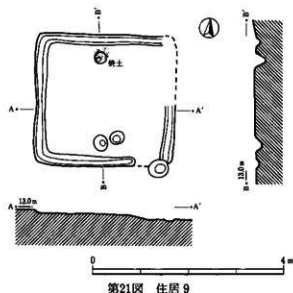
カマドの残骸付近から、少量の土器片と炭化材がやや集中して出土した。



第20図 住居8 出土遺物

遺物（第20図、図版26）

図化できた遺物は、土師器の杯3点と甕1点であった。1の杯はほぼ完形で、口径10.6cm、底径5.7cm、器高3.3cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。轆轤成形で、底面に回転糸切り離し痕が残る。糸切り離し後の調整痕は無い。内外面ともに明黄褐色を呈し、底面および外面の一部が黒褐色である。焼成は良好である。2の杯は2分の1が残存し、口径13.6cm、底径7.0cm、器高4.8cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面は横ナデ調整で、底面に回転糸切り離し痕が残る。糸切り離し後の調整痕は無い。内面には細かいヘラナデ痕があるが、暗文ほどの規則性はない。色調は、外面が黄褐色と黒褐色、内面が暗黄褐色を呈する。焼成は良好である。4は完形の杯で、口径10.6cm、底径5.6cm、器高3.4cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。轆轤成形で、底面に回転糸切り離し痕が残る。糸切り離し後の調整痕は無い。色調は内外面ともに明黄褐色を呈する。焼成は良好である。1の杯と4の杯は、成形、色調等ほぼ同一である。3の甕は、口縁部の4分の1が残存し、口径21.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。口縁部にヨコナデ調整痕があり、胴部上部の外面に荒いヘラ削り痕がある。色調は、外面が明褐色、内面が暗褐色を呈する。焼成は良好である。



第21図 住居9

住居9（第21図、図版6）

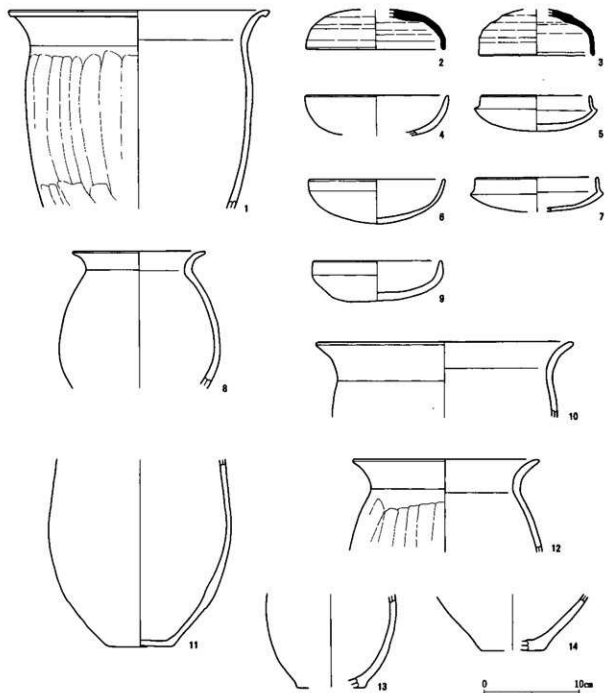
調査区北側の段丘上、5 Dグリッドに位置する。少し横長の長方形で、長軸の長さは2.95 m、短軸の長さは2.75 mであった。壁の深さは、10 cmにも満たなかった。径25 cm～40 cm、深さ10 cm～20 cmの小さい柱穴4本が中央北側と南側および東南隅にあった。中央南側の2本の柱穴は隣接していて、柱を建て替えたように見える。幅約25 cmの周溝がほぼ全周していた。

カマドは検出されなかったが、北壁中央付近の狭い範囲で焼土が分布していた。少量の土器片が

出土した。

住居10（第22図、図版6、7）

調査区北側の段丘上、5Dの西南側に位置する。正方形をしていて、北壁中央にカマドがある。東半分は攪乱されていて、東壁も破壊されていた。主軸は355度を向き、主軸の長さは5.26m、幅は4.95mであった。壁の深さは、西壁で35cmであった。径20cm、深さ45cm～50cmの細長い柱穴が、対角線上に4本あった。幅15cmの周溝が、北壁を除いて全周していた。住居内西側の覆土層から遺物が大量に出土した。主に土器



第23図 住居10出土遺物

片が多かった。

カマドは北壁中央に位置し、遺存状態はさほど良好ではなかった。向かって右側の袖部が破壊され、左側袖部もさほど明瞭でなかった。煙導部は住居の壁からさほど突出していなかった。

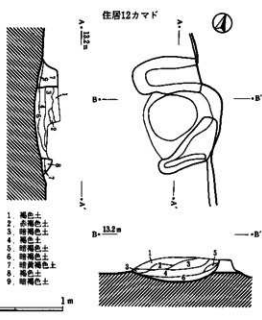
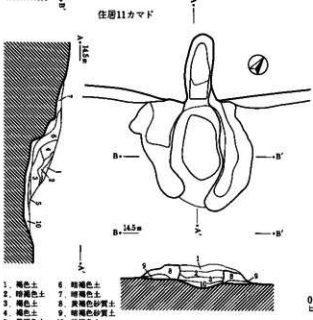
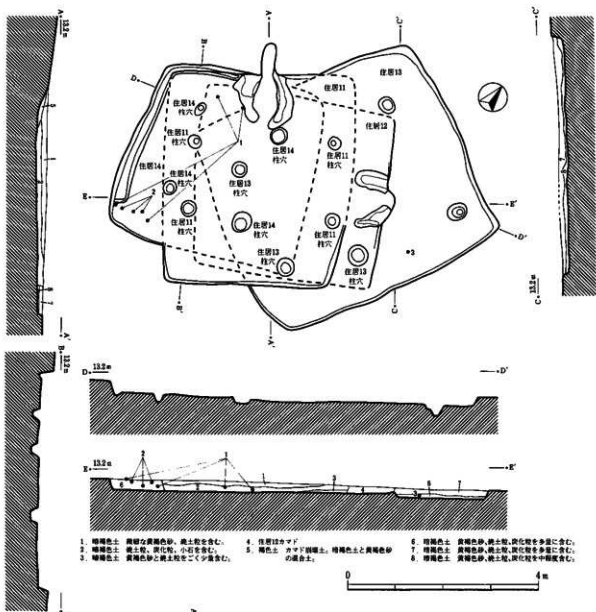
遺物（第23図、図版26、27）

図化できた遺物は14点あり、土師器の杯5点、甕7点、須恵器杯2点であった。住居内西側の覆土層下部から出土したものが多く、攪乱されていたので、住居東側から出土遺物は少なかったが、本来西側と同程度東側にも遺物が存在したであろう。土師器杯の4は2分の1が遺存し、口径が15.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面および口縁部はヨコナデ調整である。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5は5分の4が遺存し、口径が11.5cm、器高が3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は、外部底面が黒褐色、その他は明褐色である。焼成は良好である。6はほぼ完形で、器形としては蓋の可能性もある。口径が14.2cm、器高が4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。内外面ともに赤みを帯びた褐色である。焼成は良好である。7は2分の1が遺存し、口径は13cmである。胎土に微細な白色粒子が含まれている。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は、内面が褐色、外面が赤みを帯びた明褐色である。焼成は良好である。9は3分の2が遺存し、口径が13.4cm、器高が4.5cmである。胎土に微細な粒子を含む。外面はヘラ調整、外部底面一部にヘラナデ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は、内外面ともに赤みを帯びた明褐色である。焼成はやや良好である。須恵器杯の2は3分の1が遺存し、口径が14.4cmである。胎土に白色粒子を含む。外面は回転ヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は青灰褐色で、焼成は良好である。3は4分の1が遺存し、口径が12cmである。胎土に白色粒子を含む。外面は回転ヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は青灰褐色で、焼成は良好である。土師器甕の1は、5分の1が遺存し、口径が27.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面胴部上半には縦位の荒いヘラ削りが施され、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整である。色調は、内外面とも明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。大きさ、色調等から1と10は同一個体の可能性がある。8は3分の1が遺存し、口径が13.8cmである。胎土に微細な砂粒をわずかに含む。外面には縦位のヘラ削りが施され、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整である。色調は、外面が明褐色、内面が明褐色である。焼成は良好である。11は胴下半部3分の2が遺存し、底径が6.7cmである。胎土に白色粒子を少量含む。外面には縦位の荒いヘラ削り、内面にはナデ調整が施されている。色調は、外面が赤みを帯びた明褐色、内面は明褐色である。焼成は良好である。

住居11・12・13・14（第24図、図版7）

調査区北側の段丘南側斜面、7Dグリッド、7Eグリッド、8Dグリッド、8Eグリッドの交点付近に位置する。床面の高さがほぼ同一な4軒の住居が重複し、数回にわたって住居が建て替えられたと思われる。それぞれの住居の形態は正方形で、住居11と住居12にはカマドが付随していたが、他の住居のカマドは、住居の立て替えによって破壊されたか、もしくは残存するカマドと共有していたであろう。

住居11は北壁中央にカマドが残存していた住居で、主軸は327度を向き、主軸の長さは4.44m、幅は4mであった。壁の深さは、残存している南端部で約20cmであった。径25cm～30cm、深さ約15cmの柱穴4本



第24図 住居11・12・13・14

が、東壁、西壁に平行してやや壁寄りの地点から検出された。周溝は検出されなかった。

カマドは北壁中央に位置し、遺存状態は良好であった。煙導部分が北壁より外側へやや長く伸びていた。

住居12は住居11のやや東側に位置し、東北壁にカマドが残存していた。主軸は64度を向き、主軸の長さは4.05m、幅は3.78mであった。壁は、住居の建て替えによってほとんど破壊されたようである。床面の高さが、住居11および住居13と比較してわずかながら低い。住居12にともなう柱穴は検出されなかった。また、周溝も検出されなかった。

住居12のカマドは東北壁の中央にあり、遺存状態はさほど良好ではなかった。煙導部が住居の壁から外側へ少し突出していた。

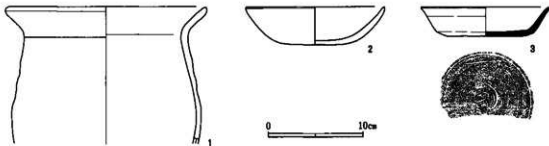
住居13は右端の住居で、やや長方形の住居である。おそらく西壁にカマドがあったと思われるが、住居の建て替えによって破壊されてしまったのであろう。主軸は300度を向き、主軸の長さは4.73m、幅は5.35mであった。壁の深さは12cm～15cmであった。径35cm～40cm、深さ約20cmの柱穴4本が対角線上に位置し、さらに中央の東壁寄りに同規模の柱穴が1本あった。この柱穴は、出入り口用施設のために穿たれた穴であろう。周溝は検出されなかった。

住居14は左端の住居で、住居11のカマドを共有していた可能性がある。主軸は340度を向き、主軸の長さは3.89m、幅は3.95mであった。壁の深さは西壁で約20cmであった。径25cm～45cm、深さ約10cmの柱穴が4本対角線上に位置していた。西壁から北壁にかけて幅20cm～30cmの周溝がめぐっていた。住居内の覆土から土器片が出土したが、どの住居に属する遺物が厳密に区別することができなかった。

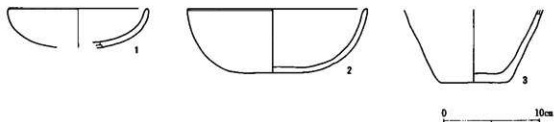
発掘担当者のメモによると、住居13(古)→住居12・住居14→住居11(新)の順に住居が造られた。

遺物(第25、26、図版27、45)

図化できた土器は、住居11からは土師器2点、須恵器1点、住居13からは土師器3点あった。住居11出土遺物の1は甕の口縁から胴部上半にかけての5分の1の土器片で、口径は20.6cmである。胎土に白色粒子を多く含む。口縁部をヨコナデで調整し、外面を荒いヘラ削り、内面をナデで調整している。色調は赤褐色で、一部黒褐色であった。2の杯は3分の2が遺存し、口径14.6cm、底径7.0cm、器高3.9cmである。胎土に暗赤褐色、白色の粒子を含む。表面の摩滅が激しく、調整痕が判然としない。色調は、内面が褐色、外面が暗褐色である。焼成はやや良好である。3は須恵器の杯で、2分の1の破片である。口径13.6cm、底径8cm、器高3cmである。内外面を轆轤によるナデで調整し、底面を回転ヘラ調整をしている。色調は内外面ともに青灰褐色で、一部に火澤が見られる。焼成は良好である。住居13出土遺物の1は杯の破片で、



第25図 住居11出土遺物



第26図 住居13出土遺物

3分の1が残存し、口径14.6cmである。胎土に白色微粒子が含まれている。内面はナデ調整、外面はヘラ調整、口縁はヨコナデ調整をしている。色調は内外面黄褐色で、口縁部が赤褐色であった。焼成は良好である。2の器形は大型の碗で、3分の2が遺存している。口径18.9cm、器高6.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内面をナデ調整、外面をヘラ調整、口縁をヨコナデで調整している。色調は、内面が明褐色、外面が明黄褐色を呈し、底部外面の一部が黒褐色である。3は甕底部で、底径7cmである。胎土に白色砂粒、黒色粒子、やや大きい白色粒子を含む。内面をナデ調整、外面を荒いヘラ削りで調整している。色調は、内面が褐色、外面が黒褐色を呈している。焼成は良好である。

住居15（第27、28図、図版7）

調査区中央の平地、10Eグリッドのほぼ中央に位置する。西側は住居16と重複している。やや縦長の正方形で、北壁にカマドがあった。主軸は345度を向き、主軸の長さは3.95m、幅は3.48mであった。壁の深さは28cm～14cmであった。径30cm、深さ25cm～38cmの小さい柱穴が4本、対角線上に位置する。南側のやや中央付近に小さい穴あり、出入り口用施設のための穴の可能性がある。長軸95cm、短軸60cm、深さ23cmの比較的大きな穴が西南隅にあった。幅20cm～30cmの周溝が北壁西半分と西壁にめぐっていた。住居内の覆土から少量の土器片が出土した。

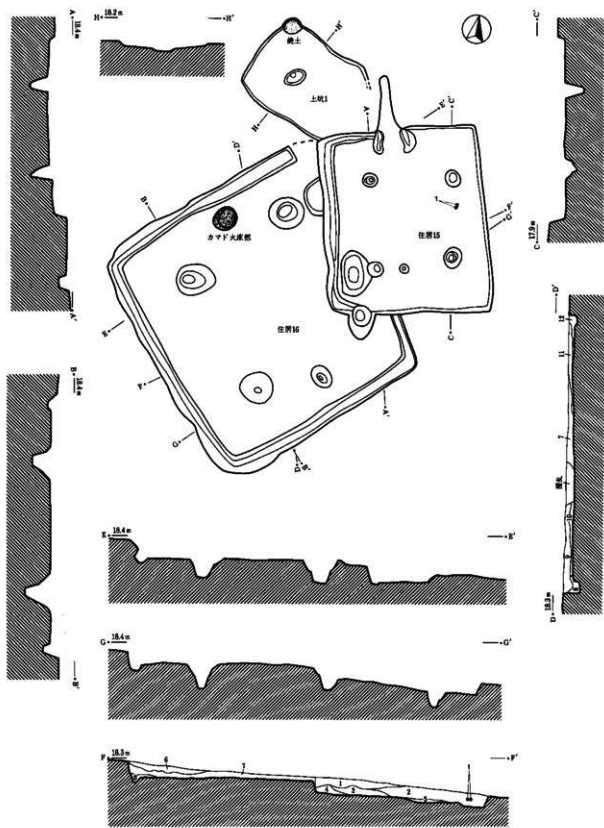
北壁の中央に位置するカマドは、遺存状態が比較的良好であった。袖部がやや小さく、煙導部が壁から外側へかなり突出していた。

遺物（第29、図版27）

図化できた遺物は、土師器の甕1点と杯1点であった。1の甕は口縁部から胴上部まで5分の1が遺存し、口径15.2cmである。胎土に白色粒子を少し含む。外面は荒いヘラ削りで調整し、内面はナデ、口縁部はヨコナデで調整している。色調は内外面ともに褐色で、一部黒褐色であった。焼成は良好である。2の杯も5分の1が遺存し、口径11.2cmである。胎土は細かい砂粒からなる。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁をヨコナデで調整している。色調は内外面ともに明褐色を呈する。焼成は良好である。

住居16（第27図、図版8）

調査区中央の平地、10Eグリッドの西南側に位置する。北東部分を住居15によって破壊されていた。正方形で、北壁中央付近にカマド火床部が残存していた。主軸は321度を向き、主軸の長さは5.4m、幅は5.0mであった。壁の深さは、38cm～3cmであった。径70cm～85cm、深さ35cm～51cmの柱穴が4本対角線上に位置し、また、中央南側に出入り口用施設のための小さい穴が1つ穿たれていた。幅20cm～30cmの周溝が



住居16の土層

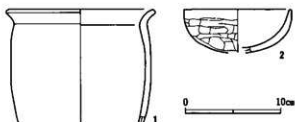
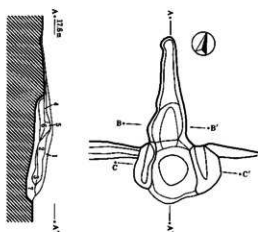
1. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒、黄褐色砂、小石を含む。
2. 暗栗褐色土 1層に近似し、小石、黄褐色砂の含有率が低い。
3. 暗栗褐色土 1層に近似し、小石、黄褐色砂の含有率がさらに低い。
4. 暗栗褐色土 黄褐色砂、礫土状、炭化粒を含む。
5. 暗栗褐色土 小石、黄褐色砂を多量に含む。

住居15の土層

6. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒を少量含む。
7. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒を少量より多く含む。
8. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒、黄白色粘土、山砂を含む。
9. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒は極めて少なく、黄白色粘土を多く含む。
10. 暗栗褐色土 礫土状、炭化粒は極めて少なく、黄白色粘土を小ブロック状に含む。
11. 暗栗褐色土 褐色土、礫土状、炭化粒、黄褐色山砂、粘土状の混合土。
12. 暗栗褐色土 黄褐色粘土、礫土状、炭化粒を含む。



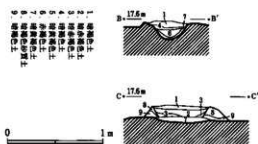
第27図 住居15・16、土坑1



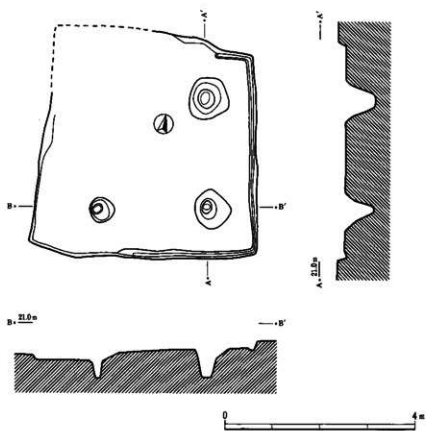
第29図 住居15出土遺物

住居の壁際に沿って全周していた。遺物は出土しなかった。

カマドは破壊されていて、火床部のみが北壁中央付近から検出された。



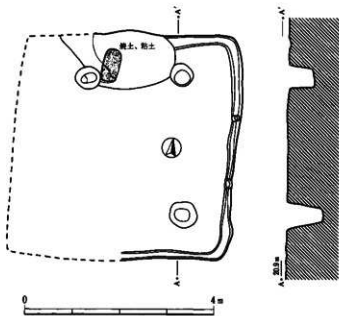
第28図 住居15カマド



第30図 住居17

住居17（第30図、図版8）

調査区中央の平地、12Gグリッド中央の北側と11Gグリッド中央南端に位置する。東側が近世の塚と重複し、また西北隅が調査不可能であった。正方形であるが、焼土、カマド構築材等のカマドの残骸が検出されず、カマドの所在が不明であった。長軸の長さは4.74m、短軸の長さは4.65mであった。壁の深さは14cmであった。径55cm～94cm、深さ62cmの柱穴が対角線上に、西北部分を除いて3本検出された。幅約17cmの周溝が住居東半分の壁際にめぐっていた。遺物は出土しなかった。



第31図 住居18

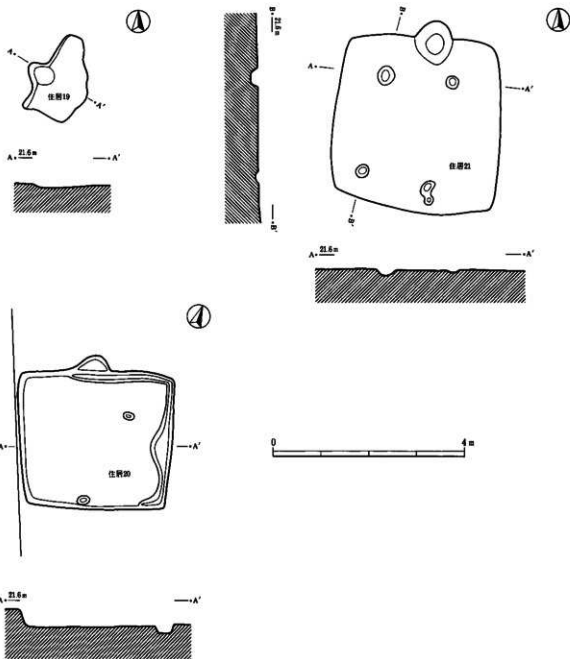
住居18（第31図、図版8、9）

調査区中央の平地、12Fグリッド中央の南側と13Fグリッド中央の北側に位置する。住居の西側は、工事用道路があるため、調査不可能であった。カマドおよび床面の遺存状態は、さほど良好でなかった。主軸は351度を向き、主軸の長さは4.74m、幅は推定で4.64mであった。壁の深さはほとんどなかった。柱穴は、対角線上に西南の柱穴を除いて3本検出され、径45cm～55cm、深さ52cm～75cmであった。周溝は、住居東半分に全周し、おそらく未調査部分の西半分にもめぐっていたであろう。東壁の周溝に小さな穴が2基穿たれていた。覆土中から遺物がわずかに出土した。

焼土とカマド構築材からなるカマドの残骸が北壁近くから検出されたが、カマドの規模、形状を想定できるほどの遺存状態でなかった。

住居19（第32図、図版9）

調査区中央の平地、14Gグリッドの中央に位置する。周囲に他の遺構がなく、孤立した存在である。住居の大半は遺存しておらず、カマドの痕跡、およびその周辺部しか検出できなかった。径約40cmのカマドの掘り込みと、その周辺に床面らしき土の硬化面が狭い範囲内に広がっていた。おそらく、比較的小規模



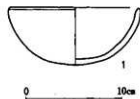
第32図 住居19・20・21

な住居であったと思われる。

カマド付近から土器が出土した。

遺物（第31図、図版27）

1は土師器杯で、2分の1が遺存している。口径は13.5cm、器高は6cmである。胎土に微細な黒色粒子と白色粒子を含む。外面をヘラ、内面をナデ、口縁をヨコナデで調整している。内外面ともに、明褐色である。焼成は良好である。



第33図 住居19出土遺物

住居20（第32図、図版9）

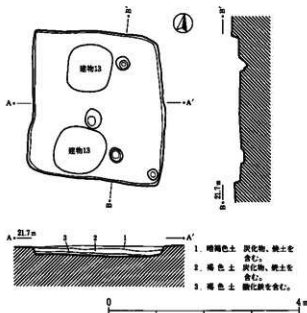
調査区中央の平地、14Fグリッドの東南側に位置する。住居の遺存状態はさほど良好でなかった。西壁は調査区の区画ラインに接していた。北壁中央にカマド掘り込みの痕があった。小規模な長方形をしており、主軸は345度を向く。主軸の長さは2.9m、幅は3.25mであった。壁の深さはほとんどなかった。径約20cm、深さ10cm～15cmの小規模な穴が2基検出された。幅15cmの狭い周溝が住居東半分にめぐり、東壁中央で一部幅広くなっていた。

カマド掘り込みの痕跡が北壁中央から検出されたが、焼土およびカマド構築材の遺存状態は顕著ではなかった。少量の遺物が覆土中から出土した。

住居21（第32図、図版10）

調査区中央南側の平地、15Gグリッドの西南側に位置する。周囲に他の遺構がなく、孤立した存在である。壁はほとんど残存しておらず、土の硬化面の範囲等を参考にして住居の範囲を想定した。小規模な正方形をしていて、主軸は2度を向く。主軸の長さは3.7m、幅は3.4mであった。壁の深さはほとんどなかった。径25cm～40cm、深さ10cm以下の小さな柱穴が3本検出された。南壁の中央付近にも、出入り口施設用と思われる穴が穿たれていた。周溝は検出されなかった。わずかな土器片が出土した。

北壁中央にカマドの浅い掘り込み痕跡が残っていたが、焼土およびカマド構築材の残存物は検出されなかった。



第34図 住居22

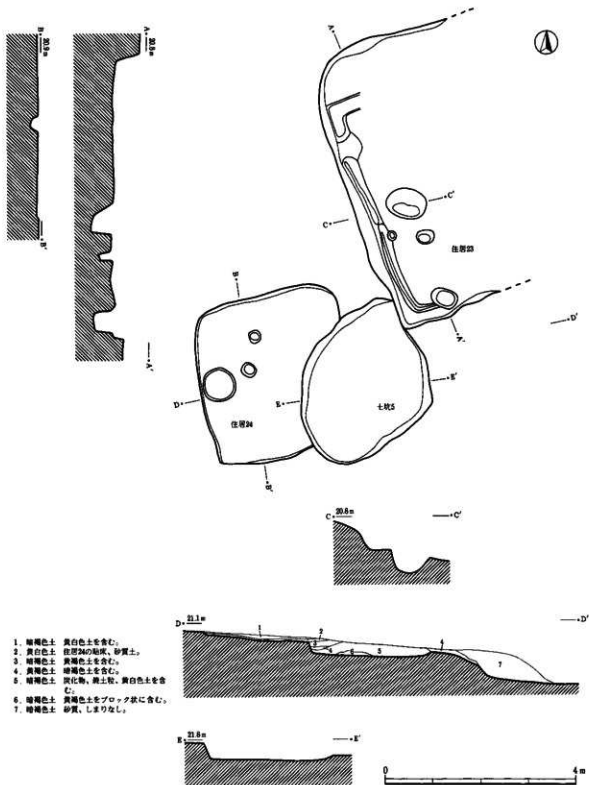
住居22（第34図、図版10）

調査区南側の段丘上、17Iグリッドの中央に位置する。建物13と重複していた。ほぼ正方形で、カマドはなかった。長軸は3.06m、短軸は2.78mであった。壁の深さは17cm～20cmであった。径約30cm、深さ5cm～15cmの小さい柱穴が不規則に配置されていた。周溝およびカマドは検出されなかった。遺物は出土し

なかった。

住居23（第35図、図版10）

調査区南側の段丘上、18Hグリッド南側と19Hグリッド北側に位置する。遺存状態は悪くて西壁のみ残存し、カマドの所在は不明であった。西南端は土坑5と接していた。残存していた西壁の長さは5.96mで、

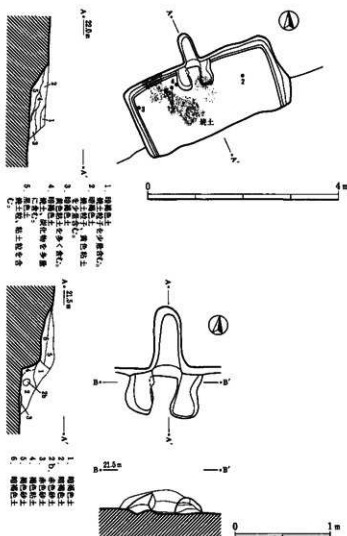


第35図 住居23・24、土坑5

壁の深さは25cm～35cmであった。柱穴が不規則に配置されていて、西壁中央付近に径70cm、深さ45cmの柱穴があり、また西南隅にも径45cm、深さ45cmの柱穴があった。周溝は西壁に沿ってめぐっていたが、北壁に関しては不明である。カマドの存在を示す焼土およびカマド構築材の粘土の残骸が検出されなかった。少量の土器片が床面上から出土した。

住居24（第35図、図版10）

調査区南側の段丘上、19Hグリッドの西北に位置している。東南部分は土坑5と重複していた。形状は正方形であるが、カマドは存在しなかった。長軸の長さは3.43m、短軸の長さは3.15mであった。壁の深さは浅く、10cmに満たない。径75cm、深さ15cmの穴が西壁中央付近にあった。その他に小さな穴が2本あった。周溝は検出されなかった。覆土中から遺物は出土しなかった。土坑5の上面に住居24の貼床があったので、土坑5（古）→住居24（新）という新旧関係が確認できた。



第36図 住居25

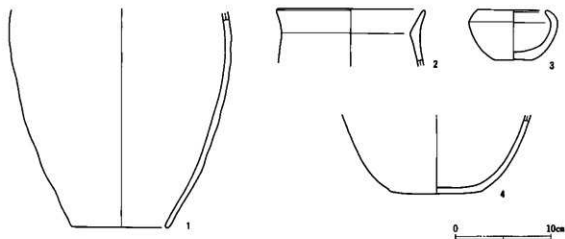
住居25（第36図、図版11）

調査区南側の段丘上、18Kグリッドの西北に位置する。北壁中央にカマドがあり、南半分は古墳（長老

塚)の周溝と重複している。現存している住居北半分から計測すると、主軸は337度を向く。主軸の長さは、残存している部分で1.56m、幅は3.26mであった。壁の深さは35cmであった。柱穴は検出されなかった。幅15.5cmの周溝が、残存している壁に全周していた。覆土中から比較的多くの遺物と、焼土および炭化物が出土した。住居廃絶後に焼却された可能性が窺える。カマドは北壁中央に位置し、遺存状態は比較的良好であった。煙導部が北壁外部にかなり突出する。

遺物(第37図、図版27)

図化できた遺物は、土師器4点であった。3は完形の鉢で、住居内西北隅から出土した。口径7.4cm、底径4cm、器高5.2cmである。器形からすると鉄鉢に相似している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面をヘラ、内面および口縁部をヨコナデ調整している。内外面ともに赤みを帯びた褐色をしていて、一部黒褐色である。焼成は良好である。1は甌の胴部で、3分の2が遺存している。底径は10cmである。胎土にやや大きい白色粒子、褐色粒子を含む。外面を縦位のヘラ調整、内面をナデで調整している。色調は内外面ともに褐色で、外面下部の一部が黒褐色である。焼成は比較的良好である。



第37図 住居25出土遺物

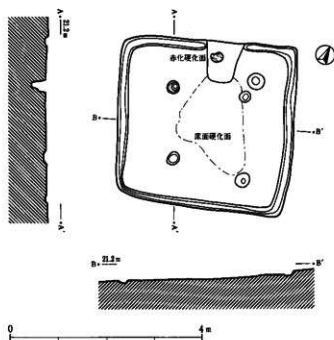
住居26(第38図、図版11)

調査区南側の段丘上、18Jグリッドの中央南側に位置する。すぐ南側に住居27が位置する。正方形をしていて北壁にカマドがあった。主軸は330度を向き、主軸の長さは3.5m、幅は3.7mであった。壁の深さは約10cm～2cmであった。対角線上に径30cm、深さ4cm～30cmの柱穴が5本あり、西北側の柱穴は2本接近して穿たれ、建て替えの可能性を示している。幅15cmの周溝が全周していた。床面硬化面がカマドの前面、柱穴に囲まれた範囲に広がっていた。少量の土器片が住居の覆土中から出土した。

カマドの遺存状態は悪く、北壁中央やや東よりにカマド底面の痕跡を確認できた。焼けて赤化した土の硬化面がカマド底面の一部に残っていた。

住居27・28(第39図、図版12)

調査区南側の段丘上、18Jグリッドの東南、19Jグリッドの東北に位置し、住居27、住居28は横に重複している。北側に住居26がある。住居27は横長の長方形をしていて、北壁にカマドがあった。主軸は331



第38図 住居26

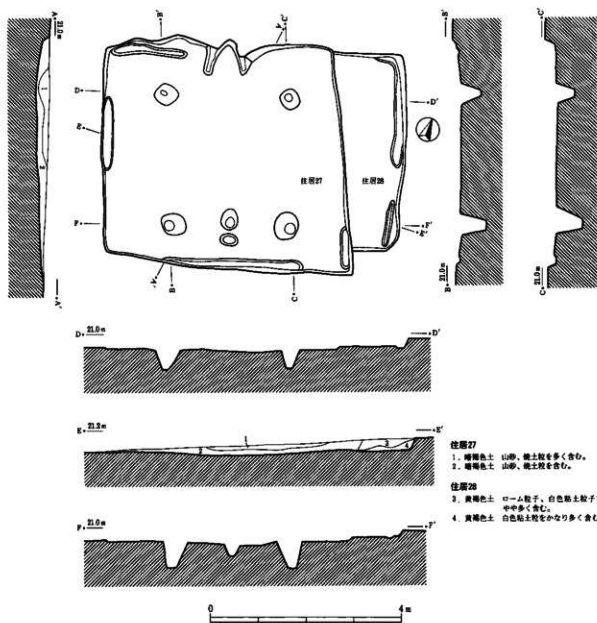
度を向き、主軸の長さは5.18m、幅は4.77mであった。壁の深さは約10cmであった。径約50cm、深さ45cmの柱穴が対角線上に4本あり、南壁中央付近に出入り口用施設のための小さい穴が2本あった。幅15cmの周溝が部分的にめぐっていた。少量の遺物が住居内覆土とカマド周辺から出土した。

カマドは北壁中央にあり、遺存状態は比較的良好であった。左右の袖は比較的小規模で、煙導部は北壁から外部へさほど突出していなかった。

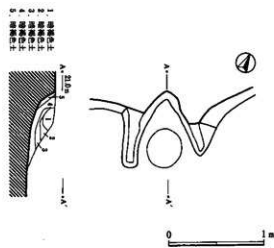
住居28は住居27の東側にあり、古墳(長老塚)の西側にある。住居の東壁のみが残存し、他の部分は住居27に破壊された。おそらく北壁にカマドがあったと思われる。主軸は、住居27と同様にほぼ北を向いていた。東壁の長さは4.13mであった。柱穴は検出されなかった。周溝は東壁の一部にめぐっていた。少量の遺物が住居内覆土から出土した。住居27と住居28の新旧関係は、土層断面の観察から住居28(古)→住居27(新)と確認できた。

遺物(第40、41図、図版27)

図化できた遺物は、住居27からは須恵器杯1点、住居28からは土師器甕1点、須恵器杯1点、鉄器1点であった。住居27の1の須恵器杯は4分の1が遺存し、口径12.9cmである。胎土に細かい砂粒を含む。外部底面はヘラ調整、その他はヨコナデ調整である。色調は内外面ともに青灰褐色であった。焼成は良好である。住居28の2の須恵器杯は5分の1が遺存し、口径は14.7cmである。外部底面はヘラ調整、その他は轆轤成形によるヨコナデ調整である。色調は内外面ともに青灰褐色であった。焼成は良好である。住居28の1の土師器甕は、口縁部が4分の1遺存している。口径は7.8cmである。外面胴上部にヘラ削り、口縁部にヨコナデ調整、内面にナデ調整を施している。色調は明褐色である。焼成は良好である。



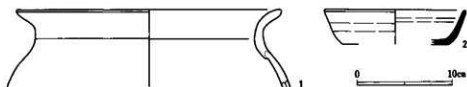
- 住居27
 1. 暗褐色土 山砂、黄土粒を多く含む。
 2. 暗褐色土 山砂、黄土粒を含む。
- 住居28
 3. 黄褐色土 ローム粒子、白色粘土粒子をやや多く含む。
 4. 黄褐色土 白色粘土粒をかなり多く含む。



第39図 住居27・28



第40図 住居27出土遺物

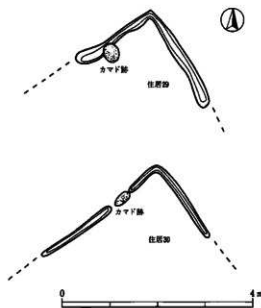


第41図 住居28出土遺物

住居29・30（第42図、図版12）

調査区南側の段丘上、19Jグリッドの東側、19Kグリッドの西側に位置し、古墳（長老塚）がその東側にある。住居29の南側に住居30があった。両住居ともに北端の周溝およびカマドの痕跡のみ残存していただけで、遺存状態はきわめて悪かった。残存していた両住居の壁の深さは10cm以下で、周溝は幅15cm～25cm、深さ約14cmであった。遺物は出土しなかった。

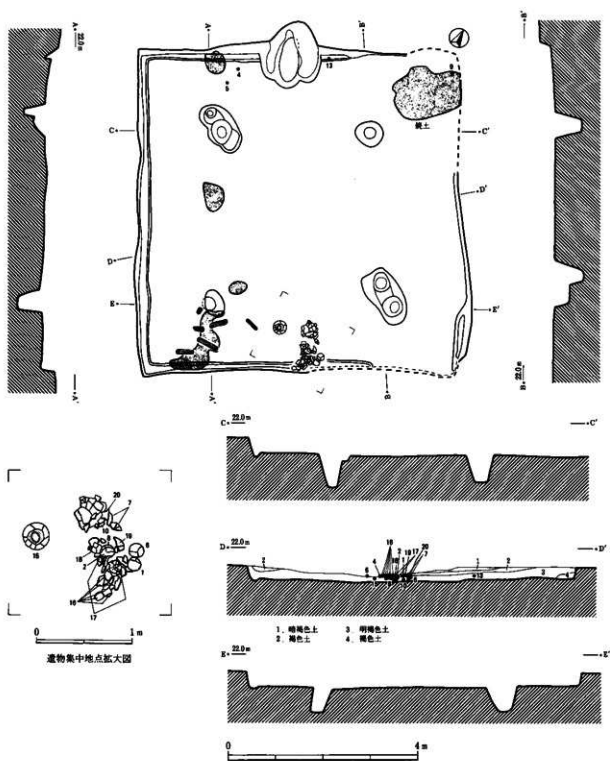
カマドの痕跡が、それぞれ北西の壁に沿って検出された。



第42図 住居29・30

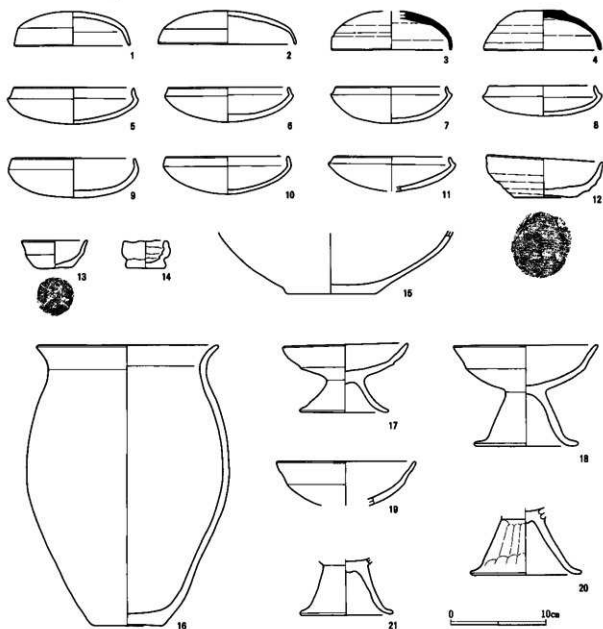
住居31（第43図、図版13）

調査区南側の段丘上、18Kグリッドの東南に位置し、古墳（長老塚）の下部から検出された。南側に住



第43図 住居31

居32が重複していた。また、北東端は削平されていた。正方形をしていて、北壁にカマドがあった。主軸は330度を向き、主軸の長さは6.8m、幅の長さは6.73mであった。壁の深さは約25cmであった。径50cm、深さ約50cmの柱穴が対角線上に4本検出され、西北および東南の柱穴は数回の建て替えの可能性が窺える。



第44図 住居31出土遺物

幅30cmの周溝が、東壁を除いて残存している壁にめぐっていた。覆土中から遺物が多く出土したが、南壁中央付近からかなり密集して出土した。住居内の東北端および西側数ヵ所に焼土が分布し、また西南の柱穴から壁にかけて炭化物が出土した。焼土と炭化物の出土状態からこの住居は焼却された可能性が窺える。南壁中央の遺物群は、棚のような容器取用施設に収納されていた容器が、取用施設の崩落とともに住居内に落下したものと思われる。

カマドの遺存状態は比較的良好であった。煙導部はさほど北壁から突出していない。

遺物（第44図、図版27、28）

図化できた遺物は、土師器17点、須恵器2点であった。3と4の蓋のみが須恵器で、その他は土師器で

ある。1の蓋は完形で、口径11.9cm、器高3.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調な内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。2の蓋はほぼ完形で、口径14.5cm、器高3.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調な内外面ともに明褐色で、一部黒褐色を帯びている。焼成は良好である。3は須恵器蓋で3分の1が遺存し、器高は12.7cmである。胎土に黒色粒子を含む。外面は調整痕が明確でないが、おそらくヘラ調整が施され、内面は轆轤成形によるナデ調整、口縁部はヨコナデ調整が施されている。色調な内外面ともに明青灰褐色である。焼成は良好である。4は須恵器蓋で4分の3が遺存し、口径は12.2cm、器高は4.2cmであった。胎土に白色粒子を含む。蓋の外面の頂部には、切り離し後にヘラ調整が施され、その周囲には回転ヘラ調整がなされている。その他の部分は轆轤成形によるヨコナデ調整が施されている。色調な内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。5の杯はほぼ完形で、口径が12.5cm、器高が3.9cmである。胎土に細かい砂粒を含む。表面の調整痕はさほど明確でないが、外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。6の杯は5分の4が遺存し、口径は12.6cm、器高は3.7cmである。胎土に細かい砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、ところどころ赤みと黒みを帯びる。焼成はやや良好である。7の杯はほぼ完形で、口径が11.7cm、器高は3.9cmである。胎土にやや大きい赤褐色粒子を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色である。焼成はやや良好である。8の杯はほぼ完形で、口径が11.6cm、器高が3.3cmである。胎土に細かい砂粒を含む。外面はヘラ調整、口縁部はヨコナデ調整を施している。内面は細かい単位のヘラナデ調整がなされていたが、暗文のような規則性はなかった。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。9の杯は4分1が遺存し、口径が12.9cm、器高が4.1cmである。胎土に白色粒子と微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。10の杯はほぼ完形で、口径が13cm、器高は3.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。11の杯は3分の1が遺存し、口径が12.2cmである。胎土に赤褐色粒子をわずかに、そして、微細な白色粒子を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。12の杯はほぼ完形で、口径が12.3cm、底径が5.8cm、器高が4.1cmである。胎土に赤みを帯びた白色粒子を少量含む。外部底面に静止糸切り痕があり、その他の部分には轆轤成形によるヨコナデ調整が施されている。色調は、赤みを帯びた褐色である。焼成は良好である。13はほぼ完形の小型の杯で、口径が6.8cm、底径が3.5cm、器高が2.9cmである。胎土に微細な白色粒子、黒色粒子を含む。内外面ともナデ調整、口縁部にはヨコナデ調整が施されていた。なお、外部底面にヘラによる×印の刻印がある。色調は、赤みを帯びた褐色である。焼成は良好である。14は手捏ねで2分の1が遺存し、口径が4.5cm、底径が4cm、器高が2.8cmである。胎土に白色粒子を含む。底部から3段階に粘土を積み上げて作成している。色調は明褐色である。焼成はやや良好である。15は甕の底部で、底径が9.5cmである。図化した部分は完全に遺存し、また遺存する上面は通常の容器のように摩滅していて、破損して分離したようには見えない。つまり、単なる底部の遺存体というのではなく、あたかも胴部から切り離して大きな皿として使用したかのようである。胎土にやや大きい白色粒子を含む。外面の

調整痕は不明瞭であるが、内部はナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。16の壺は2分の1が遺存し、口径が18.8cm、底径が7.3cm、器高が29.2cmである。胎土に比較的大きい白色粒子と灰褐色粒子を含む。胴部の外面は荒いヘラ削り、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は、外面が褐色、内面が暗褐色で一部黒褐色をしている。焼成は良好である。17はほぼ完形の高杯で、口径が13.2cm、底径が9.5cm、器高が7.1cmである。胎土に細かい砂粒を含む。調整は、皿の部分はナデ、脚部外面はヘラ削り、内面はナデ調整を行っている。色調は、赤みを帯びた褐色である。焼成は良好である。18は高杯で、皿部が2分の1欠けている。口径が15cm、底径が10.9cm、器高が10.5cmである。胎土に赤褐色の粒子を含む。調整痕はさほど明確に残っていないが、外面をヘラ調整、内面をナデ調整、皿口縁部と脚端部をヨコナデ調整している。色調は、外面が褐色、内面が褐色で一部黒褐色をしている。焼成は良好である。19は高杯の皿部で4分の1が遺存している。口径は14.7cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面をヘラ調整、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は、外面が明褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。20は高杯の脚部で、ほぼ全部が遺存する。底径は11.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面をヘラ削り、内面をナデ、端部をヨコナデ調整している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。21は高杯の脚部で5分の4が遺存し、底径が9.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。調整痕は明確に残っていないが、端部はヨコナデ調整である。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。図化できた遺物の大半、すなわち、1、2、6、7、8、10、15、16、17、18、19、20の土器が、南壁中央付近から集中して出土した。

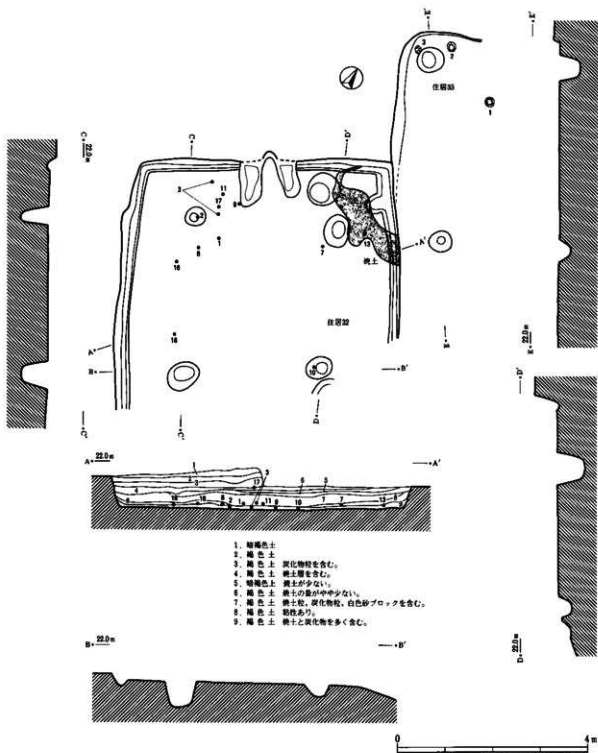
住居32（第45図、図版13）

調査区南側の段丘上、18Kグリッドの東南、18Lグリッドの西南、19Kグリッドの東北に位置し、古墳（長老塚）の下部から検出された。北壁西側の部分で住居31と重複し、東壁北側が住居33と重複していた。また、住居の南側が削平されていた。南側が削平されていたが、おそらくこの住居は正方形であっただろう。北側にカマドがある。主軸は333度を向き、長さは不明である。幅は5.95mである。壁の深さは16cm～37cmであった。径40cm～70cm、深さ17cm～56cmの柱穴が対角線上に4本検出された。東南の柱穴には、隣接してもう1本柱穴があったようで、建て替えの可能性が窺える。カマドの東側に径1.3m、深さ35cmの円形に近い貯蔵穴があった。幅25cmの周溝が残存していた壁にめぐっていた。住居の覆土中および床面近くから遺物が出土した。東北隅に焼土が分布していた。

北カマドは北壁中央に位置し、遺存状態は良好であった。袖部から支脚が出土した。煙導部は北壁から突出していない。

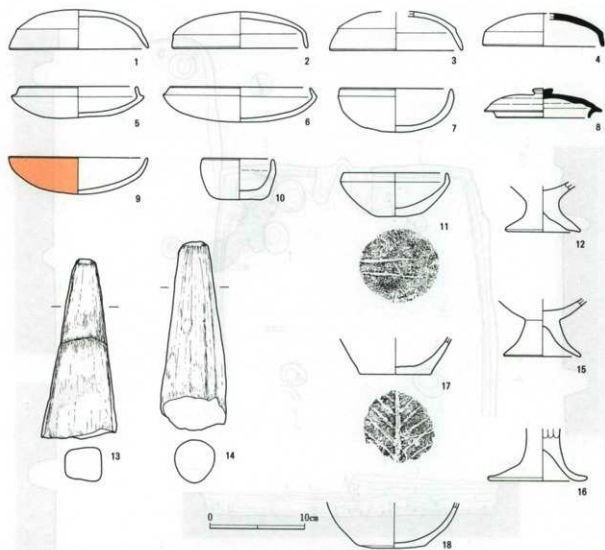
遺物（第46図、図版28）

図化できた遺物は、土師器14点、須恵器2点、支脚2点であった。1の蓋は2分の1が遺存し、口径は14.6cm、器高4.2cmである。胎土に比較的大きい白色粒子、赤色粒子を含む。外面の調整痕は不明瞭であるが、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色で一部黒褐色、内面が褐色である。焼成はやや良好である。2の蓋は4分の1が遺存し、口径は14.2cm、器高3.9cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面をヘラ調整、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。3の蓋は3分の2が遺存し、口径13.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面をヘラ調整、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は外



第45図 住居32・33

面は褐色で、内面は暗褐色である。焼成は良好である。4は須恵器蓋で3分の1が遺存し、口径が12.7cmである。微細な白色粒子とやや大きな白色粒子を含む。外面は回転ヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。8は須恵器蓋で2分の1が遺存し、口径は9.8cm、器高は3.2cmである。頂部につまみがついている。胎土に白色粒子を含む。外



第46図 住居32出土遺物

面は回転ヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。5の杯はほぼ完形で、口径が12.4cm、器高が3.3cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、外面が黒褐色、内面が明褐色である。焼成は良好である。6の杯は2分の1が遺存し、口径は14.8cm、器高は3.8cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面の調整痕は不明瞭である。内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成はやや良好である。7の杯は3分2が遺存し、口径は11.7cm、器高は4.7cmである。胎土に白色粒子、砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、外面が暗褐色、内面が明褐色である。焼成は良好である。9の杯は完形で、口径が14.5cm、器高が3.8cmである。器形からすると、蓋としての使用も否定できない。胎土に比較的大きい赤褐色粒子を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施している。色調は、外面全体に赤彩の痕跡が残っている。内面は明褐色である。焼成は良好である。10の杯はほぼ完形で、口径が7.4cm、底径が4.5cm、器高が4.2cmである。胎土に微細な白色粒子と砂粒を含む。内外面ともにナデ、

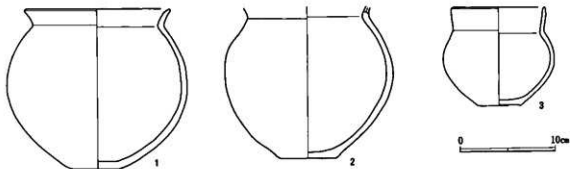
口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色で、一部黒褐色である。焼成はやや良好である。11の杯はほぼ完形で、口径が9.9cm、器高が4.5cmである。胎土に白色粒子と赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。底面に2本の平行線が刻印されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。12は高杯の脚部で、さほど欠損していない。底径が7.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面をヘラ削り、脚内部をヘラによるナデ調整、端部をヨコナデ調整している。色調は、赤みを帯びた褐色である。焼成はやや良好である。15は高杯の脚部で、2分の1が残存している。底径が8cmである。皿部と脚部の接合部分にヘラ調整、脚内部にナデ、端部にヨコナデ調整を施している。色調は明褐色である。焼成は良好である。16はほぼ完形の高杯の脚部で、底径は10.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。脚部外面は縦位のヘラ調整、内面はヘラナデ、端部はヨコナデ調整が施されていた。色調は暗褐色である。焼成は良好である。17は甕底部で、底径は7.5cmである。胎土に赤褐色粒子、微細な白色粒子を含む。外面を縦位の荒いヘラ削り、内面をヘラナデで調整している。底面には木炭痕が残存していた。色調は、内外面とも褐色である。焼成は良好である。18は甕底部で、底径は7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面の調整度は不明瞭であるが、内面はヘラナデの調整を施している。色調は、外面が明褐色、内面が黒褐色である。焼成はやや良好である。13は支脚で、住居内東北隅の焼土分布範囲から出土した。形状は細長い四角錐形で、明瞭な角がある。長さは18.5cmで、根元の径は7.5cm×6.5cmである。重量は688gである。14の支脚は、カマドの袖部から出土した。形状は細長い円錐形である。長さは19cmで、根元の径は6cmである。重量は621gである。

住居33（第45図、図版14）

調査区南側の段丘上、18Lグリッドの西南に位置し、古墳（長老塚）の下部から検出された。大部分が削平されて西壁部分しか残存しておらず、しかもその南側が住居32と重複していた。カマドの痕跡は検出されなかった。西壁の残存部分の長さは2.8mであった。壁の深さは25cm～30cmであった。径45cm～55cm、深さ23cm～35cmの柱穴が2本、西北隅と南側から検出された。周溝はめぐっていないかった。住居の覆土中および床面近くから遺物が出土した。

遺物（第47図、図版29）

図化できた遺物は土師器3点で、いずれも住居内北側の床面近くから出土した。1は完形の小型の甕で、口径が15cm、底径が4.9cm、器高が16.6cmである。胎土に微細な白色粒子と黒褐色粒子を含む。外面の調

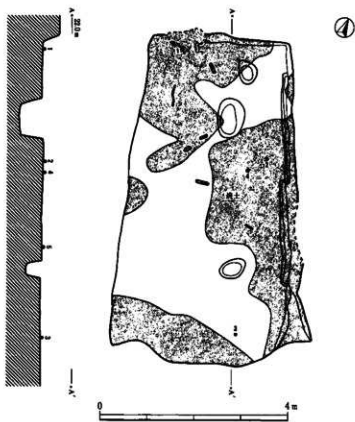


第47図 住居33出土遺物

整痕は不明瞭であるが、内面にはナデ調整痕が残る。色調は、外面が暗褐色、内面が褐色である。焼成は良好である。2は口縁部の欠損した小型の甕で、底径が6cm、現存の器高は15.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に刷毛調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤褐色で、一部暗褐色である。焼成はやや良好である。3は小型甕で2分の1が遺存している。口径が9.8cm、底径が4.5cm、器高が10.2cmである。底面がわずかながらくぼむ。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されていた。色調は、外面が褐色で一部黒褐色、内面が赤みをおびた明褐色である。焼成は良好である。

住居34（第48図、図版14）

調査区南側の段丘上、18Kグリッドの中央南側、19Kグリッドの中央北側に位置し、古墳（長老塚）の下部から検出された。東壁およびカマドの一部しか残存しておらず、他の部分は削平されていた。カマドの残骸が北壁から検出され、本来は正方形の住居であったと思われる。残存していた東壁の長さは6.3mで、壁の深さは37cmであった。柱穴が2本検出され、北側のは長軸83cm、短軸57cm、深さ20cmの楕円形状で、南側のは長軸58cm、短軸39cm、深さ31cmの楕円形状であった。北東隅に径40cm、深さ20cmの穴が検出され、この穴は貯蔵穴の可能性がある。東壁に幅20cmの周溝がめぐっていた。住居の覆土中および床面上から遺物が出土した。住居内のかかなり広い範囲に焼土および炭化物が分布していた。火災住居と言うよりも、廃絶後の焼却の可能性が強いと思われる。

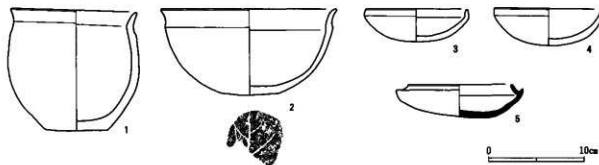


第48図 住居34

カマドは北壁に位置していたが、木根による攪乱を受けており、詳細は不明であった。

遺物（第49図、図版29）

図化できた遺物は5点あり、いずれも床面直上から出土した。土師器4点と須恵器1点である。1は完形の小型甕で、口径13cm、底径6.5cm、器高12.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面の調整痕はさほど明瞭でない。内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整をしている。色調は、外面が赤褐色、内面は暗褐色である。焼成はやや良好である。2は鉢で、4分の3が遺存し、やや歪んでいる。口径が18.2cm、底径が5.2cm、器高が8.9cmである。胎土に赤褐色粒子と暗褐色粒子を含む。調整は、外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。底面に木葉痕がある。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成はやや良好である。3はほぼ完形の杯で、口径が10.6cm、器高が3.4cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色で、一部暗褐色である。焼成は良好である。4は完形の杯で、口径が11.3cm、器高が3.9cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が明褐色、内面が黒褐色である。焼成は良好である。5はほぼ完形の須恵器杯で、口径が10.9cm、器高が3.4cmであった。胎土に黒褐色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面に轆轤成形によるナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。



第49図 住居34出土遺物

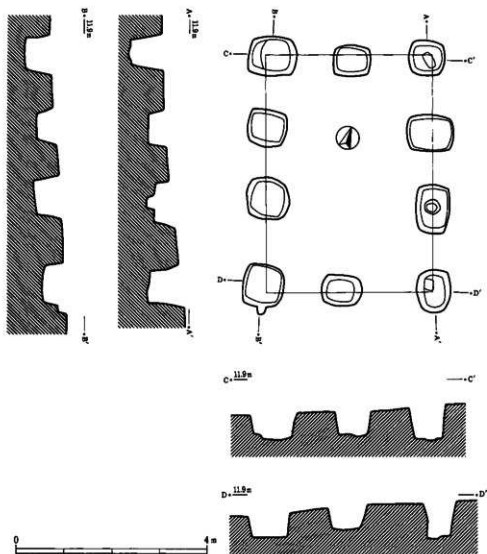
2 掘立柱建物

掘立柱建物跡は17棟あり、主に調査区中央の平地と調査区南側の段丘で確認された。特に調査区南側の段丘では、ほぼ同じ方向に軸を向ける建物が接するように検出された。

建物1（第50図、図版14、15）

調査区北側の段丘、4Cグリッド東側と4Dグリッド西側に位置する。桁行4.95m、梁行3.52mの3間×2間の建物である。1間の長さは1.7m前後である。桁行の主軸は153度を向く。柱穴の形状は、一辺80cm～100cmの四角形をしているものが多い。また、柱穴の深さは40cm～70cmと一定しておらず、柱穴の掘り方にさほど規格性は窺えない。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。



第50図 建物1

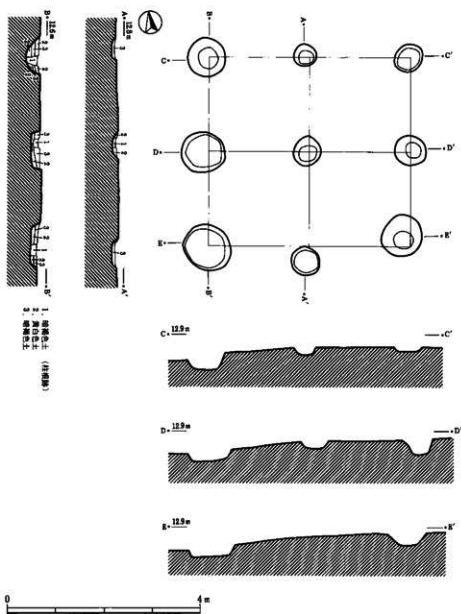
建物2 (第51図、図版15)

調査区北側の段丘、5Dグリッド西北に位置する。住居8と重複する。桁行4.24m、梁行3.93mで、ほぼ正方形の2間×2間の建物である。1間の長さは1m前後である。桁行の主軸は107度を向く。柱穴は円形で、径60cm~100cm、深さ8cm~25cmと一定しておらず、柱穴の掘り方にさほど規格性は窺えない。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

建物3 (第52、53図、図版16)

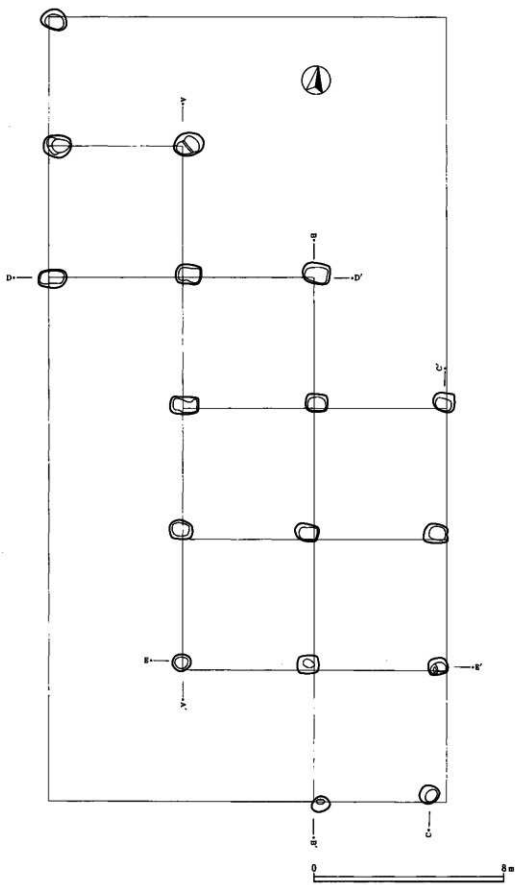
調査区中央の平地、10Eグリッド南側、11Eグリッド東側、11Fグリッド西側に位置する。住居15、16、土坑3、4と重複する。かなり規模が大きく、桁行32.66m、梁行16.8mである。桁行の主軸は172度を向



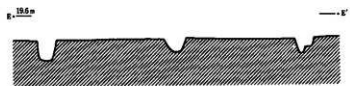
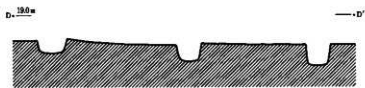
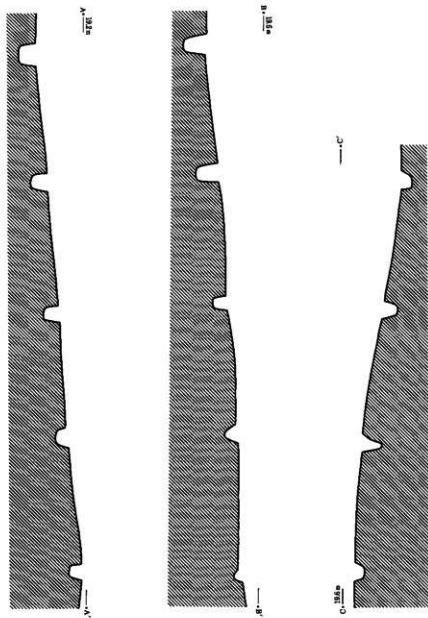
第51図 建物2

く。すべての柱穴が検出されたわけではなく、一部の柱穴のみ確認できた。桁行6間×梁行3間あり、1間の長さは約5.5mであった。柱穴の形状は、90cm×70cmの隅丸長方形をしているものが多く、円形のものもあった。柱穴の深さは40cm~100cmと、さほど一定していなかった。

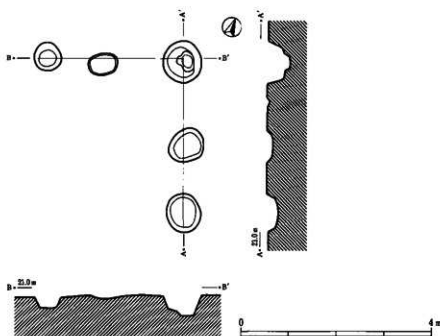
発掘担当者のメモによると、柱穴の覆土に表土とほとんど同様な土が入っており、この掘立柱建物跡が非常に新しいと考えられる。しかし、耕作者はこれほどの建物について記憶が無いと答えているので、少なくとも数十年以上は古いものと考えられる。遺物はほとんど出土せず、文字不明の古銭1枚が出土した。実際、はたして建物跡であるかどうか不明と言わざるを得ないと、記している。発掘調査時に、この遺構は明確に掘立柱建物跡と判断されなかったが、一応、報告書には記載しておくことにした。



第52图 建物3



第53図 建物3エレベーション図



第54図 建物4

建物4（第54図、図版16）

調査区中央の平地、13Fグリッドの北東に位置する。北側に住居18があり、東側に建物8がある。建物の四辺すべてが確認されたのではなく、北辺2間と東辺2間のみが判明した。判明している建物の長さは、北辺が3.02m、東辺が3.24mであった。柱穴の形状は円形で、径55cm～90cm、深さ10cm～43cmであった。柱穴の掘り方には、それほど規格性が窺えなかった。1間の長さは、約1.5mであった。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

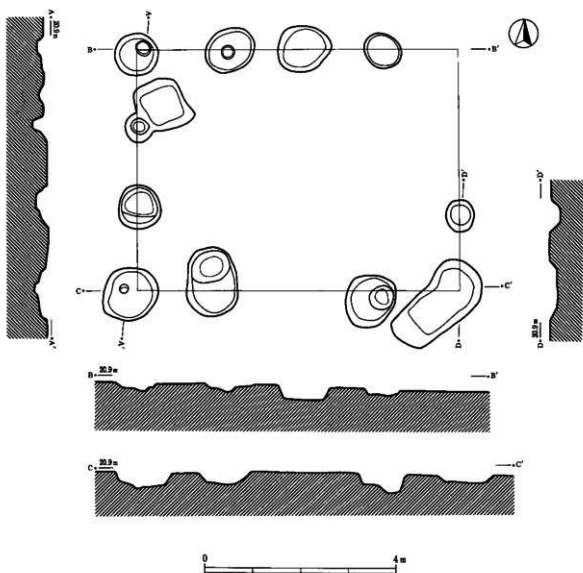
建物5（第55図）

調査区中央の平地、12Gグリッドの南西、13Gグリッドの北西に位置する。西側に建物4がある。建物のすべての柱穴が検出されたのではなく、北東部分の柱穴が検出されなかった。桁行は4間、もしくは5間で長さは6.75m、梁行は3間で長さは4.95mであった。1間の長さは約1.7mであった。桁行の主軸は89度を向く。柱穴の形状は円形であるが、径110cm～60cm、深さは13cm～37cmで、さほど掘り方に規格性は窺えない。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

建物6・7・8・10（第56図）

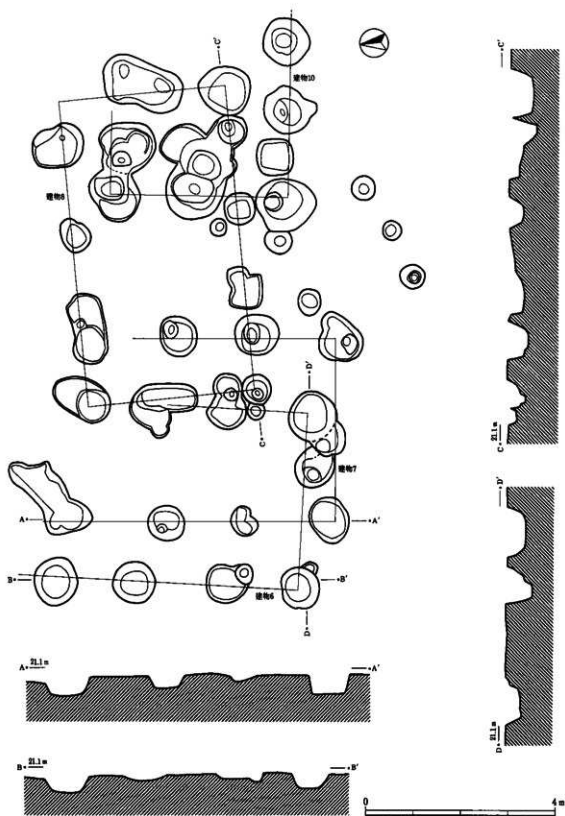
調査区中央の平地、13Gグリッドの南西に位置する。それぞれ柱穴が複雑に組み合わせ、また、完全に柱穴がそろそろものもなかった。建物9とも重複していた。建物6は建物7と重複している。北側の柱穴が不明であるが、現存する桁行の長さは5.2m、梁行の長さは3.6mである。おそらく桁行は3間、梁行は2間であっただろう。桁行の主軸は7度である。柱穴の形状は円形で、径75cm～90cm、深さは8cm～28cmであ



第55図 建物5

た。建物7は建物6、9と重複していた。北側の柱穴が不明であるが、現存する桁行の長さは5.8m、梁行の長さは3.6mである。おそらくこの建物も桁行は3間、梁行は2間であっただろう。桁行の主軸は2度である。柱穴の形状は一定しておらず、径60cm~112cm、深さは11cm~35cmであった。柱穴の掘り方に規格性が窺えない。建物8は、建物7、10と重複していた。桁行3間×梁行2間で、桁行の長さ6.26m、梁行の長さ3.5mであった。1間の長さは約1.8mである。桁行の主軸は86度である。柱穴の形状は一定しておらず、径55cm~100cm、深さ10cm~48cmであった。柱穴の掘り方に規格性が窺えない。建物10は、建物8、9と重複していた。東側の柱穴は不明である。現存する桁行の長さは3.3m、梁行の長さは3.75mである。おそらくこの建物も桁行は3間、梁行は2間であっただろう。桁行の主軸は92度である。柱穴の形状は円形で、径126cm~99cmで、深さは57cm~94cmであった。

少量の遺物が柱穴から出土したが、図化できるものはなかった。

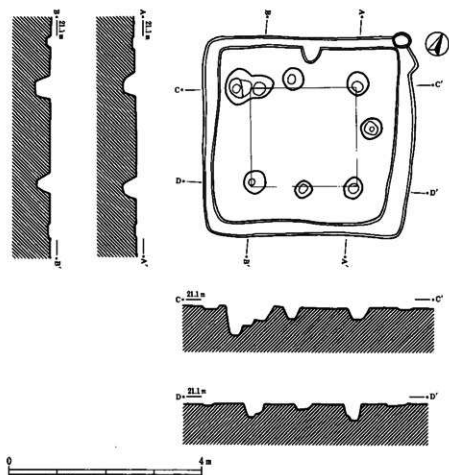


第56図 建物6・7・8・10

建物9 (第57図、図版16)

調査区中央の平地、13Gの南西に位置する。建物7、10と重複していた。形状はほぼ正方形で桁行2.22m、梁行2.02mであった。柱穴の数からすると、桁行2間×梁行1間となるが、桁行の1間の長さが1m前後とかなり狭くなる。桁行の主軸は58度を向く。柱穴の形状は円形で、径約45cm、深さ9cm~50cmであった。柱穴の周囲には浅い雨落溝がめぐっていた。

少量の遺物が柱穴と雨落溝から出土したが、図化できるものはなかった。

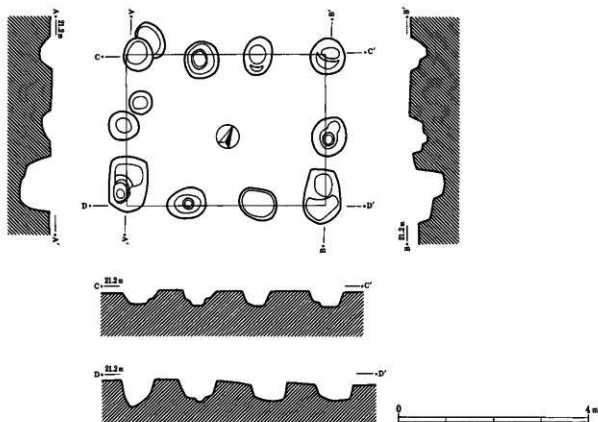


第57図 建物9

建物11 (第58図、図版17)

調査区南側の段丘上、18Hグリッド北側に位置する。周囲に他の遺構がなく、孤立した存在である。桁行4.18m、梁行3.13mの3間×2間の建物である。1間の長さは1.5m前後である。桁行の主軸は62度を向く。柱穴の形状は一定しておらず、径60cm~110cmである。柱穴の深さは17cm~60cmで、柱穴の掘り方には多少規格性は窺えない。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。



第58図 建物11

建物12 (第59図、図版17)

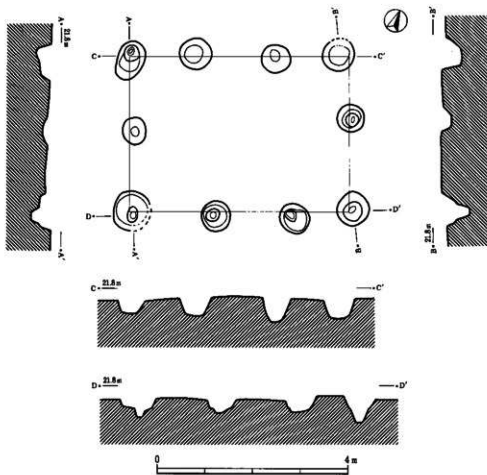
調査区南側の段丘上、17 I グリッド北側に位置する。東側に建物14、15が位置する。桁行4.65 m、梁行3.2 mの3間×2間の建物である。1間の長さは1.6 mである。桁行の主軸は74度を向く。柱穴の形状は円形で、径55 cm～80 cmである。柱穴の深さは9 cm～52 cmであった。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

建物13 (第60図、図版17)

調査区南側の段丘上、17 I グリッド中央南側に位置する。総柱型式の建物で、ほぼ正方形をしている。桁行の長さは4.23 m、梁行の長さは4 mで、2間×2間の建物である。1間の長さは2.05 mである。桁行の主軸は5度を向く。さらに西側に、この建物に付随する柱穴の存在が考えられたが、発掘調査時に確認できなかった。柱穴の形状は円形で、径55 cm～80 cmである。柱穴の深さは9 cm～52 cmであった。

少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。



第59図 建物12

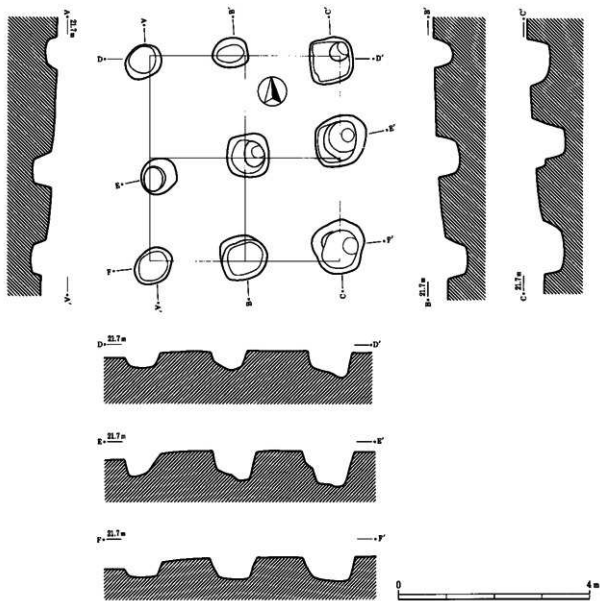
建物14 (第61図、図版18)

調査区南側の段丘上、16 I グリッド南東、16 J グリッド南西に位置する。南側に建物15が、南東側に建物12が位置する。桁行5.1m、梁行3.33mの3間×2間の建物である。1間の長さは1.68m前後である。桁行の主軸は84度を向く。柱穴の形状は円形で、径60cm～95cmである。柱穴の深さは15cm～56cmであった。少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

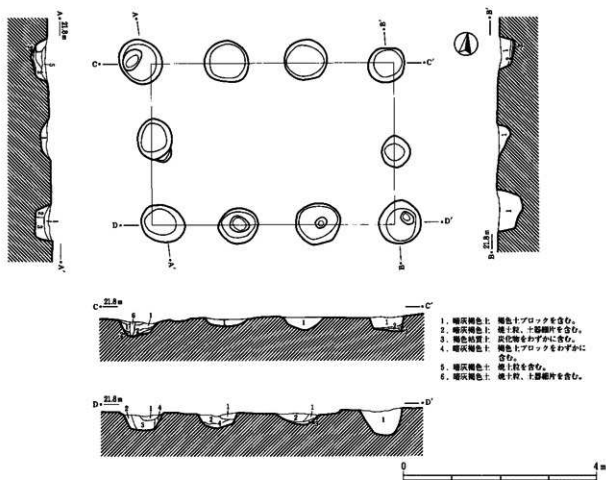
建物15 (第62図、図版18)

調査区南側の段丘上、17 I グリッド北東、17 J グリッド北西に位置する。北側に建物14が、北西側に建物12が、東側に建物16が、南東側に建物17がある。あたかも建物群の中心に位置するかのようである。桁行10.1m、梁行5.1mの5間×3間の比較的大きな建物である。1間の長さは1.85m前後である。桁行の主軸は168度を向く。柱穴は比較的小規模で、径40cm～56cmの円形である。柱穴の深さは12cm～57cmであった。

少量の土器片が出土したが、図化できるものはなかった。



第60圖 建物13



第61図 建物14

建物16 (第63図、図版18、19)

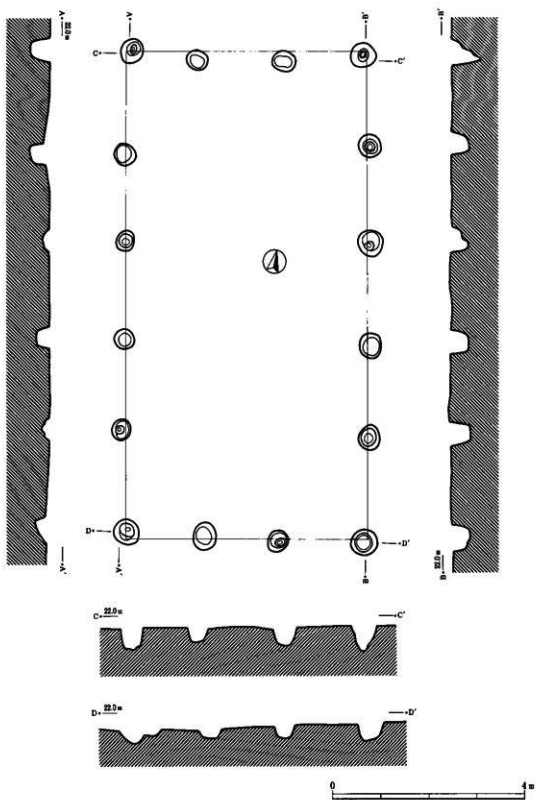
調査区南側の段丘上、17 J グリッド北側に位置する。西側に建物15が、南側に建物17が位置する。建物にともなうすべての柱穴が検出できたわけではなく、南西部分の柱穴4本のみが確認されただけである。柱穴の形状は円形で、径75cm~100cmである。柱穴の深さは65cm~95cmであった。

少量の土器片が出土したが、図化できるものはなかった。

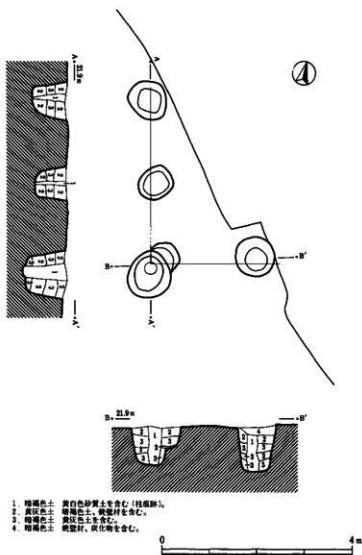
建物17 (第64図、図版19)

調査区南側の段丘上、17 J グリッド中央に位置する。北側に建物16が、北西側に建物15が位置する。桁行6.54 m、梁行4.2 mの4間×3間の建物である。1間の長さは1.52 m前後である。桁行の主軸は167度を向く。柱穴の形状は円形で、径62cm~96cmである。柱穴の深さは31cm~85cmであった。

少量の土器片が出土したが、図化できるものはなかった。

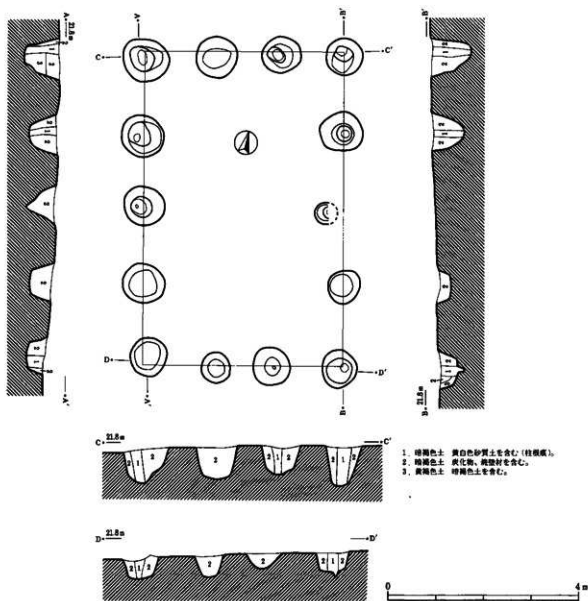


第62图 建物15



1. 暗褐色土 黄白色砂質土を含む。(柱基礎)。
2. 黄褐色土 暗褐色土、炭質材を含む。
3. 暗褐色土 黄褐色土を含む。
4. 暗褐色土 炭質材、炭化物を含む。

第63図 建物16



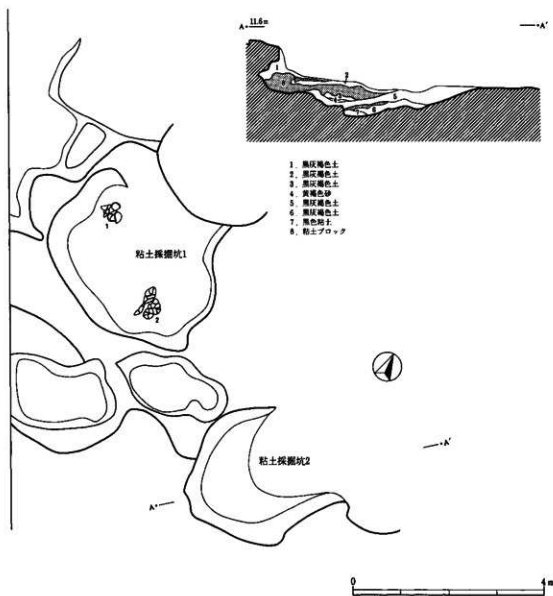
第64図 建物17

3 粘土採掘坑

粘土採掘坑は2基あり、調査区北側にある段丘の北側斜面から確認された。とりあえず採掘坑を2基としたが、その周辺は複雑な形状をしており、数回にわたって採掘が行なわれたと思われる。

粘土採掘坑1・2（第65図、図版20）

調査区北側の段丘の北側斜面、4 Bグリッド東側と4 Cグリッド西側に位置する。南側に住居2が位置する。比較的大きな採掘坑を2基検出したが、周辺には小さな採掘坑が数基存在し、何回も粘土の採掘が行なわれたと思われる。粘土採掘坑1は、円形に近い形状をしており、3.7m×3mの大きさであった。少量の土器片が出土した。粘土採掘坑2は半円形状をしており、2.9m×2.7mの大きさであった。深さは1.5mあり、粘土層と黒灰褐色土層が交互に堆積していた。少量の遺物が出土した。採掘された粘土は、土器製作に使用されたのではなく、おそらく住居内のカマド構築材として使用されたのではないかと思われる。粘土採掘坑の遺物に鉄滓（スラグ）も含まれていたため、製鉄に関連して粘土を採掘したのかもしれない。



第65図 粘土採掘坑1・2

遺物（第69図、図版29）

粘土採掘坑1から出土した遺物の中で、2点が図化できた。2点とも土師器甕であった。1は底部を欠いた甕で5分の4が遺存している。口径が22.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面を縦位の荒いヘラ削り、内面をナデ、口縁をヨコナデ調整している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。2の甕は2分の1が残存し、口径17.2cm、底径7.4cm、器高28.2cmである。胎土に黒色粒子、白色粒子、微細な砂粒を含む。外面を縦位のヘラ削り、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は、外面が褐色、内面が暗褐色、一部黒褐色である。焼成は良好である。

4 土坑

土坑は数多く検出されたが、そのうちの明らかに遺構と思われるものを、報告書に取り上げた。結局、報告書に掲載した土坑は6基である。土坑から出土した遺物は少なかった。図化できた遺物および遺跡全体の性格、時期から、これらの土坑を古墳時代から奈良時代のもものと想定しておく。

土坑1（第27図、図版7）

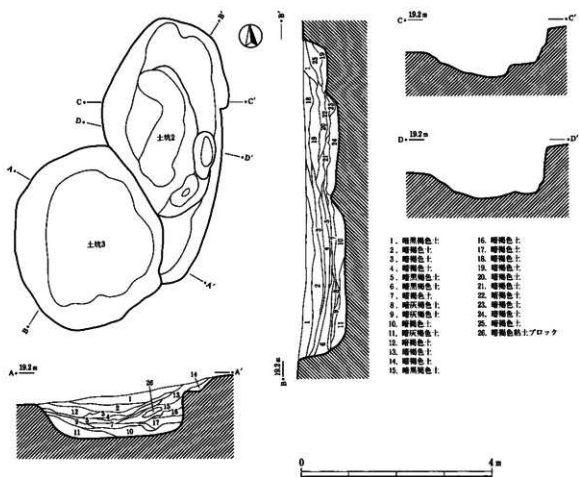
調査区中央の平地、10Eグリッドのほぼ中央に位置する。南側に住居15、16が位置する。長方形をしているが、南東の1辺が不明瞭であった。長軸の長さは3mで、短軸の長さは2.35mであった。壁の深さは浅く、13cm以下であった。南東の壁はなかった。土坑の中央に楕円形状をした小さな穴があり、径50cm～30cm、深さは7cmであった。土坑北端部に焼土が分布し、カマドの存在も考えられたが、焼土の堆積層は浅いので、その可能性はない。遺物は出土しなかった。

土坑2、3（第66図、図版7）

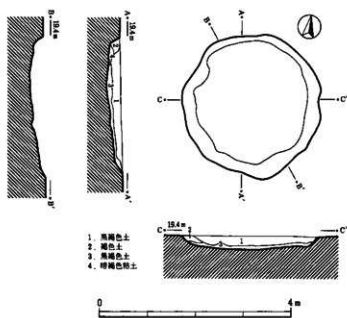
調査区中央の平地にあり、土坑2は11Fグリッドの西南、土坑3は11Eグリッドの東南、11Fグリッドの西南に位置する。建物3の南部分に位置し、南側に土坑4がある。土坑2の西南部分と土坑3の東北部分が重複していた。土坑2は楕円形状をしていて、長軸の長さは5.5m、短軸の長さは2.5mであった。深さは92cmであった。底面は数段の階段状になっていた。覆土中から少量の土器片が出土した。土坑3は円形状をしていて、径3.1m～3.83mであった。深さは90cmであった。覆土中から遺物が出土した。土層の堆積状態を見ると、2つの土坑の前後切り合い関係は不明瞭であり、両者はほぼ同時期に存在したと思われる。発掘担当者のメモによると、この2基の土坑は、粘土採掘坑の可能性が考えられる。

遺物（第69図）

土坑2から出土した土器のうち1点が、土坑3から出土した土器のうち3点が図化できた。土坑2-1は須恵器の高台付杯で、5分の1が遺存している。底径が9.4cmである。胎土に微細な砂粒とやや大きい白色粒子を含む。外面および内面は轆轤成形によるヨコナデ調整を施し、底面外部には回転ヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。土坑3-1は土師器の杯で、5分の1が遺存している。口径15.6cm、器高5.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面をヘラ調整、内面をナデ、口縁部をヨコナデ調整している。色調は、外面が黒褐色と明褐色で、内面が黒褐色をしている。焼成はやや良好である。土坑3-2は土師器高杯の脚で、図化した部分のほぼ全体が遺存している。底径が10.8cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面は縦位の荒いヘラ削り、内面はヘラナデ、脚端部はヨコ



第66図 土坑 2・3



第67図 土坑 4

ナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。土坑3-3は土師器台杯裏の脚で、図化した部分のほぼ全体が遺存している。底径が9.4cmである。胎土に白色粒子、褐色粒子を含む。外面は縦位の荒いヘラ削り、内面はヘラナデ、脚端部はヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色、内面が褐色である。焼成はやや良好である。

土坑4（第67図）

調査区中央の平地、11Eグリッド、11Fグリッド、12Eグリッド、12Fグリッドの交点に位置する。北側に土坑3がある。円形状をしていて、径2.88m～2.98m、深さ29cmであった。少量の遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

土坑5（第35図、図版10）

調査区南側の段丘上、19Hグリッドの北西に位置する。東北端を住居23と、西側を住居24と重複する。楕円形に近い不規則な形状をしていて、長軸の長さが3.55m、短軸の長さが2.75mであった。深さは30cmであった。住居23との新旧関係は不明であるが、住居24との新旧関係は、土層断面の観察から土坑5（古）→住居24（新）という関係が確認できた。少量の遺物が出土した。

遺物（第69図、図版30）

図化できた遺物は須恵器1点であった。土坑5-1はほぼ完形の須恵器蓋で、口径16.2cm、器高3.8cmであった。胎土に白色粒子を含む。外面は回転ヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が明灰褐色と暗灰褐色で、内面が明灰褐色である。焼成はやや良好である。

土坑6（第68図）

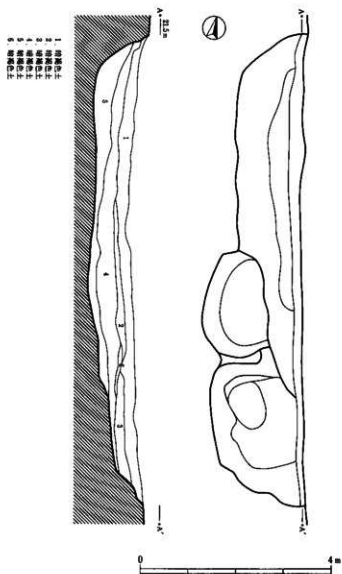
調査区南側の段丘上、18Jグリッドの東南に位置する。古墳（長老塚）の西側周溝と重複している。住居28が西側に位置する。いくつかの土坑が集合するような形態をしていた。長さは12.23m、深さは1.28mであった。覆土中から少量の遺物が出土した。

遺物（第69図、図版30）

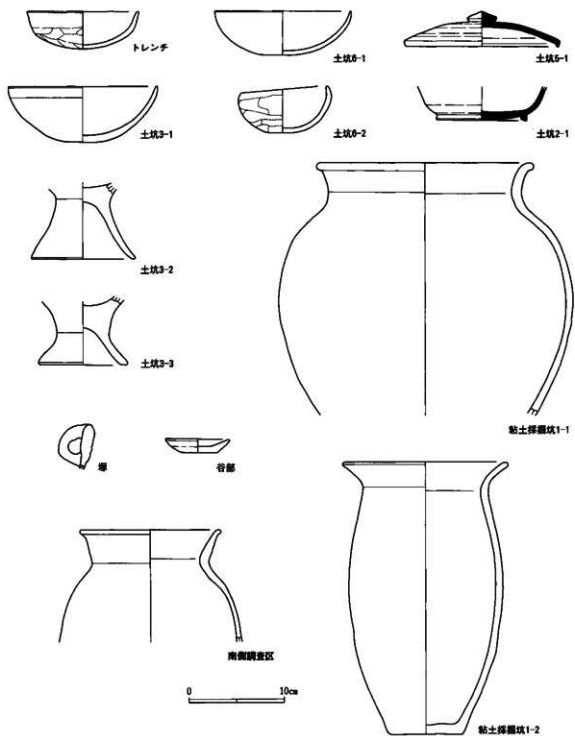
図化できた遺物は2点あった。2点とも土師器杯である。1の杯はほぼ完形で、口径14.3cm、器高4.7cmである。胎土に大きい赤褐色粒子を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。色調は、外面が褐色と黒褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。2の杯もほぼ完形で、口径9.2cm、器高4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面はヘラ調整、内面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。色調は、外面が暗褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。

5 古墳（長老塚）

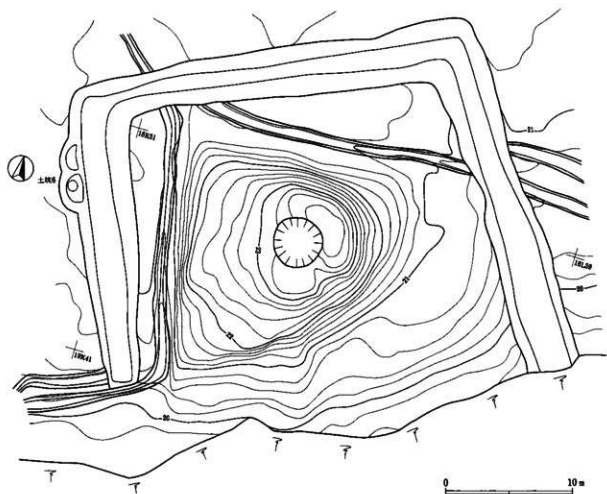
調査区南側の段丘上、17Kグリッド、17Lグリッド、18Jグリッド、18Kグリッド、18Lグリッド、19Kグリッド、19Lグリッドに位置する。墳丘はかなり削平されていて、本来の原形をとどめていなかった。残存していた墳丘の形態からは、墳形を予想できないほどであったが、周溝が方形に巡っていたので、本来は方墳であったと考えられる。墳丘下からは住居31・32・33・34が検出された。南側は水田開発時に削平されてしまったようで、周溝すらも検出できなかった。



第68图 土坑 6



第69図 粘土採掘坑・土坑及びその他の遺構出土遺物

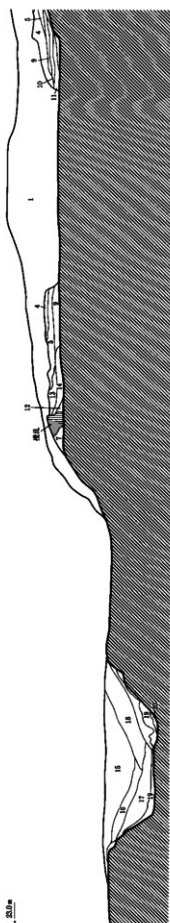


第71図 古墳（長老塚）表土除去後

墳丘と周溝（第70～73図、図版20～23）

残存していた墳丘底部の平面形態は直角三角形状で、墳丘上部の形態は円形であった。後世に作られたと思われる小道が墳丘東側を南北に、またもう1本墳丘北側に東西に走っている。これらの小道を開削する際に墳丘が削平されたのであろう。また、墳丘南部および東南部は、水田などの閉塞によって削平されたのであろう。表土除去後の墳丘の大きさは、横幅約21m、縦幅約19mであった。墳丘の高さは約2.6mであったが、墳丘周辺が削平されていたので、墳丘の本来の高さは、もう少し低かったであろう。墳頂部には径4m、深さ40cmほどの大きな盗掘坑があった。墳丘の遺存状態のよいところを見ると、主に白色粘土と黄褐色粘土を突き固めて、3cm～15cmの薄い土層を積み上げた版築構造であった。特に、玄室の石材抜き取痕周辺に石材を固定するための版築面が顕著に残存していたが、削平や木の根による攪乱によってかなり破壊されていた。このように残存していた墳丘からは、本来の墳形を予測するのはきわめて困難であった。

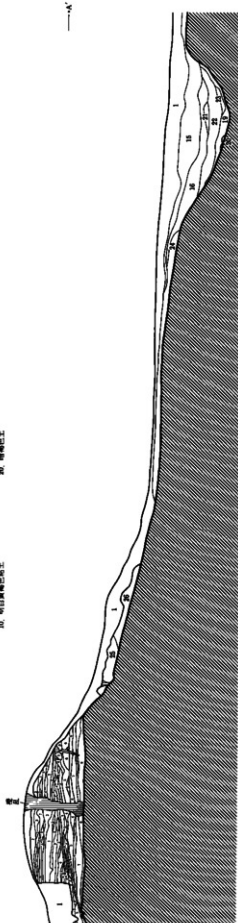
周溝は、墳丘の南側を除いて、西側、北側、東側に周溝が巡っていた。東側の周溝は長さ23.8m、幅3m～5m、北側の周溝は長さ33.1m、幅3m～4m、東側の周溝は長さ29m、幅3m～4mであった。南



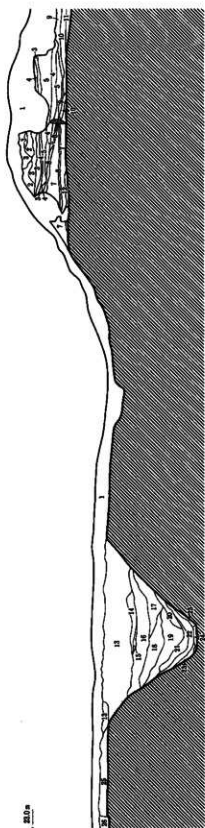
- 1. 赤褐色土
- 2. 赤褐色土上におよぶ赤褐色砂質土
- 3. 赤褐色土
- 4. 白褐色土
- 5. 赤褐色土
- 6. 赤褐色土
- 7. 赤褐色土
- 8. 赤褐色土
- 9. 赤褐色土
- 10. 赤褐色土
- 11. 赤褐色土

- 11. 赤褐色土
- 12. 赤褐色土
- 13. 赤褐色土
- 14. 赤褐色土
- 15. 赤褐色土
- 16. 赤褐色土
- 17. 赤褐色土
- 18. 赤褐色土
- 19. 赤褐色土
- 20. 赤褐色土

- 21. 白色土
- 22. 赤褐色土
- 23. 赤褐色土
- 24. 赤褐色土
- 25. 赤褐色土
- 26. 赤褐色土
- 27. 赤褐色土
- 28. 赤褐色土
- 29. 赤褐色土
- 30. 赤褐色土



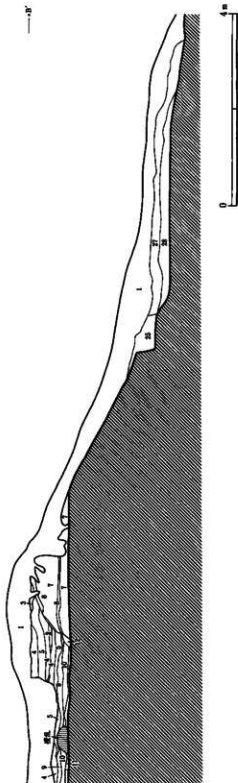
第72図 古墳断面図 (東西)



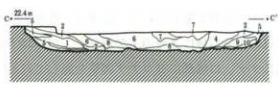
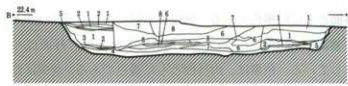
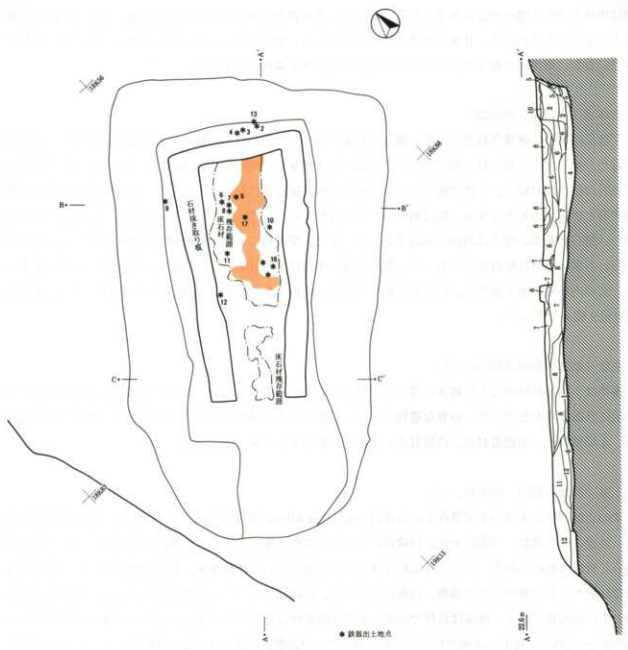
1. 表土層
 2. 黄褐色粘土および黄褐色粘質土
 3. 黄褐色粘土
 4. 黄褐色粘土
 5. 白色粘土
 6. 黄褐色粘土
 7. 黄褐色粘土
 8. 黄褐色粘土
 9. 黄褐色粘土
 10. 黄褐色粘土

11. 灰褐色粘土
 12. 灰褐色土
 13. 黄褐色粘土
 14. 黄褐色粘土
 15. 白色粘土(ブロンズ)
 16. 黄褐色粘土
 17. 黄褐色粘土
 18. 黄褐色粘土
 19. 黄褐色粘土
 20. 黄褐色粘土

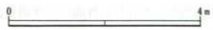
21. 黄褐色土
 22. 黄褐色粘質土
 23. 黄褐色粘質土
 24. 黄褐色粘質土
 25. 黄褐色粘質土
 26. 黄褐色粘質土
 27. 黄褐色粘質土
 28. 黄褐色粘質土



第73図 古墳断面図(南北)



- 1. 黄褐色土
- 2. 白黄色粘土
- 3. 黑褐色土
- 4. 白色粘土
- 5. 黑色土
- 6. 白黄色粘土
- 7. 黄褐色土
- 8. 褐色土
- 9. 白黄褐色粘土
- 10. 黑褐色土
- 11. 赭状褐色土
- 12. 暗褐色土



第74图 古墳主体部

側は周溝を含めて墳丘周辺が削平されていたので、発掘調査で確認された周溝は、幅、深さとももう少し大きかったと思われる。北側の周溝の内法の長さから、墳丘の1辺の長さは、約36mであったと予想できる。なお、周溝内の覆土からは古墳の時期が推定できる遺物が出土した。

主体部（第74図、図版23）

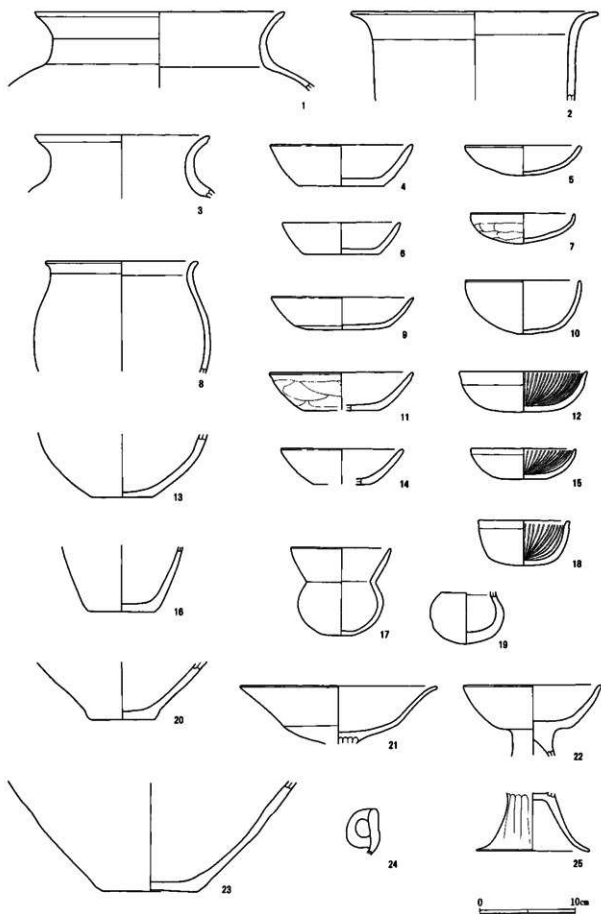
主体部は完全に破壊されていたが、横穴式石室であったと思われる。横穴式石室は周辺を半地下式に掘り窪めた掘り方中に築かれ、掘り方の大きさは、長さ約9m、幅5.8m～5mであった。その中にわずかに側石の抜き取り痕と、主体部構築のための掘り込みが確認されただけであった。石の抜き取り痕から推測すると、玄室の長さは5m、幅は奥壁のところで1.77m、玄門のところで1mを測る。石の抜き取り痕から、壁石の基部の厚さは34cm～57cmであった。また、攪乱層に多数の軟質砂岩の破片が残っていたことから、石室の石材は軟質砂岩であったと思われる。床面は床石材の一部が残存し、赤色を呈する部分もあった。玄室内からの出土遺物は、わずかに鉄鏝が13点、鉄鏝の茎部分が2点見つかっただけである。羨道は長さ約2.85mであった。

遺物（第75～78図、図版31、32）

遺物は、副葬品以外は主に周溝の覆土及び墳丘の表土から出土した。土師器と須恵器が大半を占め、その他に鉄器6点が出土した。特異な遺物として、石製の巡方が墳丘表土中から出土した。図化できた遺物は、土師器24点、須恵器41点、鉄器21点、その他の製品3点であった。

土器（第75～77図、図版31、32）

4の土師器杯は4分の1が遺存し、口径14.9cm、底径9.0cm、器高4.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。5の土師器杯は4分の1が遺存し、口径12.1cm、器高3.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。6の土師器杯は3分の1が遺存し、口径12.3cm、底径7.8cm、器高3.3cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。7の土師器杯は3分の2が遺存し、口径10.9cm、器高3.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。9の土師器杯は3分の2が遺存し、口径14.8cm、底径8.8cm、器高3.4cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。10の土師器杯は4分の3が遺存し、口径11.9cm、器高5.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色で一部黒褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。11の土師器杯は3分の1が遺存し、口径15.1cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。12の土師器杯は4分の1が遺存し、口径13.2cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコ

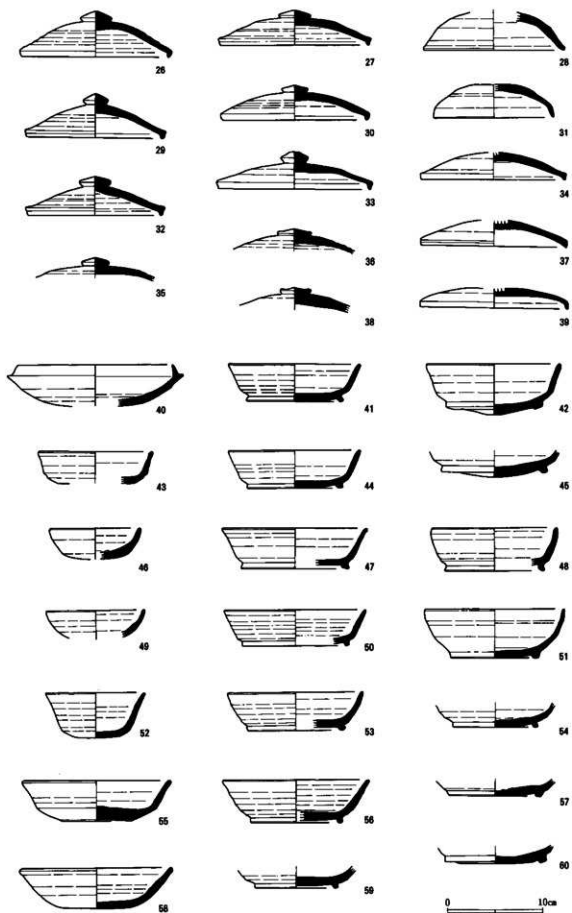


第75図 古墳出土遺物(1)

ナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。14の土師器杯は5分の1が遺存し、口径12.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整とナデ、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。15の土師器杯は3分の2が遺存し、口径11.1cm、器高3.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にナデ、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。18の土師器杯は3分の2が遺存し、口径9.4cm、器高4.7cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。17の土師器増は3分の2が遺存し、口径10.4cm、底径1.7cm、器高9.1cmである。胎土に白色粒子を含む。内外面ともにナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。19の土師器増は3分の2が遺存し、口縁部が欠けている。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面ともにナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。21の土師器高杯は、皿部分の3分の1が遺存し、口径20.4cmであった。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面ともにナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。22の土師器高杯は、皿部分の3分の1が遺存し、口径14.3cmであった。胎土に微細な砂粒を含む。外面にナデ、脚部にヘラ削り、内面にヘラナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。25の土師器高杯は、脚部のみが遺存し、底径11.9cmであった。胎土に赤褐色粒子を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラ調整、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。24は内耳の把手である。1の土師器甕口縁部は5分の1が遺存し、底径26.0cmであった。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。2の土師器甕口縁部は5分の1が遺存し、口径25.8cmであった。胎土に黒色粒子、赤褐色粒子、微細な白色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。3の土師器甕口縁部は4分の1が遺存し、口径18.1cmであった。胎土に赤褐色粒子を少し含む。口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。8の土師器甕胴上部は4分の1が遺存し、口径15.7cmであった。胎土に白色粒子を少し含む。外部に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。13の土師器甕底部は5分の1が遺存し、底径6.4cmであった。胎土にやや大きい白色粒子と黒色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成はやや良好である。16の土師器甕底部は5分の1が遺存し、底径6.7cmであった。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成はやや良好である。20の土師器甕底部は5分の1が遺存し、底径6.6cmであった。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成はやや良好である。23の土師器甕底部は3分の1が遺存し、底径9.8cmであった。胎土に白色粒子を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

26の須恵器蓋は5分の4が遺存し、口径15.6cm、器高4.9cmである。胎土に白色粒子、褐色粒子をわず

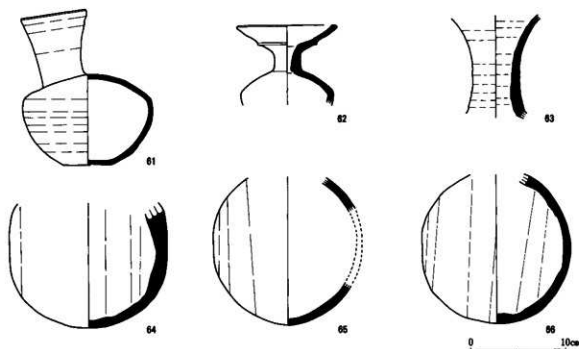
かに含む。外面に回転ヘラ調整と轆轤成形によるヨコナデ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は灰褐色、内面は明灰褐色である。焼成は良好である。27の須恵器蓋は6分の5が遺存し、口径15.8cm、器高3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。28の須恵器蓋は5分の1が遺存し、口径14.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。29の須恵器蓋は2分の1が遺存し、口径14.2cm、器高4.7cmである。胎土に白色粒子、褐色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。30の須恵器蓋は4分の3が遺存し、口径15.2cm、器高3.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面の調整痕はさほど明らかでなかったが、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面に自然釉が付着し、内面は明灰褐色である。焼成は良好である。31の須恵器蓋は6分の1が遺存し、口径12.7cmである。胎土に白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。32の須恵器蓋は4分の1が遺存し、口径13.8cm、器高4.1cmである。胎土に微細な白色粒子と黒色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。33の須恵器蓋は3分の1が遺存し、口径16.1cm、器高3.9cmである。胎土に微細な白色粒子と黒色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。34の須恵器蓋は4分の1が遺存し、口径15.2cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面の調整痕はさほど明確でないが、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面に自然釉が付着し、内面は灰褐色である。焼成は良好である。35の須恵器蓋は4分の1が遺存している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。36の須恵器蓋は4分の1が遺存している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整と轆轤成形によるヨコナデ、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。37の須恵器蓋は2分の1が遺存し、口径15.4cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は灰褐色、内面は青灰褐色である。焼成は良好である。38の須恵器蓋は4分の1が遺存している。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ調整を施している。色調は、外面に自然釉が付着し、内面は灰褐色である。焼成は良好である。39の須恵器蓋は3分の1が遺存し、口径15.5cmである。胎土に微細な黒色粒子と白色粒子を含む。外面の調整痕はさほど明確でないが、内面にナデ調整を施している。色調は、外面は暗灰褐色、内面は灰褐色である。焼成は良好である。40の須恵器杯は4分の1が遺存し、口径16.2cmである。胎土に微細な白色粒子とやや大きい褐色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。41の須恵器高台付杯は7分の6が遺存し、口径13.7cm、底径10cm、器高3.9cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は灰褐色、内面は明灰褐色である。焼成は良好である。42の須恵器高台付杯は5分の4が遺存し、口径14.2cm、底径10.2cm、器高5.2cmである。胎土に暗褐色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転



第76図 古墳出土遺物(2)

ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は暗灰褐色、内面は明灰褐色である。焼成は良好である。43の須恵器杯は6分の1が遺存し、口径12.0cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部にヘラ切り離し、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。44の須恵器高台付杯は3分の2が遺存し、口径13.8cm、底径10.2cm、器高3.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。45の須恵器高台付杯は4分の1が遺存し、底径11.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。底部外面に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。46の須恵器杯は4分の3が遺存し、口径9.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部にヘラ切り離し、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。47の須恵器高台付杯は5分の1が遺存し、口径15.2cm、底径11.4cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部にヘラ切り離し、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。48の須恵器高台付杯は7分の1が遺存し、口径13.2cm、底径10.4cm、器高4.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。49の須恵器杯は7分の1が遺存し、口径10.4cmである。器形からすると蓋の可能性もある。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。50の須恵器高台付杯は7分の1が遺存し、口径15.0cm、底径11.3cm、器高3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。51の須恵器高台付杯は7分の1が遺存し、口径14.6cm、底径9.2cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、内面にナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。外面底部の調整痕はさほど明確でなかった。色調は、外面は暗灰褐色、内面は明灰褐色である。焼成はやや良好である。52の須恵器杯は5分の1が遺存し、口径10.4cm、底径4.5cm、器高4.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。53の須恵器高台付杯は5分の1が遺存し、口径14.4cm、底径10.2cm、器高4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。54の須恵器高台付杯は5分の1が遺存し、底径9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗灰褐色である。焼成はやや良好である。55の須恵器杯は5分の1が遺存し、口径15.6cm、底径7.2cm、器高4.2cmである。胎土にやや大きい白色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ調整、外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。56の須恵器高台付杯は4分の1が遺存し、口径15.6cm、底径9.8cm、器高4.4cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面に

ナデ、口縁部と脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。57の須恵器高台付杯は底部で、底径9.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は暗灰褐色で、内面は灰褐色である。焼成は良好である。58の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径16cm、器高4.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面の調整痕は不明確であるが、内面に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色で、一部褐色をおびている。焼成はやや良好である。59の須恵器高台付杯底部は、底径8.8cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。60の



第77図 古墳出土遺物(3)

須恵器高台付杯底部は、底径10.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面底部に回転ヘラ切り離し痕、内面にナデ、脚部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面は暗灰褐色で、内面は灰褐色である。焼成はやや良好である。

61はほぼ完形の須恵器平瓶で、口径6.9cm、底径4.9cm、器高16.2cmである。胎土に黒色粒子と白色粒子を含む。外面胴部下部は回転ヘラ調整、胴部上部と口縁部は轆轤成形によるヨコナデ調整である。色調は青灰褐色で、胴部上面に自然釉が付着している。焼成は良好である。62は口縁部から胴上部にかけての破片である。口径は10.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともにヨコナデ調整を施している。色調は灰褐色で、口縁部上面および胴部上面に自然釉が付着している。焼成は良好である。63は、おそらく横瓶の口縁部と思われる。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともにヨコナデ調整を施している。色調は灰褐色で、外面の一部に自然釉が付着している。焼成は良好である。64は横瓶の胴部で、5分の1が遺存

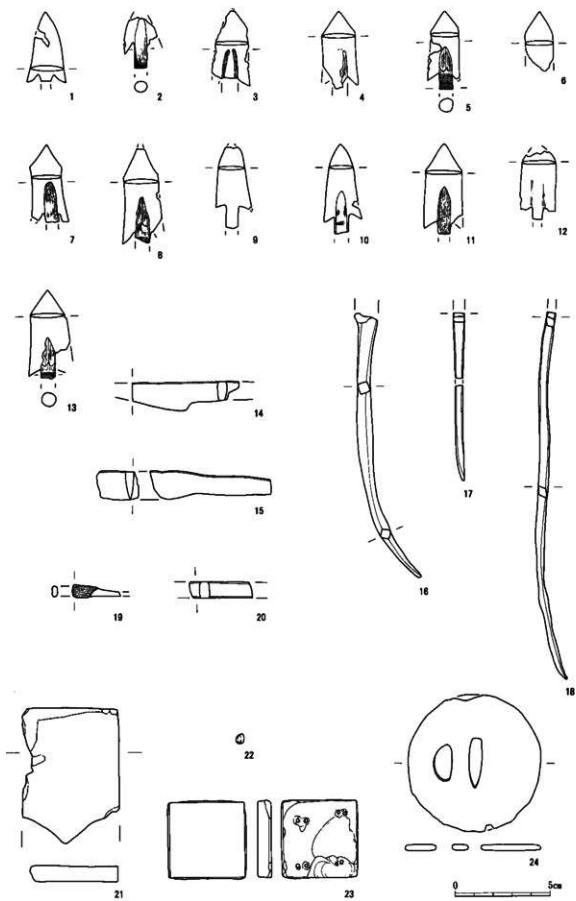
している。ほぼ球形の胴部である。胎土に黒色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、左右の胴部結合部にはナデ、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色で、底部内面に自然釉が一部付着している。焼成は良好である。65は横瓶の胴部で、4分の3が遺存している。ほぼ球形の胴部である。胎土に白色粒子と褐色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、左右の胴部結合部にはナデ、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色で、胴部上面に自然釉が一部付着している。焼成は良好である。66は横瓶の胴部で、5分の4が遺存している。ほぼ球形の胴部である。胎土に白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、左右の胴部結合部にはナデ、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。

鉄器（第78図、図版45）

図化できた鉄器は21点あった。そのうち主体部から出土したものが多く、鉄鏃13点、茎2点が主体部玄室のやや奥の床面から検出された。1の鏃は、長さ3.7cm、幅1.65cm、厚さ0.18cm、重さ2.14gである。2の鏃は先端部分が欠けていて、長さ2.73cm、幅1.45cm、厚さ0.15cm、重さ1.51gである。茎に矢柄の残欠が付着している。3の鏃は、長さ3.56cm、幅1.68cm、厚さ0.19cm、重さ2.81gである。4の鏃は、長さ4cm、幅1.74cm、厚さ0.28cm、重さ4.07gである。5の鏃は、長さ4.19cm、幅1.53cm、厚さ0.22cm、重さ3.13gである。茎に矢柄の残欠が付着している。6の鏃は半分欠けていて、長さ2.99cm、幅1.54cm、厚さ0.22cm、重さ1.83gである。7の鏃は半分欠けていて、長さ4.02cm、幅1.16cm、厚さ0.25cm、重さ3.67gである。茎に矢柄の残欠が付着している。8の鏃は、長さ4.85cm、幅1.88cm、厚さ0.19cm、重さ4gである。茎に矢柄の残欠が付着している。9の鏃は、長さ4.21cm、幅1.58cm、厚さ0.18cm、重さ2.59gである。10の鏃は、長さ4.55cm、幅1.22cm、厚さ0.21cm、重さ3.55gである。11の鏃は、長さ4.69cm、幅1.89cm、厚さ0.13cm、重さ3.39gである。茎に矢柄の残欠が付着している。12の鏃は先端部分が欠けていて、長さ3.57cm、幅1.84cm、厚さ0.15cm、重さ2.82gである。13の鏃は先端部分が欠けていて、長さ4.45cm、幅1.97cm、厚さ0.27cm、重さ3.79gである。茎に矢柄の残欠が付着している。16、17は鉄鏃の茎で、18は紡錘車の軸である。14、15、19、20は刀子の残欠である。24は刀の鐔で周溝の覆土中から見つかった。たぶん後世の混入物であろう。

その他の遺物（第78図、図版44）

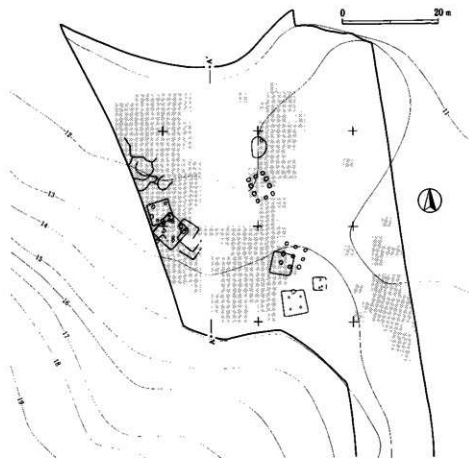
土器や鉄器以外の材質の遺物として、石製の砥石と巡方、ガラス玉が出土した。22のガラス玉は単独で出土した。古墳に副葬された装身具の一部がかるうじて残ったのであろう。21の砥石は、長さ6.81cm、幅4.65cm、厚さ0.82cm、重さ31.48gである。おそらく、後世の混入品であろう。23の巡方は黒褐色をしていて、長さ4.03cm、幅4.01cm、厚さ0.66cm、重さ23.81gである。もちろん、この古墳の副葬品とは考えられず、後世の混入品と思われる。



第78図 古墳出土遺物(4)

古墳の年代

古墳主体部の石室は完全に破壊されていたが、石室の構造は、切り石を積み上げた横穴式石室であったと考えられる。また、古墳から出土した遺物の多くは、古墳時代末、つまり7世紀後半から7世紀末の様相を示している。遺物の中には歴史時代に属するものもいくらか含まれていたが、それらの遺物は後世の混入品と思われる。古墳の墳丘下から検出された住居31～34の出土土器は、古墳時代後期の鬼高期の特徴を示している。しかし、古墳から出土した土器にそのような特徴は見出せず、やや時代の下った特徴を呈していた。従って、墳丘下の住居が廃絶された後に、古墳が築造されたと判断できる。



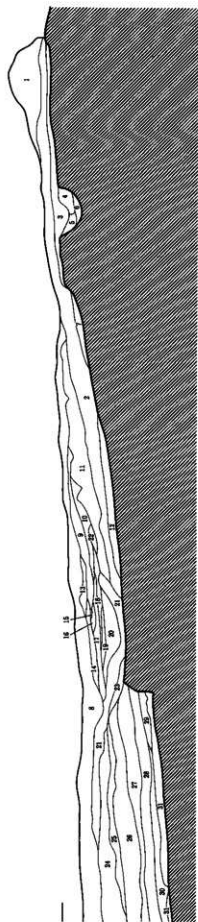
第79図 包含層の土器出土平面図

6 包含層（第79～81図、図版24）

調査区北側段丘の3Bグリッド、3Cグリッド、4Bグリッド、4Cグリッド、5Cグリッド付近は、西側に若干傾斜する谷状の地形となっていた。この谷状地形には、地山である暗白色粘土層の上部に、厚さ1m以上の暗褐色土を主体とした土層が堆積していた。この土層の中間付近から、多量の土器と少量の木器が出土し、4Bグリッドからもっとも大量に出土した。これらの遺物には完形品が少なく、また、集中して出土する地点もあった。単に谷部に流れ着いた状態ではなく、大量の什器を廃棄したかのような印象を受ける。付近に住居2～住居7が位置し、これらの遺構と何らかの関連性も考えられるだろう。しかしながら現在のところ、大量に遺物の出土した集中箇所性格については不明である。

13.3m

13.3m



31. 砂质粉砂土

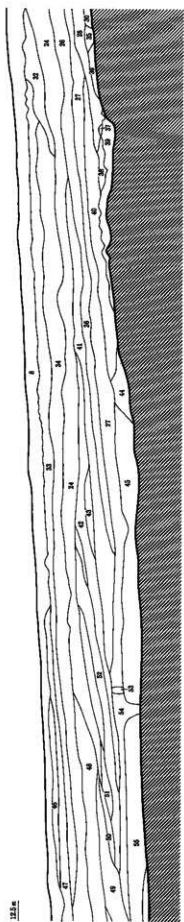
31. 粉砂土
 32. 砂质粉砂土
 33. 粉砂土
 34. 粉砂土
 35. 粉砂土
 36. 反层粉砂土
 37. 层状土
 38. 层状土
 39. 粉砂土

11. 层状土
 12. 反层状土
 13. 砂质粉砂土
 14. 层状土
 15. 层状土
 16. 砂质粉砂土
 17. 层状土
 18. 砂质粉砂土
 19. 层状土
 20. 粉砂土

1. 粉砂土
 2. 层状土
 3. 层状土
 4. 层状土
 5. 层状土
 6. 层状土
 7. 层状土
 8. 层状土
 9. 层状土
 10. 粉砂土

13.3m

13.3m



55. 层状土
 56. 反层状土

46. 粉砂土
 47. 层状土
 48. 层状土
 49. 层状土
 50. 层状土
 51. 层状土
 52. 层状土

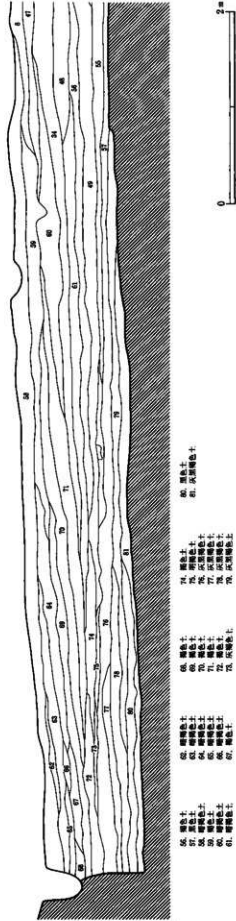
30. 粉砂土
 40. 层状土
 41. 层状土
 42. 层状土
 43. 层状土
 44. 层状土
 45. 层状土

32. 粉砂土
 33. 层状土
 34. 层状土
 35. 层状土
 36. 层状土
 37. 层状土
 38. 层状土

第80图 包含层断面图(1)

1:1000

A-111



第81图 包含層断面图 (2)

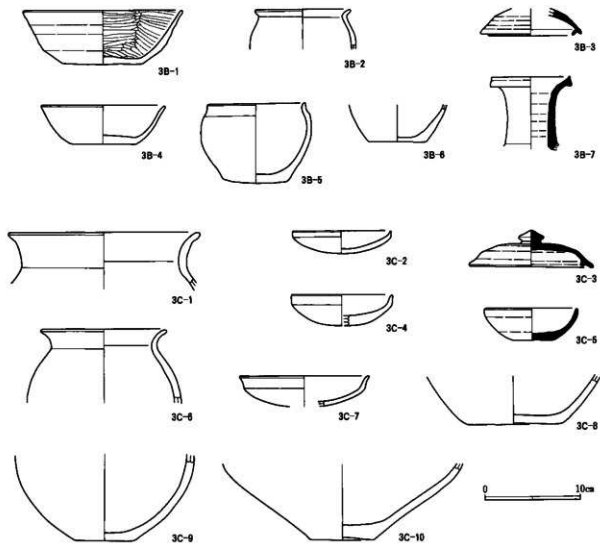
遺物

遺物は、主に土師器を主体とした土器で、図化できた点数は200点を越えた。その他に、少量の鉄器と木器があった。

土器（第82～95図、図版32～44）

図化できた土器は、全部で土師器206点、須恵器45点であった。完形の土器は少なかった。各グリッド別に分けて土器を記載した。4 Bグリッド出土の土師器杯が数量的にもっとも多かった。

3 B-1の土師器杯は5分の4が遺存し、口径16.5cm、底径8.3cm、器高5.6cmである。胎土に赤褐色粒子、微細な白色粒子を含む。外面上半部を轆轤成形によるヨコナデ、下半部を回転ヘラ調整、外部底面を回転ヘラ調整、内面をヘラナデによる暗文を施している。色調は、外面が褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。3 B-4の土師器杯は2分の1が遺存し、口径12.9cm、底径6.8cm、器高4cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面上半部を轆轤成形によるヨコナデ、底面に近い下半部を回転ヘラ調整、外部底面を回転ヘラ調整、内面をナデ調整している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好であ



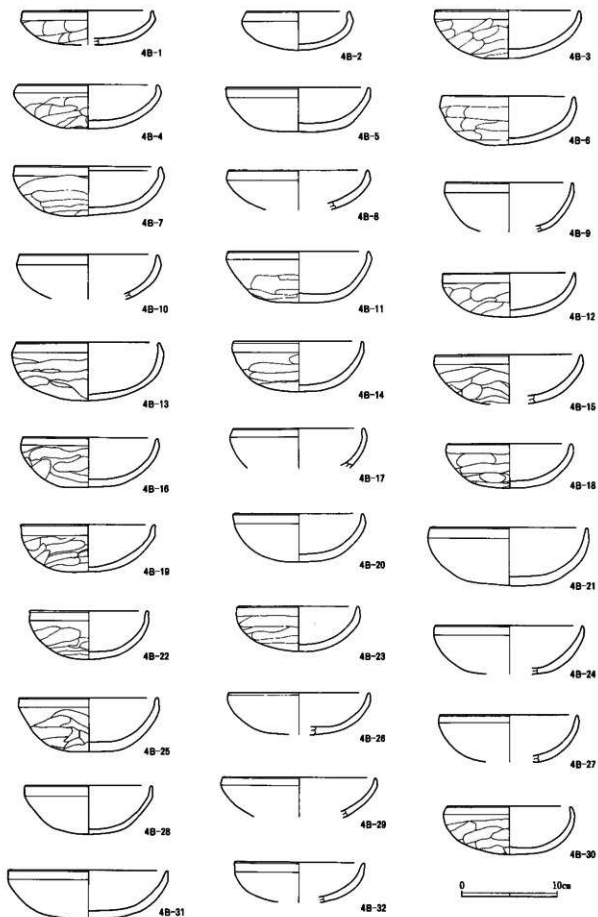
第82図 包含層出土遺物(1)

る。3B-2は小型甕の口縁で、3分の1が遺存していた。口径10cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヨコナデ、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。3B-5は完形の鉢で、口径10.2cm、底径6.6cm、器高8.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。3B-6は小型甕の底部で、底径6cmである。3B-2と同一個体の可能性がある。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヨコナデ、底面と底面に近い外面下半部にヘラ調整、内面にナデ調整が施されている。色調は、外面が暗褐色で、内面は褐色である。焼成は良好である。3B-3は須恵器蓋で、3分の1が遺存している。口径は8.9cmである。胎土に微細な白色粒子を少量含む。外面にヘラ調整と轆轤成形によるヨコナデ、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は明灰褐色である。焼成は良好である。3B-7は須恵器瓶の口縁部で、口径8.2cmである。胎土に砂粒を含む。内外面ともに轆轤成形によるヨコナデ調整が施されている。色調は灰褐色で、内外面ともに自然釉が顕著に付着している。

3C-2は土師器の浅い皿で、3分の2が遺存している。器形からすると蓋の可能性もある。口径10.6cm、器高2.3cmである。胎土に砂粒を含む。内外面ともにナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成はやや良好である。3C-4は土師器杯で、5分の1が遺存している。口径10.8cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。3C-7は土師器杯で、5分の1が遺存している。器形からすると蓋の可能性もある。口径13.8cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに褐色である。焼成は良好である。3C-1は土師器甕口縁部で、5分の1が遺存している。口径は20cmである。胎土に微細な白色粒子を少し含む。内外面ともにヨコナデ調整を施している。色調は、外面が赤みをおびた褐色、内面が褐色である。焼成は良好である。3C-6は土師器甕の上半部で、3分の1が遺存している。口径は13cmである。胎土に微細な赤褐色粒子、白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。3C-9は土師器甕底部で、3分の1が遺存している。底径が6.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面の調整痕はさほど明瞭でない。内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。3C-10は土師器甕底部で、5分の4が遺存している。底径が6.8cmである。胎土に白色粒子、わずかに黒色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。3C-8は土師器甕底部で、5分の4が遺存している。底径が9.2cmである。胎土にわずかに黒褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。3C-3は須恵器蓋で、6分の5が遺存している。口径12.8cm、器高3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部と宝珠形のつまみにヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。3C-5は須恵器杯で、4分の3が遺存している。口径9.6cm、底径4.3cm、器高3.3cmである。器形からすると蓋の可能性もある。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともに轆轤成形によるヨコナデ調整が施され、外面底部にヘラ切り離し痕が残る。色調は、内外面ともに暗灰褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

4B-1は杯で、4分の1が残存し、口径13.6cmである。胎土に赤褐色粒子を少量含む。外面にヘラ調

整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-2 はほぼ完形の杯で、口径10.7cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が黒色である。焼成は良好である。4 B-3 はほぼ完形の杯で、口径15cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-4 はほぼ完形の杯で、口径14.6cm、器高4.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-5 は杯で、4分の3が遺存している。口径15cm、器高4.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-6 は完形の杯で、口径13.6cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、口縁の一部が黒褐色である。焼成は良好である。4 B-7 は完形の杯で、口径15.2cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-8 は杯で、4分の1が遺存している。口径14.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-9 は杯で、5分の1が遺存している。口径13.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-10 は杯で、5分の1が遺存している。口径14.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-11 は完形の杯で、口径14.9、器高5.4cmである。胎土に微細な赤褐色粒子と砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-12 はほぼ完形の杯で、口径13.8、器高4.5cmである。胎土に微細な赤褐色粒子と砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-13 は杯で、2分の1が遺存している。口径14.7、器高6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-14 はほぼ完形の杯で、口径13.6、器高5.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-15 は杯で、5分の4が遺存している。口径15.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が黒褐色で、内面は褐色で一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-16 は完形の杯で、口径14cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が黒褐色、一部明褐色で、内面は明褐色である。焼成は良好である。4 B-17 は杯で、4分の1が遺存している。口径は13.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-18 は杯で、4分の1が遺存している。口径は13cm、器高は4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ

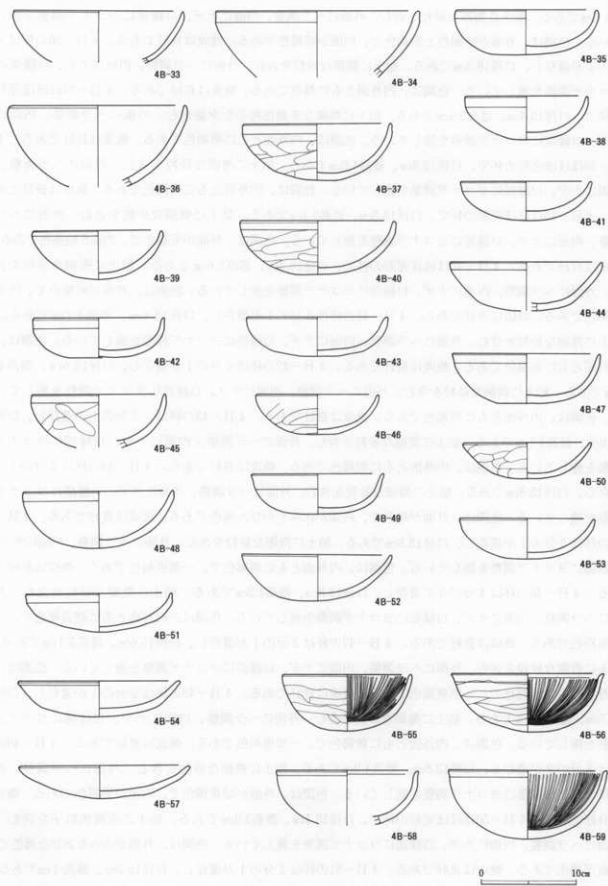


第83図 包含層出土遺物(2)

調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-19はほぼ完形の杯で、口径は13.9cm、器高は5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-20はほぼ完形の杯で、口径は13.5cm、器高は5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-21は杯で、3分の1が遺存していた。口径は16.2cm、器高は6.1cmである。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-22は杯で、2分の1が遺存している。口径は12.2cm、器高は5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色と黒褐色で、内面が明褐色である。焼成は良好である。4 B-23は杯で、3分の2が遺存している。口径は12.6cm、器高は4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-24は杯で、3分の1が遺存している。口径は15.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-25はほぼ完形の杯で、口径は14.6cm、器高5.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-26は杯で、6分の1が遺存している。口径は14.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-27は杯で、5分の1が遺存している。口径は14.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色である。焼成は良好である。4 B-28は杯で、2分の1が遺存している。口径は13.3cm、器高は5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-29は杯で、4分の1が遺存している。口径は16.2cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色である。焼成は良好である。4 B-30はほぼ完形の杯で、口径13.1cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-31の杯は、3分の2が遺存している。口径16.6cm、器高5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-32の杯は5分の1が遺存し、口径13.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

4 B-33の杯は5分の1が遺存し、口径17.7cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が赤みをおびた褐色で、内面が明褐色である。焼成は良好である。4 B-34の杯は3分の1が遺存し、口径21.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色で、内面が赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-35の杯は5分の4が遺存し、口径14.7cm、器

高4.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が暗褐色と黒褐色で、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 B-36の杯は4分の1が遺存し、口径18.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-37はほぼ完形の杯で、口径15.4cm、器高5.9cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を少量含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-38はほぼ完形の杯で、口径12.8cm、器高4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-39はほぼ完形の杯で、口径13.5cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色で、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 B-40はほぼ完形の杯で、口径16.3cm、器高5.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-41の杯は5分の1が遺存し、口径13.6cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-42の杯は4分の1が遺存し、口径13.6cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-43の杯は、2分の1が遺存し、口径14.9cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-44の杯は2分の1が遺存し、口径15.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-45の杯は2分の1が遺存し、口径13.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-46の杯は4分の3が遺存し、口径12.8cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗黄褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-47の杯は2分の1が遺存し、口径15.6cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-48の杯は2分の1が遺存し、口径15.7cm、器高5.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-49の杯は3分の2が遺存し、口径13.8cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が暗黄褐色で、内面が黒褐色である。焼成は良好である。4 B-50はほぼ完形の杯で、口径13.4cm、器高3.8cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が赤みをおびた褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-51の杯は2分の1が遺存し、口径15.2cm、器高4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-52はほぼ完形の杯で、口径15.7cm、器

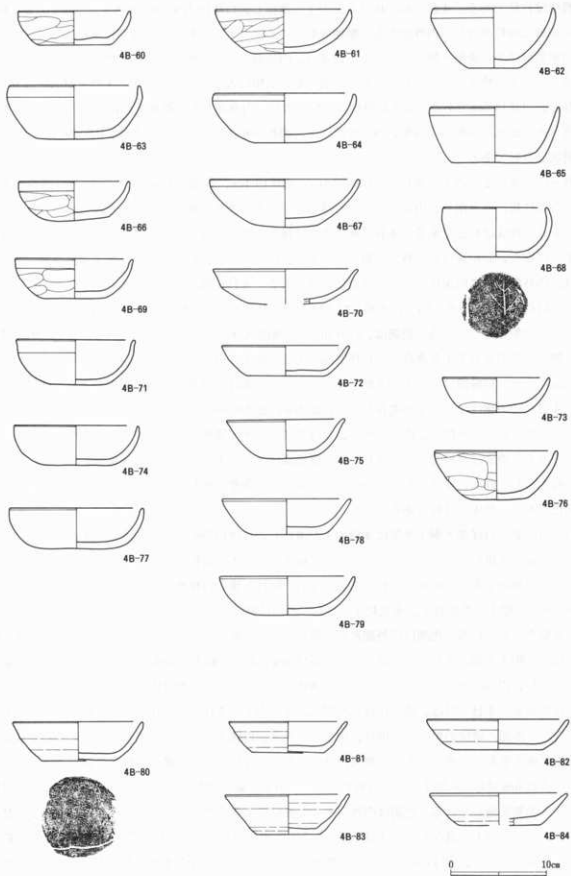


第84図 包含層出土遺物(3)

高4.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が褐色と黒褐色である。焼成は良好である。4 B-53はほぼ完形の杯で、口径14.1cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面がともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-54の杯は2分の1が遺存し、口径17cm、器高3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面がともに褐色である。焼成は良好である。4 B-55の杯は2分の1が遺存し、口径13.4cm、器高5.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部褐色である。焼成は良好である。4 B-56はほぼ完形の杯で、口径15.8cm、器高6.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-57の杯は5分の4が遺存し、口径17.7cm、器高3.4cmである。器形からすると皿の可能性もある。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-58の杯は5分の1が遺存し、口径14.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。内面のヘラナデは暗文に近いが、さほど明瞭ではなかった。色調は、外面が黒褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-59の杯は4分の3が遺存し、口径16.7cm、器高7.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、外面はやや赤みをおびている。焼成は良好である。

4 B-60の杯は3分の2が遺存し、口径11.7cm、底径7.3cm、器高3.6cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、外面がやや赤みをおびる。焼成は良好である。4 B-61はほぼ完形の杯で、口径14.2cm、底径6.5cm、器高4.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明黄褐色で、内面が黄褐色、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-62は完形の杯で、口径12.7cm、底径5.5cm、器高6.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面の調整痕は明瞭でない。内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-63の杯は3分の1が遺存し、口径13.6cm、底径8cm、器高5.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-64の杯は3分の1が遺存し、口径14.7cm、底径6.3cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、外面底部が黒褐色である。焼成は良好である。4 B-65の杯は2分の1が遺存し、口径13.5cm、底径8.8cm、器高5.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-66はほぼ完形の杯で、口径11.6cm、底径6cm、器高4.1cmである。胎土に赤褐色粒子、微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-67はほぼ完形の杯で、口径15.7cm、底径7cm、器高5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施してい

る。色調は、内外面ともに明褐色で、一部暗褐色である。焼成は良好である。4 B-68の杯は2分の1が遺存し、口径10.7cm、底径7cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。外面底部に木葉痕がある。色調は、外面が褐色と黒褐色で、内面が明褐色である。焼成は良好である。4 B-69はほぼ完形の杯で、口径12.2cm、底径6.5cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部暗褐色である。焼成は良好である。4 B-70の杯は5分の1が遺存し、口径15.1cmである。この土器片は、高杯の皿部分の可能性も考えられる。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-71の杯は4分の1が遺存し、口径12.4cm、底径6.3cm、器高4.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-72の杯は4分の1が遺存し、口径13.3cm、底径8.2cm、器高3.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-73はほぼ完形の杯で、口径11cm、底径5.8cm、器高3.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色と暗褐色で、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 B-74の杯は3分の2が遺存し、口径12.9cm、底径7cm、器高4.1cmである。胎土に赤褐色粒子と微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が明褐色と暗褐色である。焼成は良好である。4 B-75の杯は3分の2が遺存し、口径12.5cm、底径7cm、器高4.1cmである。胎土に赤褐色粒子と微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が赤みをおびた褐色で、内面が褐色と暗褐色である。焼成は良好である。4 B-76の杯は4分の1が遺存し、口径12.6cm、底径6.4cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-77の杯は5分の1が遺存し、口径13.8cm、底径8cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色である。焼成は良好である。4 B-78の杯は5分の1が遺存し、口径13.4cm、底径7cm、器高3.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに黄褐色である。焼成は良好である。4 B-79の杯は4分の1が遺存し、口径13.4cm、底径7cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が明黄褐色、内面が黄褐色である。焼成は良好である。4 B-80の杯は5分の4が遺存し、口径13.6cm、底径7.8cm、器高4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整、外面底部にわずかながら糸切り離し痕を残す。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-81の杯は3分の2が遺存し、口径12.4cm、底径7.5cm、器高3.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面上半部に轆轤成形によるヨコナデ調整、外面下半部と底部に回転ヘラ調整、内面底部にナデ調整が施されていた。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-82の杯は3分の2が遺存し、口径14.7cm、底径9cm、器高3.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面上半部に轆轤成形によるヨコナデ調整、外面下半部と底部に回転ヘラ調整、内面底部にナデ調整が施されていた。色調は、内外面ともに明褐色であ

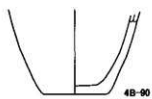
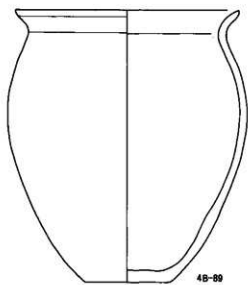
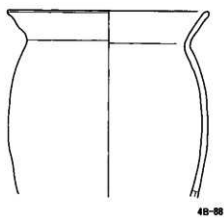
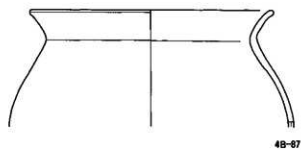
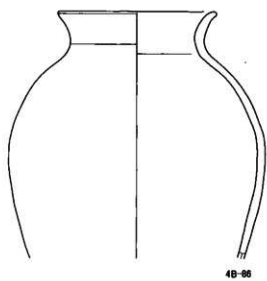
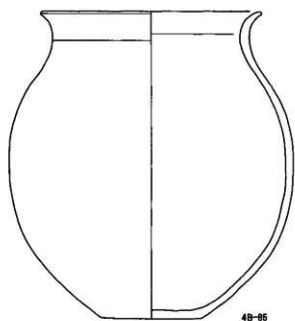


第85圖 包含層出土遺物(4)

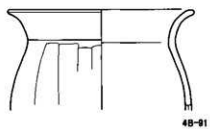
る。焼成は良好である。4 B-83の杯は5分の4が遺存し、口径13.1cm、底径6.8cm、器高4.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともに轆轤成形によるヨコナデ調整、外面底部付近と底部に回転ヘラ調整、内面底部にナデ調整が施されていた。色調は、内外面ともに黒褐色である。焼成はやや良好である。いわゆる「くすべ焼き」と言われる土器で、須恵器の部類に入るかもしれない。4 B-84の杯は6分の1が遺存し、口径14.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともに轆轤成形によるヨコナデ調整、外面底部付近と底部に回転ヘラ調整、内面底部にナデ調整が施されていた。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。

4 B-85の甕は2分の1が遺存し、口径23.1cm、底径10.4cm、器高32.1cmである。胎土に細かい砂粒を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-86の甕は口縁部と胴上半部の2分の1が遺存し、口径16.3cmである。胎土に細かい砂粒を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-87の甕は口縁部と胴上半部の5分の1が遺存し、口径25.2cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-88の甕は口縁部と胴上半部の2分の1が遺存し、口径21cmである。胎土に白色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-89の甕は2分の1が遺存し、口径23.5cm、底径8.9cm、器高28.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-90の甕底部は3分の1が遺存し、底径6.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色、内面が褐色である。焼成は良好である。

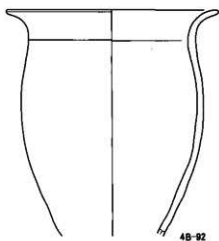
4 B-91の甕の口縁部と胴上半部は4分の1が遺存し、口径19.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに褐色、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-92は、甕の口縁部と胴部の3分の1が遺存し、口径22.3cmである。胎土に黒色粒子、赤色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに褐色、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-93は、甕の口縁部と胴上半部の4分の1が遺存し、口径19.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-94は、甕の口縁部と胴部の2分の1が遺存し、口径18.8cmである。胎土に大きな砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面ヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-95は、甕の口縁部と胴部の3分の1が遺存し、口径21.6cmである。胎土に大きな砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面ヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-96は、甕の口縁部と胴部の2分の1が遺存し、口径21.7cmである。胎土にやや大きな砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面ヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-97は、甕の口縁部と胴部の2分の1が遺存し、口径19.4cmである。胎土にやや大きな砂粒を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面ヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。



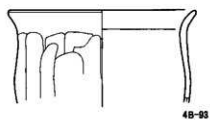
第86图 包含層出土遺物 (5)



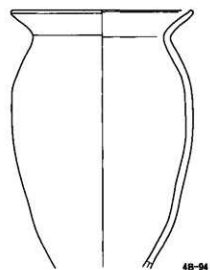
4B-91



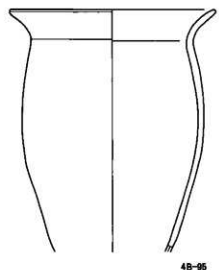
4B-92



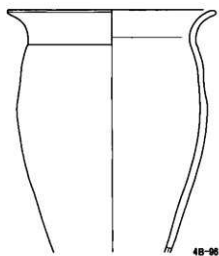
4B-93



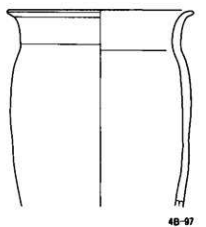
4B-94



4B-95



4B-96



4B-97

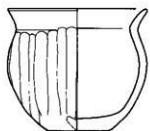


第87图 包含層出土遺物(6)

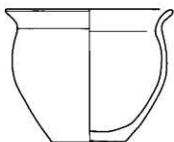
色調は内外面ともに褐色である。焼成は良好である。

4 B-98の小型甕は5分の4が遺存し、口径14.3cm、底径6.5cm、器高12.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部暗褐色である。焼成は良好である。4 B-99の小型甕は2分の1が遺存し、口径17.3cm、底径7.7cm、器高14.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-100の小型甕は3分の2が遺存し、口径14cm、底径8cm、器高15.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-101の小型甕は4分の3が遺存し、口径13.4cm、底径9cm、器高13.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともにナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-102の小型甕は底部が欠けていて3分の2が遺存し、口径15.7cmである。胎土にやや大きい砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-103の小型甕は底部が欠けていて5分の1が遺存し、口径13.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が黒褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-104の小型甕は5分の4が遺存し、口径12.7cm、底径6cm、器高10.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-105は鉢の口縁部が5分の1遺存し、口径24.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が赤みをおびた褐色、内面が明褐色、内面口縁部が暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-106は甕の底部で、底径6.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、外面底部に木葉痕、内面にヘラナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-107の小型甕は4分の1が遺存し、口径15.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-108は甕の胴下半部で、4分の1が遺存している。底径は7.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、外面が褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 B-109は甕底部で、底径は6.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-110は小型甕の胴上半部で、底径は7cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-111は甕の底部で、底径は7cmである。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にヘラナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

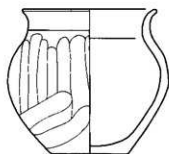
4 B-112は小型甕の胴上半部で4分の1が遺存し、口径は13.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 B-113は甕の口縁部で4分の1が遺存し、口径は15.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、



4B-98



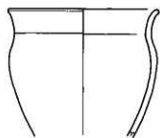
4B-99



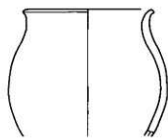
4B-100



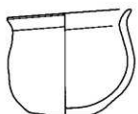
4B-101



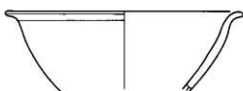
4B-102



4B-103



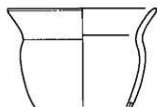
4B-104



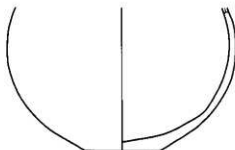
4B-105



4B-106



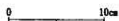
4B-107



4B-108



4B-109



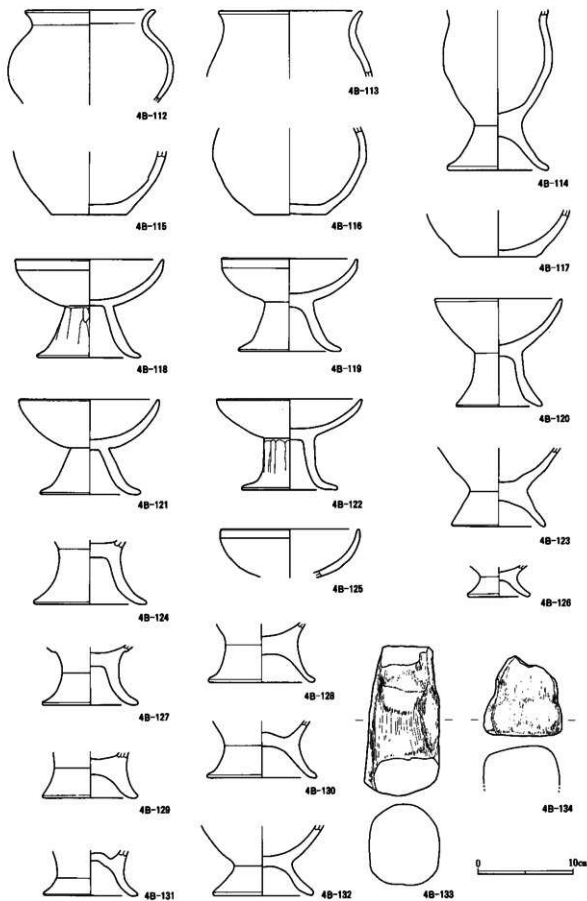
4B-110



4B-111

第88図 包含層出土遺物(7)

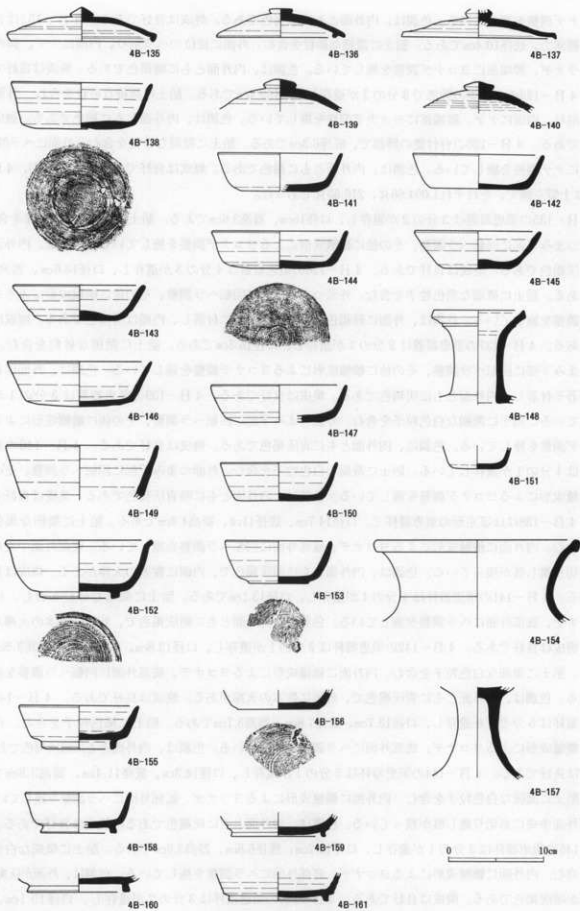
内外面ともに明褐色で、一部暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-115は小型甕の底部で5分の1が遺存し、底径は7.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-116は小型甕の底部で3分の2が遺存し、底径は7.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-117は甕の底部で3分の1が遺存し、底径は8.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、外面が明褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 B-114は高台付壺で4分の1が遺存し、底径は10.5cmである。胎土に白色粒子を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、脚部内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-118の高杯は3分の2が遺存し、口径15.4cm、底径10.9cm、器高10.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。杯部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚部外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-119の高杯は3分の2が遺存し、口径14.3cm、底径10.8cm、器高9.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。杯部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚部外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-120の高杯は3分の2が遺存し、口径13.3cm、底径8.9cm、器高11.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。杯部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚部外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた明褐色である。焼成は良好である。4 B-121の高杯は4分の3が遺存し、口径14.6cm、底径10.4cm、器高9.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。杯部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚部外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-122の高杯は3分の2が遺存し、口径15.3cm、底径9.9cm、器高9.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。杯部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚部外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-124の高杯は脚部のみが遺存し、口径11.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面ともにナデ、脚端部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-125は、高杯の杯部が3分の2遺存し、口径14.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。4 B-127は高杯の脚部で3分の2が遺存し、底径9.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明褐色で、一部暗灰褐色ある。焼成は良好である。4 B-128は台付甕の脚部で、底径11cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-129は台付甕の脚部で、底径9.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、脚端部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 B-130は台付甕の脚部で、底径11.4cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ、脚端部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色で、脚内面が褐色である。焼成は良好である。4 B-131は台付甕の脚部で、底径9.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に縦位のヘラ削り、脚内面にヘラナデ、脚端部に



第89图 包含層出土遺物(8)

ヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。4 B-132は台付甕の脚部で、底径10.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ、脚内面にヘラナデ、脚端部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。4 B-123の台付甕の脚部で3分の2が遺存し、底径9.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、脚端部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-126の台付甕の脚部で、底径6.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 B-133、4 B-134は土製支脚で、それぞれ1,004.66g、216.53gであった。

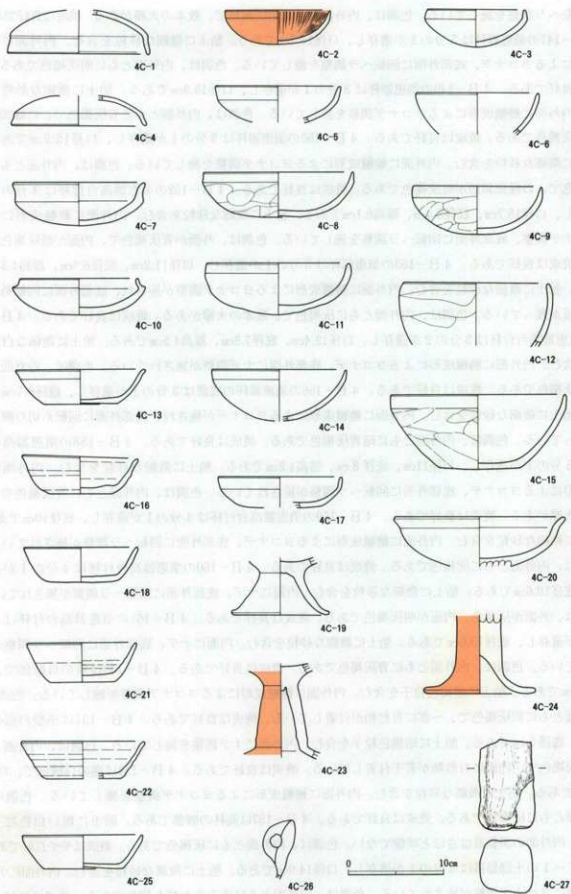
4 B-135の須恵器蓋は3分の2が遺存し、口径15cm、器高3.6cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面つまみ下部に回転ヘラ調整、その他に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4 B-136の須恵器蓋は4分の3が遺存し、口径13.6cm、器高3.1cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。外面つまみ下部に回転ヘラ調整、その他に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、外面に緑褐色の自然釉が顕著に付着し、内面は灰褐色である。焼成は良好である。4 B-137の須恵器蓋は2分の1が遺存し、口径16.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面つまみ下部に回転ヘラ調整、その他に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、外面に自然釉が若干付着し、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4 B-139の須恵器蓋は3分の1が遺存している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面つまみ下部に回転ヘラ調整、その他に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。4 B-140の須恵器蓋は4分の1が遺存している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面つまみ下部に回転ヘラ調整、その他に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。4 B-138はほぼ完形の須恵器杯で、口径14.7cm、底径11cm、器高4.9cmである。胎土に微細な黒色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整を施している。底部外面中央に回転系切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに明灰褐色で、内面に数本の火燐がある。焼成は良好である。4 B-141の須恵器杯は4分の1が遺存し、口径13.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面にナデ、底部外面にヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに暗灰褐色で、外面に数本の火燐がある。焼成は良好である。4 B-142の須恵器杯は2分の1が遺存し、口径13.8cm、底径10cm、器高3.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色で、外面に数本の火燐がある。焼成は良好である。4 B-143の須恵器杯は5分の3が遺存し、口径13.7cm、底径7.8cm、器高3.7cmである。胎土に褐色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面にヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-144の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径14.3cm、底径11.4cm、器高3.8cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面にヘラ調整を施している。底部外面中央に系切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4 B-145の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径13.2cm、底径6.8cm、器高3.9cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面にヘラ調整を施している。色調は、外面が灰褐色、内面が暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-146の須恵器杯は3分の2が遺存し、口径15.1cm、底径8.7cm、器高4.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面



第90図 包含層出土遺物(9)

に回転ヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色で、数本の火澤がある。焼成は良好である。4 B-147の須恵器杯は5分の1が遺存し、口径14.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。4 B-149の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径15.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色で、口縁部周辺が暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-150の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径15.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色で、口縁部周辺が暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-152の須恵器高台付杯は3分の1が遺存し、口径15.2cm、底径8.4cm、器高6.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整、底部外面に回転ヘラ調整を施している。色調は、外面が青灰褐色で、内面が暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-153の須恵器杯は3分の1が遺存し、口径11.2cm、底径6.4cm、器高4.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整が施され、底部外面に回転糸切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに灰褐色で、数本の火澤がある。焼成は良好である。4 B-155の須恵器高台付杯は3分の2が遺存し、口径12.4cm、底径7.8cm、器高4.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに暗灰褐色である。焼成は良好である。4 B-156の須恵器杯の底部は3分の1が遺存し、底径8.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデが施され、底部外面に回転糸切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに暗青灰褐色である。焼成は良好である。4 B-158の須恵器高台付杯は5分の1が遺存し、口径11cm、底径8cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色で、数本の火澤がある。焼成は良好である。4 B-159の須恵器高台付杯は4分の1が遺存し、底径10cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4 B-160の須恵器高台付杯は4分の1が遺存し、底径10.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内面にナデ、底部外面に回転ヘラ調整が施されている。色調は、外面が灰褐色、内面が明灰褐色である。焼成は良好である。4 B-161の須恵器高台付杯は5分の1が遺存し、底径10.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内面にナデ、底部外面に回転ヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。4 B-148は瓶の口縁部で、口径9.5cmである。胎土に暗褐色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに明灰褐色で、一部に自然釉が付着している。焼成は良好である。4 B-151は小型の瓶の底部で、底径5cmである。胎土に暗褐色粒子を含む。内外面にナデ調整を施している。色調は、内外面ともに青灰褐色で、内面に自然釉が若干付着している。焼成は良好である。4 B-154は壺の口縁部で、口径2.12cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4 B-157は高杯の脚部である。胎土に粗い白色粒子を含む。内外面の調整痕はさほど明瞭でない。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成はやや良好である。

4 C-1の土師器蓋は4分の1が遺存し、口径14.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 C-4の土師器蓋は5分の1が遺存し、口径14cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調

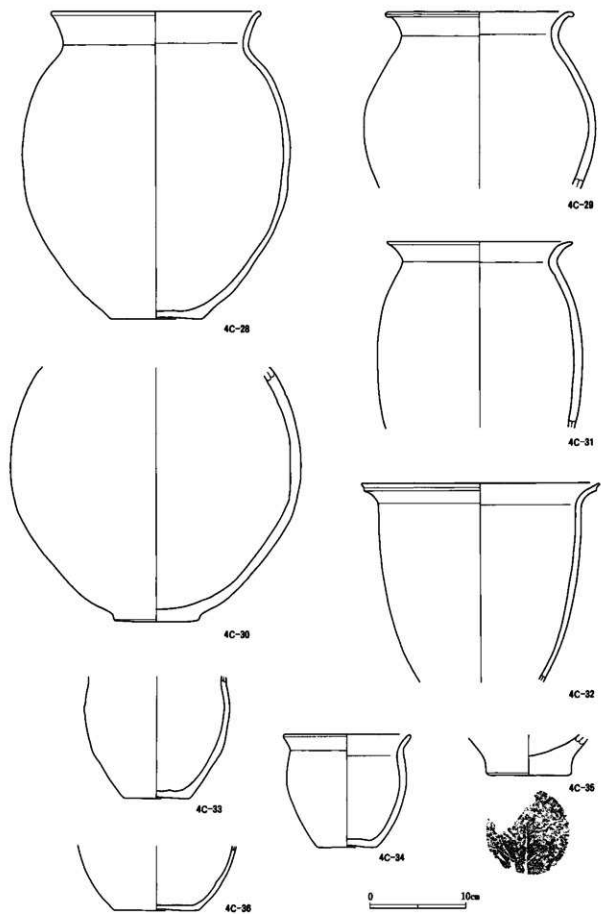


第91図 包含層出土遺物 (10)

整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4C-2の土師器杯は4分の1が遺存し、口径11.2cm、器高3.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデによる暗文、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに赤彩を施している。焼成は良好である。4C-3の土師器杯は4分の1が遺存し、口径10.2cm、器高4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、外面が褐色で、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4C-5の土師器杯は3分の1が遺存し、口径13.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-6の土師器杯は4分の1が遺存し、口径12.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整を施している。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-7の土師器杯は4分の1が遺存し、口径13.5cm、器高4.6cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4C-8の土師器杯は5分の1が遺存し、口径16cm、器高4.7cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が暗褐色で、内面が褐色である。焼成は良好である。4C-9の土師器杯は4分の1が遺存し、口径13.4cm、器高5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4C-10の土師器杯は4分の1が遺存し、口径12.2cm、器高3.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-11の土師器杯は5分の4が遺存し、口径15.2cm、器高5.3cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色、内面が赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4C-13の土師器杯は3分の1が遺存し、口径13.5cm、底径7.7cm、器高3.6cmである。胎土に褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-14の土師器杯は4分の1が遺存し、口径14.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-16の土師器杯は3分の2が遺存し、口径12.1cm、底径6.6cm、器高3.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部にヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-17の土師器杯は6分の1が遺存し、口径13.2cmである。高杯の皿部である可能性もある。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色と黒褐色、内が暗褐色である。焼成は良好である。4C-18の土師器杯は3分の2が遺存し、口径12cm、底径7cm、器高3.6cmである。胎土に暗褐色粒子と赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4C-21の土師器杯は4分の1が遺存し、口径11.4cm、底径6.8cm、器高4.1cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面下部に回転ヘラ調整が施され、外面底部には回転糸切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4C-22の土師器杯は5分の1が遺存し、口径13cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形による

ヨコナデ調整が施され、外面底部には回転ヘラ切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。4 C-25の土師器杯は3分の2が遺存し、口径12.8cm、底径8.4cm、器高3.5cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 C-12の土師器鉢は6分の1が遺存し、口径15.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 C-15の土師器鉢は2分の1が遺存し、口径18.3cm、底径8.4cm、器高7.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 C-19は高杯の脚部で、底径10cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にヘラナデ、脚端部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 C-20は高杯の皿部で、口径17.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、脚端部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が赤みをおびた褐色で一部黒褐色、内面が黒色である。焼成は良好である。4 C-23は高杯の脚部上部である。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にナデ調整が施されている。色調は、全体に褐色で、外面に赤彩が施されている。焼成は良好である。4 C-24は高杯の脚部で、底径11.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位の細かいヘラナデ、内面にナデ、脚端部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内面が褐色で、外面に赤彩が施されている。焼成は良好である。4 C-26は内耳の破片である。外面が黒褐色で、内面が褐色である。4 C-27は土製支脚の破損品で、重量は380.59gである。

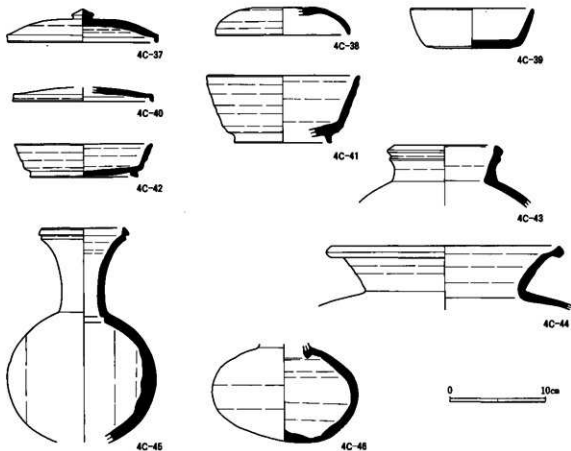
4 C-28は土師器甕で、3分の1が遺存し、口径22cm、底径9.6cm、器高32cmである。胎土に白色粒子、赤褐色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 C-29は土師器甕の上半部で、6分の1が遺存し、口径19.4cmである。胎土に白色粒子、赤褐色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 C-30は土師器甕の下半部で、3分の1が遺存し、底径9cmである。胎土に粗い砂粒を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にヘラナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、外面の一部が黒褐色である。焼成は良好である。4 C-31は土師器甕の上半部で、4分の3が遺存し、口径19.2cmである。胎土に粗い砂粒、白色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 C-32は土師器甕の上半部で、2分の1が遺存し、口径24.9cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。4 C-33は口縁部を欠いた小型甕で、3分の1が遺存し、底径6.5cmである。胎土に褐色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色で一部黒褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。4 C-34はほぼ完形の小型甕で、口径13.2cm、底径6.4cm、器高11.7cmである。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。4 C-35は甕の底部で、底径9cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面底部に木炭痕が残っている。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成は良好である。4 C-36は小型甕の下半部で、底径8.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整が施され



第92図 包含層出土遺物 (11)

ている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

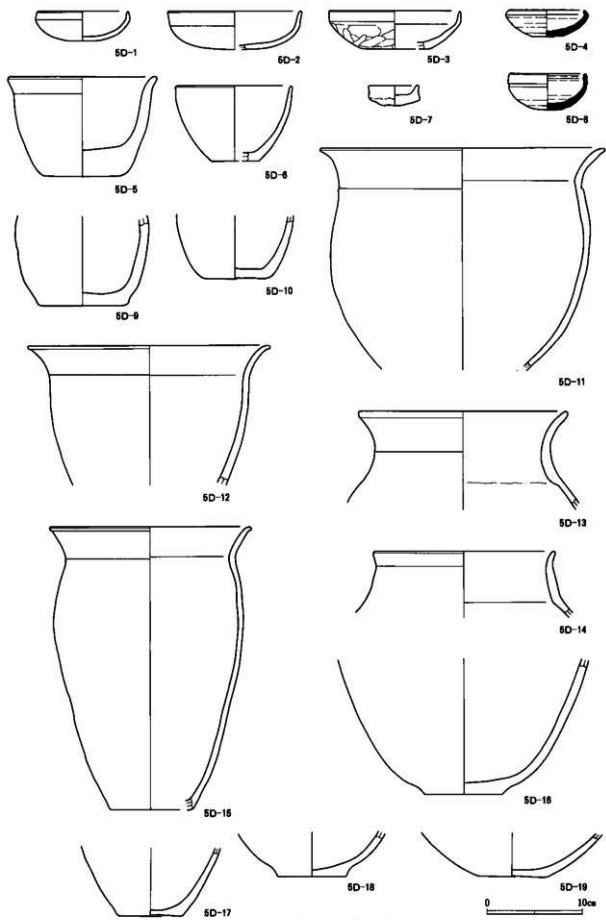
4C-37は須恵器蓋で3分の1が遺存し、口径15.8cm、器高3.5cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。4C-38は須恵器蓋で3分の1が遺存し、口径14cmである。胎土に白色粒子を含む。外面上部に回転ヘラ調整、内外面にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。4C-40は須恵器蓋で4分の1が遺存し、口径14.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に上部に回転ヘラ調整、内外面にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4C-39は須恵器杯で3分の1が遺存し、口径12.9cm、底径7.6cm、器高4.1cmである。胎土に白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整が施されている。外部底面には回転系切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4C-41は須恵器高台付杯で5分の1が遺存し、口径16cm、底径10.3cm、器高7.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が赤みをおびた暗灰褐色で、内面が褐色である。焼成はやや良好である。この土器は胎土もかなり赤みをおびているので、通常の須恵器と同じほど高温で焼成されたのではないようである。4C-42は須恵器高台付杯で4分の1が遺存し、口径14.2cm、底径11.3cm、器高3.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。4C-43は須恵器甕の口縁部で5分の1が遺存し、口径10.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。



第93図 包含層出土遺物(12)

口縁部にヨコナデ調整が施され、外面にタタキ痕が残っている。色調は、内外面ともに灰褐色で、口縁部は赤みをおびた暗灰褐色である。外面の一部に自然釉が付着していた。焼成は良好である。4C-44は須恵器甕の口縁部で1分の6が遺存し、口径24cmである。胎土に微細な砂粒を含む。口縁部にヨコナデ調整が施されている。外面にタタキ痕、内面に青海波紋を消した痕が残っていた。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。4C-45は須恵器横瓶で3分の1が遺存し、口径8.7cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。口縁部の内外面は轆轤成形によるヨコナデ、胴部外面は回転ヘラ調整、内面はナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色で、外面の一部に緑灰褐色の自然釉が付着している。焼成は良好である。4C-46は須恵器平瓶の胴部で5分の4が遺存している。胎土に微細な白色粒子を含む。外面下部は回転ヘラ調整、外面上部は回転ヘラナデ、内面はナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに青灰褐色である。焼成は良好である。

5D-1は土師器杯で3分の2が遺存し、口径9.5cm、器高3.2cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。5D-2は土師器杯で3分の1が遺存し、口径13.8cmである。胎土に微細な赤褐色粒子、白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。5D-3は土師器杯で4分の1が遺存し、口径13.6cm、底径6.9cm、器高4.1cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに暗黄褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5D-7は土師器のミニチュアの杯で3分の2が遺存し、口径5.1cm、器高2.1cmである。胎土に微細な砂粒を含み、手捏ねの土器である。色調は、内外面ともに暗褐色である。5D-4は須恵器杯で4分の1が遺存し、口径7.8cm、底径2.9cm、器高2.9cmである。器形からすると蓋の可能性もある。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に下半部に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が暗青灰褐色で、内面は青灰褐色である。焼成は良好である。5D-8は須恵器杯で2分の1が遺存し、口径8cm、器高3.9cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。外面に下半部に回転ヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明灰褐色である。焼成は良好である。底面に×印の線刻がある。5D-5は土師器鉢で4分の1が遺存し、口径15.3cm、底径7.9cm、器高10.5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色で一部黒褐色、内面が暗褐色である。焼成は良好である。5D-6は土師器鉢で4分の1が遺存し、口径12cm、底径4.9cm、器高7.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色で一部黒褐色、内面が黒色である。焼成は良好である。5D-9は口縁部を欠いた土師器鉢で5分の1が遺存し、底径9.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成はやや良好である。5D-10は土師器鉢あるいは甕の下半部で4分の1が遺存し、底径6.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に縦位のヘラ削り、内面にヘラナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色で、内面が黒褐色である。焼成は良好である。5D-12は土師器甕の上半部で5分の1が遺存し、口径25.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に縦位のヘラ削り、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5D-11は土師器甕の上半部で3分の2が遺存し、口径29.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削

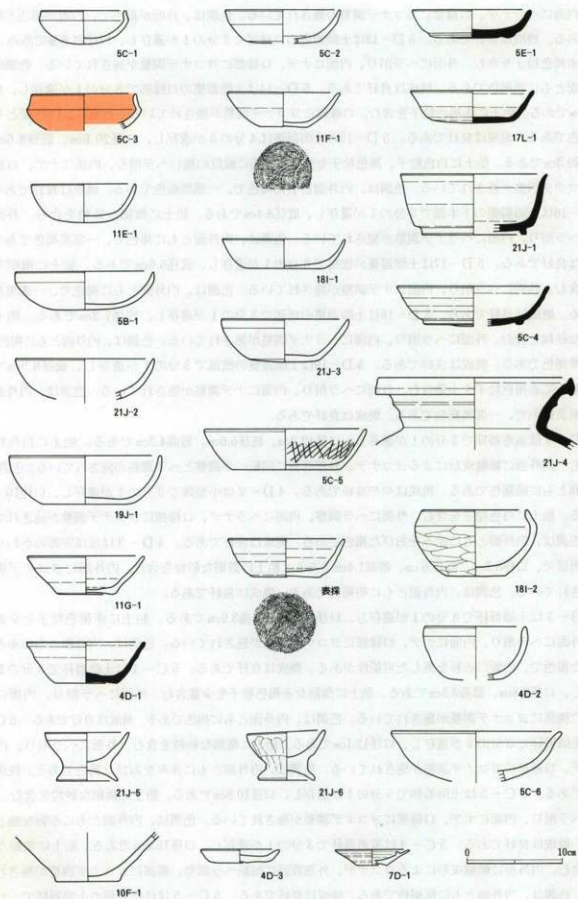


第94図 包含層出土遺物 (13)

り、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が褐色で、内面が褐色と暗褐色である。焼成は良好である。5 D-13は土師器甕の口縁部で2分の1が遺存し、口径21.6cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。5 D-14は土師器甕の口縁部で3分の1が遺存し、口径18.8cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。5 D-15の土師器甕は4分の3が遺存し、口径20.8cm、底径8.6cm、器高29.3cmである。胎土に白色粒子、黒色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5 D-16は土師器甕の下半部で5分の1が遺存し、底径8.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面に粗いヘラ削り、内面にヘラナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5 D-17は土師器甕の底部で3分の1が遺存し、底径6.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5 D-18は土師器甕の底部で3分の1が遺存し、底径7.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にヘラナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。5 D-19は土師器甕の底部で3分の1が遺存し、底径6.9cmである。胎土に赤褐色粒子を少量含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明黄褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

4 D-1は須恵器杯で3分の1が遺存し、口径12.2cm、底径6.6cm、器高4.3cmである。胎土に白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外部底面に回転ヘラ調整とヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに暗褐色である。焼成はやや良好である。4 D-2は小型鉢で3分の1が遺存し、口径10.4cmである。胎土に白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にヘラナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。4 D-3はほぼ完形のかわらけの燈明皿で、口径8.2cm、底径6cm、器高1.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。

5 B-1は土師器杯で3分の1が遺存し、口径14.5cm、器高3.9cmである。胎土に赤褐色粒子を少量含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色で、内面に赤彩を施した可能性がある。焼成は良好である。5 C-1は土師器杯で3分の2が遺存し、口径8.8cm、器高3.5cmである。胎土に微細な赤褐色粒子を少量含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色である。焼成は良好である。5 C-2は土師器杯で3分の2が遺存し、口径12.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。5 C-3は土師器杯で5分の1が遺存し、口径10.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤彩を施している。焼成は良好である。5 C-4は須恵器杯で3分の1が遺存し、口径15.8cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外部底面に回転ヘラ調整、脚部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。5 C-5はほぼ完形の土師器杯で、口径17cm、底径11.4cm、器高4.2cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ調整とヘ



第95図 包含層出土遺物 (14)

ラナデによる暗文が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。5C-6は高杯の杯部で2分の1が遺存し、口径17.7cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、外面が赤みをおびた褐色と黒褐色、内面が黒色である。焼成は良好である。

5E-1は須恵器高台付杯で5分の1が遺存し、口径12.4cm、底径8.5cm、器高3cmである。胎土に微細な雲母片を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外部底面に回転ヘラ調整、脚部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに暗灰褐色である。焼成はやや良好である。

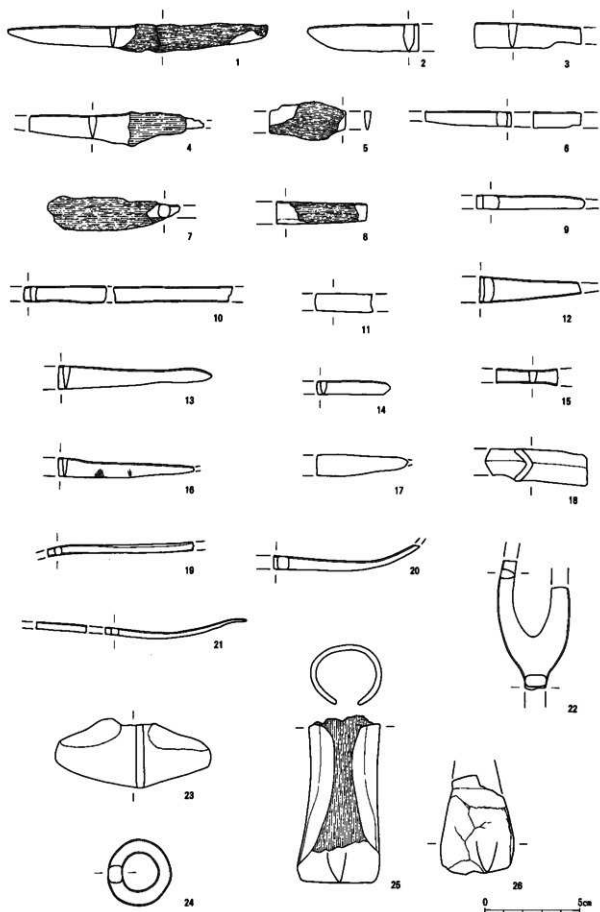
鉄器（第96～97図、図版45）

包含層から出土した鉄器は全部で30点あり、ほとんどが小片である。

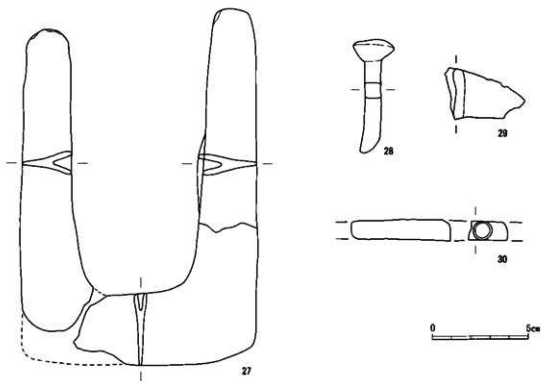
3Bグリッドから茎と鋤先が出土した。第96図の11は刀子の茎片で、長さ2.88cm、幅1.05cm、厚さ1.02cm、重さ5.16gであった。第97図の27は完形に近い鋤先で、長さ18.3cm、幅12.5cm、厚さ1.06cm、重さ312.97gであった。3Cグリッドから茎と鉄斧が出土した。第96図の20は鉄鎌の茎で、長さ37.8cm、幅0.85cm、厚さ0.75cm、重さ8.53gである。第96図の25は完形の鉄斧で長さ8.8cm、幅4.04cm、幅1.14cm、重さ146.08gである。木質がかなり遺存しているので、本来は木柄の部分も残っていたと思われる。第96図の10、14、15、16、17は刀子茎の小片である。16は長さ6.96cm、幅0.9cm、厚さ0.4cm、重さ6.67gで、木質がわずかに遺存していた。第97図の29は鉄片で、長さ4.23cm、幅2.53cm、厚さ0.55cm、重さ6.94gである。元来の器形、器種等は不明である。4Cグリッドからはキセルの管が出土した。第97図の30はキセルの管で、鉄製の管に薄い銅板を巻いている。長さ6.39cm、幅1cm、厚さ1cm、重さ11.55gであった。もちろん、これは古代の遺物ではなく、近世の遺物が混入したのであろう。5Cグリッドからは茎、鉄片、鎌、斧、釘が出土した。第96図の9と12は刀子の茎である。18の鉄片は長さ5.38cm、幅1.91cm、厚さ0.49cm、重さ14.98gである。元来の器形、器種等は不明である。22の鉄鎌は先端が二又に分かれていて、長さ6.66cm、幅4.17cm、厚さ0.54cm、重さ25.16gである。26は鉄斧の先端で、長さ4.8cm、幅3.83cm、厚さ1.51cm、重さ59.63gである。第97図の28は長さ5.88cm、長さ0.91cm、厚さ0.94cm、重さ13.41gである。5Dグリッドから出土した第96図の6は、刀子の茎である。6Cグリッドから出土した第96図の19は、鉄族の茎である。

その他の遺物（第98・99図、図版44）

土器、鉄器以外に砥石、土錘、木製品が出土した。第98図の1の砥石は4Bグリッドから出土し、長さ7.4cm、幅2.72cm、厚さ0.73cm、重さ23.1gである。第98図の3の砥石は4Bグリッドから出土し、長さ18.2cm、幅4.57cm、厚さ2.23cm、重さ432.26gである。第98図の5の砥石は4Cグリッドから出土し、長さ5.58cm、幅2.48cm、厚さ3.29cm、重さ91.15gである。第98図の4の砥石は6Cグリッドから出土し、長さ7.73cm、幅5.19cm、厚さ2.57cm、重さ200.08gである。第98図の6の土錘は3Bグリッドから出土し、長さ1.89cm、幅1.33cm、厚さ1.26cm、重さ3.69gである。第98図の7の土錘は4Bグリッドから出土し、長さ4.1cm、幅1.58cm、厚さ1.65cm、重さ7.42gである。第99図の3は曲物の蓋もしくは底の部分に使用されていた板である。径15.8cm、厚さ0.8cmである。第99図の1は用途不明の環状木製品で、長さ32.5cm、幅24.5cm、厚さ5.5cmである。第99図の2の杭は、長さ39.8cm、幅10cm、厚さ8.5cmである。部分的に黒く炭化しており、使用時に焼いて硬化させたのであろう。



第96図 遺構及び包含層出土遺物 (15)



第97図 包含層出土遺物(16)

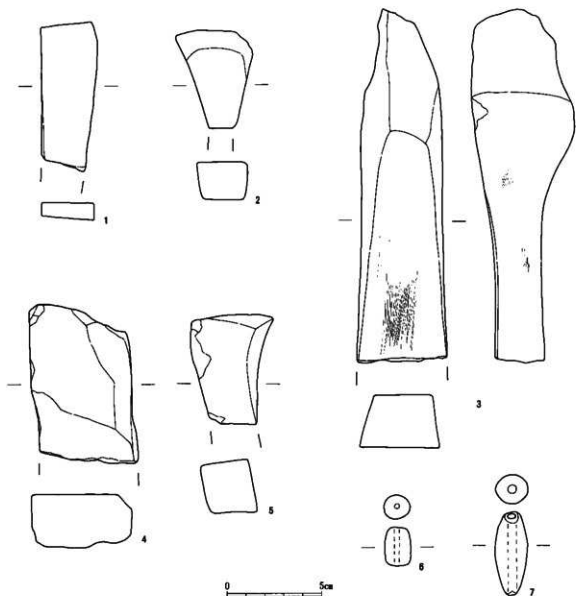
7 一括出土遺物

遺跡全域から遺構にともなわずに土器、鉄器、その他の遺物が出土した。それらの遺物は主に各グリッドごとに取り上げた。そのうち、図化できた遺物を掲載しておく。

土器(第69、95、図版43、44)

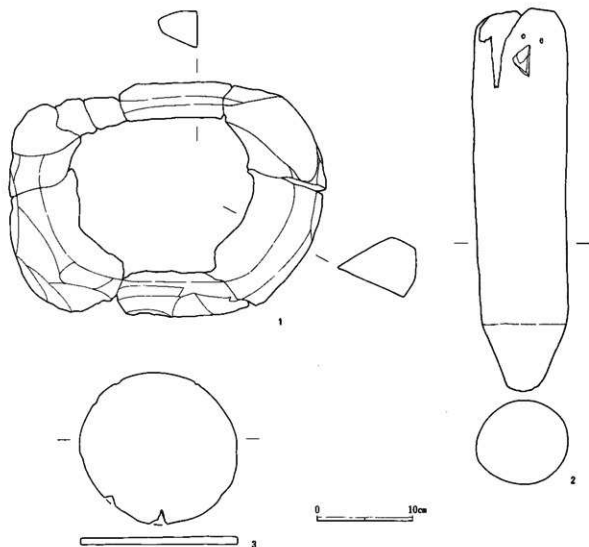
確認調査時にトレンチから出土した土師器杯がある。3分の1が遺存し、口径11.6cm、器高4cmである。器形から蓋の可能性もある。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。谷部の調査時に近世の溝から出土した完形の陶器がある。口径6.6cm、底径3.6cm、器高1.4cmである。底面に回転糸切り離し痕が残っている。内外面ともに灰褐色で、内面に釉が付着している。南側調査区から出土した甕の上半部がある。口径14.7cmである。胎土に白色粒子を含む。外面に縦位の粗いヘラ削り、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。

7D-1は陶器の燈明皿で3分の1が遺存し、口径7.8cm、底径3.2cm、器高1.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外部底面に回転ヘラ調整が施されている。色調は、外面が灰褐色で、内面に灰褐色釉が付着している。焼成はやや良好である。10F-1は土師器甕底部で、底径6.6cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデとヘラナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。11E-1は土師器杯で3分の1が遺存し、口径11cm、底径11cm、器高4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ削り、内面にナデ、



第98図 包含層出土物 (17)

口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色で、口縁部が黒褐色である。燈明皿として使用された可能性がある。焼成は良好である。11F-1は土師器杯で3分の1が遺存し、口径11.8cm、底径5cm、器高3.6cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面に回転ヘラ調整が施され、底部外面中央に回転糸切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに赤みをおびた明褐色である。焼成は良好である。11G-1は土師器杯で2分の1が遺存し、口径12.1cm、底径6cm、器高3.9cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、底部外面にヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに明褐色である。焼成は良好である。17L-1は須恵器杯で3分の1が遺存し、口径13cm、底径8.6cm、器高3.4cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。18I-1は土師器杯で3分の1が遺存し、口径13cm、底径8.1cm、器高3cmである。胎土



第99図 包含層出土遺物 (18)

に暗褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた明褐色である。焼成は良好である。18 I - 2 はほぼ完形の土師器鉢で、口径10.9cm、底径6.2cm、器高6.8cmである。胎土に微細な暗褐色粒子と白色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。19 J - 1 は土師器杯で3分の1が遺存し、口径15.8cm、底径9cm、器高5.1cmである。胎土に暗褐色粒子を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに褐色で、内面がやや赤みをおびる。焼成は良好である。21 J - 1 は須恵器高台付杯で4分の1が遺存し、口径15.4cmである。胎土に暗褐色粒子を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ調整、外面底部に回転ヘラ調整、脚部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。21 J - 2 は土師器杯で3分の1が遺存し、口径14.5cmである。胎土に赤褐色粒子を含む。外面の調整痕は不明瞭であるが、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色で、一部黒褐色である。焼成は良好である。21 J - 3 は土師器杯で2分の1が遺存し、口径13.4cm、底径7cm、器高4.

5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ、口縁部にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。21J-4は須恵器甕の口縁部で3分の1が遺存し、口径20.2cmである。胎土に微細な白色粒子を含む。口縁部内外面にヨコナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに灰褐色である。焼成は良好である。21J-5は土師器高台付杯で2分の1が遺存し、口径8.7cm、底径6.3cm、器高5.1cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。21J-6は土師器高台付杯で2分の1が遺存し、口径8.1cm、底径5.8cm、器高5cmである。胎土に微細な砂粒を含む。外面にヘラ調整、内面にナデ調整が施されている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。表採で取り上げた土器のうち、図化できたものが1点あった。それは土師器杯で3分の2が遺存し、口径12.3cm、底径6.5cm、器高3.9cmである。胎土に微細な砂粒を含む。内外面に轆轤成形によるヨコナデ、外面底部に回転ヘラ調整が施され、外面底部中央に回転糸切り離し痕が残っている。色調は、内外面ともに赤みをおびた褐色である。焼成は良好である。

鉄器（第96図、図版45）

12Gグリッドと21Jグリッドから刀子が出土した。12Gグリッドから出土した第96図の4の刀子は、長さ9.16cm、幅1.19cm、厚さ0.84cm、重さ13.58gである。木質が付着している。21Jグリッドから出土した第96図の7の刀子は、長さ6.73cm、幅1.36cm、厚さ1.43cm、重さ18.94gである。木質が付着している。

第4節 近世

近世の遺構として塚と火葬墓があった。いずれも単独に検出された。

1 塚（第100、101図、図版24、25）

調査区中央の平地、11Gグリッド、11Hグリッド、12Gグリッド、12Hグリッドの交点に位置する。住居17と重複する。形状はやや横長の方形で、長さは7.8m×7.55mであった。高さは約2.5mであった。塚の盛土は、暗褐色土を主体とする版築構造となっていたが、それぞれの土層が古墳の版築の土層よりもやや厚く、粗雑な版築構造であった。

遺物（第69図）

図化できた遺物は、内耳の1点だけであった。

2 火葬墓（第102図、図版25）

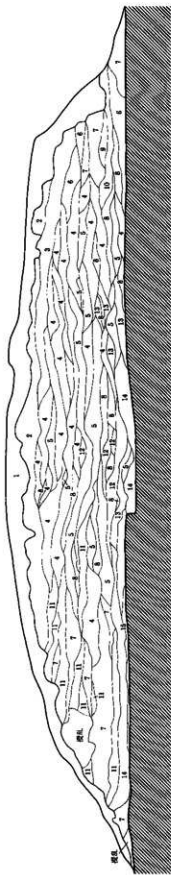
調査区南側の段丘上、18Kグリッドの西北に位置する。古墳（長老塚）の削平された墳丘面から検出された。付近に類似した遺構がなく、孤立した存在であった。形状は縦長の正方形で、長軸の長さは1.95m、短軸の長さは1.63mで、墓坑の深さは55cmであった。西壁中央やや南よりのところに窪みがあった。遺構の年代の決め手となる遺物は出土しなかったが、土坑の形態、覆土に焼土を含んでいたこと、壁の一部が焼けていたことから近世の火葬墓と判断した。



第100図 塚

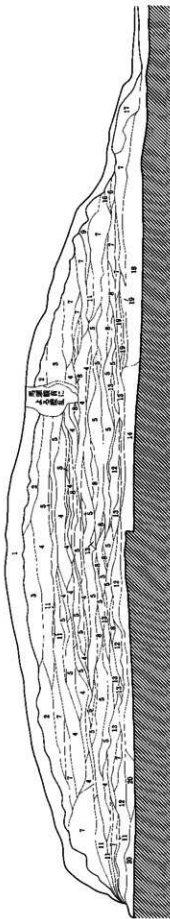
A—

500m → A



第101図 塚断面図

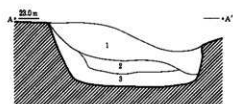
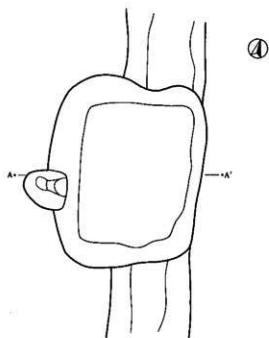
500m → A'



1. 礫土 礫土の埋入物が若干みられる。
2. 礫質粘土 礫土を若干含む。
3. 礫質粘土 礫土を若干含む。
4. 礫質粘土 礫土を若干含む。
5. 礫質粘土 礫土を若干含む。
6. 礫質粘土 礫土を若干含む。
7. 礫質粘土 礫土を若干含む。
8. 礫質粘土 礫土を若干含む。
9. 礫質粘土 礫土を若干含む。
10. 礫質粘土 礫土を若干含む。

11. 礫質粘土 ローズブロックを含む。
12. 礫質粘土 礫土を若干含む。
13. 礫質粘土 礫土を若干含む。
14. 礫質粘土 礫土を若干含む。
15. 礫質粘土 礫土を若干含む。
16. 礫質粘土 礫土を若干含む。
17. 礫質粘土 礫土を若干含む。
18. 礫質粘土 礫土を若干含む。
19. 礫質粘土 礫土を若干含む。
20. 礫質粘土 礫土を若干含む。

0 400



1. 黄褐色土 黄褐色ブロックを多く含む。
2. 黒色土 炭化物を多く含む。
3. 赤褐色土 鉄土を多く含む。



第102図 火葬墓

発掘調査番号	管理番号	発掘番号	遺構タイプ	位 置	主軸	長	幅	時 代
SX020	048	陥 穴	12G			3.40	0.70	縄 文 時 代
SX013	019	竪 穴	4C					縄 文 時 代
022	040	竪 穴	14F					弥 生 時 代
SI002	023	住 居 1	竪穴住居	4C、4D		4.08	3.28	弥 生 時 代
SB012	018	住 居 2	竪穴住居	4B、4C	253			古墳・奈良時代
SB021	025	住 居 3	竪穴住居	4B、4C、5B、5C	312	6.00	5.68	古墳・奈良時代
SB020	026	住 居 4	竪穴住居	4C、5C	202	3.69		古墳・奈良時代
SB016	027	住 居 5	竪穴住居	5C	309	4.45		古墳・奈良時代
SB015	029	住 居 6	竪穴住居	5C				古墳・奈良時代
SB014	028	住 居 7	竪穴住居	5B、5C	333			古墳・奈良時代
SB011	032	住 居 8	竪穴住居	5D	281		4.75	平 安 時 代
SB002	033	住 居 9	竪穴住居	5D		2.95		古墳・奈良時代
SB001	034	住 居 10	竪穴住居	5D		5.26	4.95	古墳・奈良時代
003	003	住 居 11	竪穴住居	7D、7E、8D、8E	327	4.44	4.00	古墳・奈良時代
004	005	住 居 12	竪穴住居	7D、7E、8D、8E	64	4.05	3.78	古墳・奈良時代
005	006	住 居 13	竪穴住居	7D、7E、8D、8E	300	4.73	5.35	古墳・奈良時代
006	004	住 居 14	竪穴住居	7D、7E、8D、8E	340	3.89	3.95	古墳・奈良時代
001	019	住 居 15	竪穴住居	10E	345	3.95	3.48	古墳・奈良時代
002	010	住 居 16	竪穴住居	10E	321	5.40	5.30	古墳・奈良時代
SB028	047	住 居 17	竪穴住居	11G、12G		4.74	4.65	古墳・奈良時代
SB026	046	住 居 18	竪穴住居	12F、13F	351	4.74	4.64	古墳・奈良時代
019	042	住 居 19	竪穴住居	14G				古墳・奈良時代
021	041	住 居 20	竪穴住居	14F	345	2.90	3.25	古墳・奈良時代
020	043	住 居 21	竪穴住居	15G	2	3.70	3.40	古墳・奈良時代
SB004	069	住 居 22	竪穴住居	17J		3.06	2.78	古墳・奈良時代
SB013	063	住 居 23	竪穴住居	18H、19H		5.86		古墳・奈良時代
SB003	078	住 居 24	竪穴住居	19H		3.43	3.15	古墳・奈良時代
SB037	072	住 居 25	竪穴住居	18K	337			奈良時代
028	056	住 居 26	竪穴住居	18J	330	3.50	3.70	古墳・奈良時代
029	058	住 居 27	竪穴住居	18J、19J	331	5.18	4.77	奈良時代
033	037	住 居 28	竪穴住居	18J、19J		4.13		奈良時代
031	059	住 居 29	竪穴住居	19J、19K	330			古墳・奈良時代
032	060	住 居 30	竪穴住居	19J、19K				古墳・奈良時代
SI102	074	住 居 31	竪穴住居	18K	330	7.06	6.73	古墳・奈良時代
SI105	076	住 居 32	竪穴住居	18K、18L、19K	333		5.95	古墳・奈良時代
SI100	075	住 居 33	竪穴住居	18L				古墳・奈良時代
SI104	079	住 居 34	竪穴住居	18K、19K		6.30		古墳・奈良時代
SI018	023	建 物 1	竪立柱建物	4C、4D	333	4.95	3.63	古墳・奈良時代
SI017	031	建 物 2	竪立柱建物	5D	107	4.24	3.93	古墳・奈良時代
ピット群01-17	081	建 物 3	竪立柱建物	10E、11E、11F	172	32.66	16.80	古墳・奈良時代
SB025	049	建 物 4	竪立柱建物	13F				古墳・奈良時代
SB024	050	建 物 5	竪立柱建物	12G、13G	89	6.75	4.95	古墳・奈良時代
SB029	051	建 物 6	竪立柱建物	13G				古墳・奈良時代
SB028	052	建 物 7	竪立柱建物	13G				古墳・奈良時代
SB027	053	建 物 8	竪立柱建物	13G	86	6.26	3.50	古墳・奈良時代
SB023	055	建 物 9	竪立柱建物	13G	58	3.22	2.02	古墳・奈良時代
SB020	054	建 物 10	竪立柱建物	13G				古墳・奈良時代
SB022	061	建 物 11	竪立柱建物	18H	62	4.18	3.13	古墳・奈良時代
SB006	066	建 物 12	竪立柱建物	17J	74	4.65	3.03	古墳・奈良時代
SB005	068	建 物 13	竪立柱建物	17J	5	4.23	4.00	古墳・奈良時代
SB008	065	建 物 14	竪立柱建物	16J、16J	84	5.10	3.23	古墳・奈良時代
SB007	067	建 物 15	竪立柱建物	17J、17J	168	10.10	5.10	古墳・奈良時代
SB010	070	建 物 16	竪立柱建物	17J				古墳・奈良時代
SB009	071	建 物 17	竪立柱建物	17J	197	6.54	4.20	古墳・奈良時代
SB011	017	粘土採掘坑 1	粘土採掘坑	4B		3.70	3.00	奈良時代
SB012	020	粘土採掘坑 2	粘土採掘坑	4B、4C		2.80	2.70	奈良時代
小竪穴01	007	土 坑 1	土 坑	10E		3.00	2.35	
SK003	013	土 坑 2	土 坑	11F		5.50	2.50	奈良時代
SK002	014	土 坑 3	土 坑	11E、11F		3.83	3.10	
SK001	015	土 坑 4	土 坑	11E、11F、12E、12F		2.98	2.88	
SK007	064	土 坑 5	土 坑	19H		3.55	2.75	奈良時代
030	002	土 坑 6	土 坑	18J		12.23		古墳時代
SX002	002	古墳(長者塚)	方 墳	17K、17L、18J、18K、18L、19K、19L				古墳時代
SX001、SD020	001	塚	塚	11G、11H、12G、12H		7.80	7.55	近 世
SX102	073	火葬墓	火葬墓			1.95	1.63	近 世

表3 遺構一覽表

出土遺物	押印番号	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
甕形蓋		弥生土器	甕	---	9.6	---	
住居1	1	土師器	甕	26.7	9.1	26.9	
住居1	2	土師器	杯	13.2	10.1	3.3	
住居1	3	土師器	杯	12.8	---	---	
住居3	1	須恵器	蓋	13.7	---	---	内外面赤彩
住居3	2	土師器	杯	8.3	---	7.1	
住居3	3	土師器	甕	12.2	---	---	
住居3	4	土師器	杯	13.2	---	---	
住居3	5	土師器	甕	13.4	---	---	
住居8	1	土師器	杯	10.6	5.7	3.3	
住居8	2	土師器	杯	13.6	7.0	4.8	
住居8	3	土師器	甕	21.2	---	---	
住居8	4	土師器	杯	10.6	5.6	3.4	
住居10	1	土師器	甕	27.4	---	---	
住居10	2	須恵器	蓋	14.4	---	---	
住居10	3	須恵器	蓋	12.0	---	---	
住居10	4	土師器	杯	15.2	---	---	
住居10	5	土師器	杯	11.5	---	3.8	
住居10	6	土師器	杯	14.2	---	4.6	
住居10	7	土師器	杯	13.0	---	---	
住居10	8	土師器	甕	13.8	---	---	
住居10	9	土師器	杯	13.4	---	4.5	
住居10	10	土師器	甕	27.0	---	---	
住居10	11	土師器	甕	---	6.7	---	
住居10	12	土師器	甕	19.6	---	---	
住居10	13	土師器	甕	---	---	---	
住居10	14	土師器	甕	---	---	---	
住居11	1	土師器	甕	20.6	---	---	
住居11	2	土師器	杯	14.6	7.0	3.9	
住居11	3	須恵器	杯	13.6	8.0	3.0	
住居13	1	土師器	杯	14.6	---	---	
住居13	2	土師器	甕	18.9	---	6.8	
住居13	3	土師器	甕	---	7.0	---	
住居15	1	土師器	甕	15.2	---	---	
住居15	2	土師器	杯	11.2	---	---	
住居19	1	土師器	杯	13.5	---	6.0	
住居25	1	土師器	甕	---	10.0	---	
住居25	2	土師器	甕	15.4	---	---	
住居25	3	土師器	鉢	7.4	4.0	5.2	
住居25	4	土師器	甕	---	---	9.0	
住居27	1	須恵器	杯	12.9	---	---	
住居28	1	土師器	甕	27.8	---	---	
住居28	2	須恵器	杯	14.7	---	---	
住居31	1	土師器	蓋	11.9	---	3.6	
住居31	2	土師器	蓋	14.5	---	3.4	
住居31	3	須恵器	蓋	12.7	---	---	
住居31	4	須恵器	蓋	12.2	---	4.2	
住居31	5	土師器	杯	12.5	---	3.9	
住居31	6	土師器	杯	12.6	---	3.7	
住居31	7	土師器	杯	11.7	---	3.9	
住居31	8	土師器	杯	11.6	---	3.3	
住居31	9	土師器	杯	12.9	---	4.1	
住居31	10	土師器	杯	13.0	---	3.9	
住居31	11	土師器	杯	12.2	---	---	
住居31	12	土師器	杯	12.3	5.8	4.1	
住居31	13	土師器	杯	6.8	3.5	2.9	
住居31	14	土師器	手捏土	4.5	4.0	2.8	
住居31	15	土師器	甕	---	9.5	---	
住居31	16	土師器	甕	18.8	7.3	29.2	
住居31	17	土師器	高杯	13.2	9.5	7.1	
住居31	18	土師器	高杯	15.0	10.9	10.5	
住居31	19	土師器	高杯	14.7	---	---	
住居31	20	土師器	高杯	---	11.7	---	
住居31	21	土師器	高杯	---	9.9	---	
住居32	1	土師器	蓋	14.6	---	4.2	
住居32	2	土師器	蓋	14.2	---	3.9	
住居32	3	土師器	蓋	13.8	---	---	
住居32	4	須恵器	蓋	12.7	---	---	
住居32	5	土師器	杯	12.4	---	3.3	
住居32	6	土師器	杯	14.8	---	3.8	
住居32	7	土師器	杯	11.7	---	4.7	
住居32	8	須恵器	蓋	9.8	---	3.2	
住居32	9	土師器	杯	14.5	---	3.8	
住居32	10	土師器	杯	7.4	4.5	4.2	外面赤彩

表4 土器一覧表(1)

出土遺構	検出番号	種類	部種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
住居32	11	土師器	杯	9.9	---	4.5	
住居32	12	土師器	高杯	---	7.7	---	
住居32	15	土師器	高杯	---	8.0	---	
住居32	16	土師器	高杯	---	10.4	---	
住居32	17	土師器	甕	---	7.5	---	
住居32	18	土師器	甕	---	7.0	---	
住居33	1	土師器	甕	15.0	5.3	16.5	
住居33	2	土師器	甕	---	6.0	---	
住居33	3	土師器	小型甕	9.8	4.5	10.2	
住居34	1	土師器	小型甕	13.0	6.5	12.5	
住居34	2	土師器	鉢	18.2	5.2	8.9	
住居34	3	土師器	杯	10.6	---	3.4	
住居34	4	土師器	杯	11.3	---	3.9	
住居34	5	須恵器	杯	10.9	---	3.4	
粘土採掘坑 1	1	土師器	甕	22.4	---	---	
粘土採掘坑 1	2	土師器	甕	17.2	7.4	28.2	
土坑 2	1	須恵器	高台付杯	---	9.4	---	
土坑 3	1	土師器	杯	15.6	---	5.9	
土坑 3	2	土師器	高杯	---	10.8	---	
土坑 3	3	土師器	台付甕	---	9.4	---	
土坑 5	1	須恵器	蓋	16.2	---	3.8	
土坑 6	1	土師器	杯	14.3	---	4.7	
土坑 6	2	土師器	杯	9.2	---	4.6	
古墳	1	土師器	甕	26.0	---	---	
古墳	2	土師器	甕	25.8	---	---	
古墳	3	土師器	甕	18.1	---	---	
古墳	4	土師器	杯	14.9	9.0	4.3	
古墳	5	土師器	杯	12.1	---	3.2	
古墳	6	土師器	杯	12.3	7.8	3.3	
古墳	7	土師器	杯	10.9	---	3.2	
古墳	8	土師器	甕	15.7	---	---	
古墳	9	土師器	杯	14.8	8.8	3.4	
古墳	10	土師器	杯	11.9	---	5.5	
古墳	11	土師器	杯	15.1	---	---	
古墳	12	土師器	杯	13.2	---	4.2	
古墳	13	土師器	甕	---	6.4	---	
古墳	14	土師器	杯	12.8	---	---	
古墳	15	土師器	杯	11.1	---	3.2	
古墳	16	土師器	甕	---	6.7	---	
古墳	17	土師器	埴	10.4	1.7	9.1	
古墳	18	土師器	埴	9.4	---	4.7	
古墳	19	土師器	埴	---	---	---	
古墳	20	土師器	甕	---	6.6	---	
古墳	21	土師器	高杯	20.4	---	---	
古墳	22	土師器	高杯	14.3	---	---	
古墳	23	土師器	甕	---	9.8	---	
古墳	24	かわらけ	内耳	---	---	---	
古墳	25	土師器	高杯	---	11.9	---	
古墳	26	須恵器	蓋	15.6	---	4.9	
古墳	27	須恵器	蓋	15.8	---	3.8	
古墳	28	須恵器	蓋	14.6	---	---	
古墳	29	須恵器	蓋	14.2	---	4.7	
古墳	30	須恵器	蓋	15.2	---	3.7	
古墳	31	須恵器	蓋	12.7	---	---	
古墳	32	須恵器	蓋	13.8	---	4.1	
古墳	33	須恵器	蓋	16.1	---	3.9	
古墳	34	須恵器	蓋	15.2	---	---	
古墳	35	須恵器	蓋	---	---	---	
古墳	36	須恵器	蓋	---	---	---	
古墳	37	須恵器	蓋	15.4	---	---	
古墳	38	須恵器	蓋	---	---	---	
古墳	39	須恵器	蓋	15.5	---	---	
古墳	40	須恵器	杯	16.2	---	---	
古墳	41	須恵器	高台付杯	13.7	10.0	3.9	
古墳	42	須恵器	高台付杯	14.2	10.2	5.2	
古墳	43	須恵器	杯	12.0	---	---	
古墳	44	須恵器	高台付杯	13.8	10.2	3.9	
古墳	45	須恵器	高台付杯	---	11.2	---	
古墳	46	須恵器	杯	9.6	---	---	
古墳	47	須恵器	高台付杯	15.2	11.4	4.2	
古墳	48	須恵器	高台付杯	13.2	10.4	4.5	
古墳	49	須恵器	杯	10.4	---	---	
古墳	50	須恵器	高台付杯	15.0	11.3	3.8	
古墳	51	須恵器	高台付杯	14.6	9.2	5.1	

表4 土器一覽表(2)

出土遺構	検出番号	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
古墳	52	須恵器	杯	10.4	4.5	4.7	
古墳	53	須恵器	高台付杯	14.4	10.2	4.0	
古墳	54	須恵器	高台付杯	---	9.0	---	
古墳	55	須恵器	杯	15.6	7.3	4.2	
古墳	56	須恵器	高台付杯	15.6	9.8	4.4	
古墳	57	須恵器	高台付杯	---	9.8	---	
古墳	58	須恵器	杯	16.0	---	4.2	
古墳	59	須恵器	高台付杯	---	8.8	---	
古墳	60	須恵器	高台付杯	---	10.6	---	
古墳	61	須恵器	平瓶	6.9	4.9	16.2	
古墳	62	須恵器	壺	10.6	---	---	
古墳	63	須恵器	横瓶	---	---	---	
古墳	64	須恵器	横瓶	---	---	---	
古墳	65	須恵器	横瓶	---	---	---	
古墳	66	須恵器	横瓶	---	---	---	
38グランド	38-1	土師器	杯	16.5	8.3	5.6	
38グランド	38-2	土師器	小甕	10.0	---	---	
38グランド	38-3	須恵器	蓋	8.9	---	---	
38グランド	38-4	土師器	杯	12.9	6.8	4.0	
38グランド	38-5	土師器	鉢	10.2	6.6	8.2	
38グランド	38-6	土師器	小甕	---	6.0	---	
38グランド	38-7	須恵器	瓶	8.2	---	---	
3Cグランド	3C-1	土師器	甕	20.0	---	---	
3Cグランド	3C-2	土師器	壺	10.6	---	2.3	
3Cグランド	3C-3	須恵器	蓋	12.8	---	3.8	
3Cグランド	3C-4	土師器	杯	10.8	---	---	
3Cグランド	3C-5	須恵器	杯	9.6	4.3	3.3	
3Cグランド	3C-6	土師器	小甕	13.0	---	---	
3Cグランド	3C-7	土師器	杯	13.8	---	---	
3Cグランド	3C-8	土師器	甕	---	9.2	---	
3Cグランド	3C-9	土師器	甕	---	6.1	---	
3Cグランド	3C-10	土師器	甕	---	6.8	---	
4Bグランド	4B-1	土師器	杯	13.6	---	---	
4Bグランド	4B-2	土師器	杯	10.7	---	4.1	
4Bグランド	4B-3	土師器	杯	15.0	---	5.1	
4Bグランド	4B-4	土師器	杯	14.6	---	4.7	
4Bグランド	4B-5	土師器	杯	15.0	---	4.7	
4Bグランド	4B-6	土師器	杯	13.6	---	5.1	
4Bグランド	4B-7	土師器	杯	15.2	---	5.1	
4Bグランド	4B-8	土師器	杯	14.8	---	---	
4Bグランド	4B-9	土師器	杯	13.3	---	---	
4Bグランド	4B-10	土師器	杯	14.5	---	---	
4Bグランド	4B-11	土師器	杯	14.9	---	5.4	
4Bグランド	4B-12	土師器	杯	13.8	---	4.5	
4Bグランド	4B-13	土師器	杯	14.7	---	6.0	
4Bグランド	4B-14	土師器	杯	13.6	---	5.3	
4Bグランド	4B-15	土師器	杯	15.3	---	---	
4Bグランド	4B-16	土師器	杯	14.0	---	5.1	
4Bグランド	4B-17	土師器	杯	13.8	---	---	
4Bグランド	4B-18	土師器	杯	13.0	---	4.6	
4Bグランド	4B-19	土師器	杯	13.9	---	5.0	
4Bグランド	4B-20	土師器	杯	13.5	---	5.1	
4Bグランド	4B-21	土師器	杯	16.2	---	6.1	
4Bグランド	4B-22	土師器	杯	12.2	---	5.0	
4Bグランド	4B-23	土師器	杯	12.6	---	4.6	
4Bグランド	4B-24	土師器	杯	15.6	---	---	
4Bグランド	4B-25	土師器	杯	14.6	---	5.6	
4Bグランド	4B-26	土師器	杯	14.8	---	---	
4Bグランド	4B-27	土師器	杯	14.3	---	---	
4Bグランド	4B-28	土師器	杯	13.3	---	5.1	
4Bグランド	4B-29	土師器	杯	16.2	---	---	
4Bグランド	4B-30	土師器	杯	13.1	---	5.1	
4Bグランド	4B-31	土師器	杯	16.6	---	5.0	
4Bグランド	4B-32	土師器	杯	13.7	---	---	
4Bグランド	4B-33	土師器	杯	17.7	---	---	
4Bグランド	4B-34	土師器	杯	21.4	---	---	
4Bグランド	4B-35	土師器	杯	14.7	---	4.8	
4Bグランド	4B-36	土師器	杯	18.3	---	---	
4Bグランド	4B-37	土師器	杯	15.4	---	5.9	
4Bグランド	4B-38	土師器	杯	12.8	---	4.6	
4Bグランド	4B-39	土師器	杯	13.5	---	5.1	
4Bグランド	4B-40	土師器	杯	16.3	---	5.6	
4Bグランド	4B-41	土師器	杯	13.6	---	4.1	
4Bグランド	4B-42	土師器	杯	13.6	---	4.1	

表4 土器一覧表(3)

出土遺構	探洞番号	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
4Bグリッド	4B-43	土師器	杯	14.9	---	4.1	
4Bグリッド	4B-44	土師器	杯	15.8	---	---	
4Bグリッド	4B-45	土師器	杯	13.8	---	---	
4Bグリッド	4B-46	土師器	杯	12.8	---	4.2	
4Bグリッド	4B-47	土師器	杯	15.6	---	5.1	
4Bグリッド	4B-48	土師器	杯	15.7	---	5.8	
4Bグリッド	4B-49	土師器	杯	13.8	---	4.2	
4Bグリッド	4B-50	土師器	杯	13.4	---	3.8	
4Bグリッド	4B-51	土師器	杯	15.2	---	4.0	
4Bグリッド	4B-52	土師器	杯	15.7	---	4.8	
4Bグリッド	4B-53	土師器	杯	14.1	---	4.2	
4Bグリッド	4B-54	土師器	杯	17.0	---	3.8	
4Bグリッド	4B-55	土師器	杯	13.4	---	5.9	
4Bグリッド	4B-56	土師器	杯	15.8	---	6.1	
4Bグリッド	4B-57	土師器	皿	17.7	---	3.4	
4Bグリッド	4B-58	土師器	杯	14.8	---	---	
4Bグリッド	4B-59	土師器	杯	16.7	---	7.1	
4Bグリッド	4B-60	土師器	杯	11.7	7.3	3.6	
4Bグリッド	4B-61	土師器	杯	14.2	6.5	4.7	
4Bグリッド	4B-62	土師器	杯	12.7	5.5	6.3	
4Bグリッド	4B-63	土師器	杯	13.6	8.0	5.6	
4Bグリッド	4B-64	土師器	杯	14.7	6.3	5.1	
4Bグリッド	4B-65	土師器	杯	13.5	8.8	5.8	
4Bグリッド	4B-66	土師器	杯	11.6	6.0	4.1	
4Bグリッド	4B-67	土師器	杯	15.7	7.0	5.0	
4Bグリッド	4B-68	土師器	杯	10.7	7.0	5.1	
4Bグリッド	4B-69	土師器	杯	12.2	6.5	4.2	
4Bグリッド	4B-70	土師器	杯	15.1	---	---	
4Bグリッド	4B-71	土師器	杯	12.4	6.3	4.6	
4Bグリッド	4B-72	土師器	杯	13.3	8.2	3.1	
4Bグリッド	4B-73	土師器	杯	11.0	5.8	3.6	
4Bグリッド	4B-74	土師器	杯	12.5	7.0	4.1	
4Bグリッド	4B-75	土師器	杯	12.6	6.0	5.1	
4Bグリッド	4B-76	土師器	杯	12.7	6.4	5.1	
4Bグリッド	4B-77	土師器	杯	13.8	8.0	4.2	
4Bグリッド	4B-78	土師器	杯	13.4	7.0	3.7	
4Bグリッド	4B-79	土師器	杯	14.1	7.0	4.1	
4Bグリッド	4B-80	土師器	杯	13.6	7.8	4.0	
4Bグリッド	4B-81	土師器	杯	12.4	7.5	3.3	
4Bグリッド	4B-82	土師器	杯	14.7	9.0	3.2	
4Bグリッド	4B-83	土師器	杯	13.1	6.8	4.1	
4Bグリッド	4B-84	土師器	杯	14.3	---	---	
4Bグリッド	4B-85	土師器	甕	23.1	10.4	32.1	
4Bグリッド	4B-86	土師器	甕	16.3	---	---	
4Bグリッド	4B-87	土師器	甕	25.2	---	---	
4Bグリッド	4B-88	土師器	甕	21.0	---	---	
4Bグリッド	4B-89	土師器	甕	23.5	8.9	28.2	
4Bグリッド	4B-90	土師器	甕	---	6.5	---	
4Bグリッド	4B-91	土師器	甕	19.5	---	---	
4Bグリッド	4B-92	土師器	甕	22.3	---	---	
4Bグリッド	4B-93	土師器	甕	19.5	---	---	
4Bグリッド	4B-94	土師器	甕	18.8	---	---	
4Bグリッド	4B-95	土師器	甕	21.6	---	---	
4Bグリッド	4B-96	土師器	甕	21.7	---	---	
4Bグリッド	4B-97	土師器	甕	19.4	---	---	
4Bグリッド	4B-98	土師器	小型甕	14.3	6.5	12.9	
4Bグリッド	4B-99	土師器	小型甕	17.3	7.7	14.1	
4Bグリッド	4B-100	土師器	小型甕	14.0	8.0	15.3	
4Bグリッド	4B-101	土師器	小型甕	13.4	9.0	13.4	
4Bグリッド	4B-102	土師器	小型甕	15.7	---	---	
4Bグリッド	4B-103	土師器	小型甕	13.4	---	---	
4Bグリッド	4B-104	土師器	小型甕	12.7	5.0	10.5	
4Bグリッド	4B-105	土師器	鉢	24.9	---	---	
4Bグリッド	4B-106	土師器	甕	---	6.7	---	
4Bグリッド	4B-107	土師器	小型甕	15.4	---	---	
4Bグリッド	4B-108	土師器	甕	---	7.9	---	
4Bグリッド	4B-109	土師器	小型甕	---	6.8	---	
4Bグリッド	4B-110	土師器	小型甕	---	7.0	---	
4Bグリッド	4B-111	土師器	甕	---	7.0	---	
4Bグリッド	4B-112	土師器	小型甕	13.3	---	---	
4Bグリッド	4B-113	土師器	甕	15.2	---	---	
4Bグリッド	4B-114	土師器	高台付甕	---	10.5	---	
4Bグリッド	4B-115	土師器	小型甕	---	7.8	---	
4Bグリッド	4B-116	土師器	小型甕	---	7.5	---	

表4 土器一覽表(4)

出土遺構	押込番号	種 類	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備 考	
4Bグリッド	4B-117	土師器	甕	---	8.2	---		
4Bグリッド	4B-118	土師器	高杯	15.4	10.9	10.2		
4Bグリッド	4B-119	土師器	高杯	14.3	10.8	9.6		
4Bグリッド	4B-120	土師器	高杯	13.3	8.9	11.2		
4Bグリッド	4B-121	土師器	高杯	14.6	10.4	9.8		
4Bグリッド	4B-122	土師器	高杯	15.3	9.9	9.4		
4Bグリッド	4B-123	土師器	脚	---	9.4	---		
4Bグリッド	4B-124	土師器	高杯	---	11.6	---		
4Bグリッド	4B-125	土師器	高杯	14.5	---	---		
4Bグリッド	4B-126	土師器	脚	---	6.3	---		
4Bグリッド	4B-127	土師器	高杯	---	9.8	---		
4Bグリッド	4B-128	土師器	脚	---	11.0	---		
4Bグリッド	4B-129	土師器	脚	---	9.8	---		
4Bグリッド	4B-130	土師器	脚	---	11.4	---		
4Bグリッド	4B-131	土師器	脚	---	9.6	---		
4Bグリッド	4B-132	土師器	脚	---	10.4	---		
4Bグリッド	4B-135	須恵器	甕	16.0	---	3.6		
4Bグリッド	4B-136	須恵器	甕	13.6	---	3.1		
4Bグリッド	4B-137	須恵器	甕	16.3	---	---		
4Bグリッド	4B-138	須恵器	杯	14.7	11.0	4.9		
4Bグリッド	4B-139	須恵器	甕	---	---	---		
4Bグリッド	4B-140	須恵器	甕	---	---	---		
4Bグリッド	4B-141	須恵器	杯	13.1	---	---		
4Bグリッド	4B-142	須恵器	杯	13.8	10.0	3.5		
4Bグリッド	4B-143	須恵器	杯	13.7	7.8	3.7		
4Bグリッド	4B-144	須恵器	杯	14.3	11.4	3.8		
4Bグリッド	4B-145	須恵器	杯	13.2	6.8	3.9		
4Bグリッド	4B-146	須恵器	杯	15.1	8.7	4.6		
4Bグリッド	4B-147	須恵器	杯	14.2	---	---		
4Bグリッド	4B-148	須恵器	甕	9.5	---	---		
4Bグリッド	4B-149	須恵器	杯	15.9	---	---		
4Bグリッド	4B-150	須恵器	杯	12.4	9.0	3.9		
4Bグリッド	4B-151	須恵器	甕	---	5.0	---		
4Bグリッド	4B-152	須恵器	高台付杯	15.2	8.4	6.1		
4Bグリッド	4B-153	須恵器	杯	11.2	6.4	4.5		
4Bグリッド	4B-154	須恵器	甕	21.2	---	---		
4Bグリッド	4B-155	須恵器	高台付杯	12.4	7.8	4.5		
4Bグリッド	4B-156	須恵器	杯	---	8.7	---		
4Bグリッド	4B-157	須恵器	高杯	---	---	---		
4Bグリッド	4B-158	須恵器	高台付杯	11.0	8.0	4.2		
4Bグリッド	4B-159	須恵器	高台付杯	---	10.0	---		
4Bグリッド	4B-160	須恵器	高台付杯	---	10.6	---		
4Bグリッド	4B-161	須恵器	高台付杯	---	10.6	---		
4Cグリッド	4C-1	土師器	甕	14.9	---	---	内外面赤彩	
4Cグリッド	4C-2	土師器	杯	11.2	---	3.6		
4Cグリッド	4C-3	土師器	杯	10.2	---	4.0		
4Cグリッド	4C-4	土師器	甕	14.0	---	---		
4Cグリッド	4C-5	土師器	杯	13.2	---	---		
4Cグリッド	4C-6	土師器	杯	12.8	---	---		
4Cグリッド	4C-7	土師器	杯	13.5	---	4.6		
4Cグリッド	4C-8	土師器	杯	16.0	---	4.7		
4Cグリッド	4C-9	土師器	杯	13.4	---	5.0		
4Cグリッド	4C-10	土師器	杯	12.2	---	3.7		
4Cグリッド	4C-11	土師器	杯	15.2	---	5.3		
4Cグリッド	4C-12	土師器	鉢	15.2	---	---		
4Cグリッド	4C-13	土師器	杯	13.5	7.7	3.6		
4Cグリッド	4C-14	土師器	杯	14.2	---	---		
4Cグリッド	4C-15	土師器	鉢	18.3	8.4	7.7		
4Cグリッド	4C-16	土師器	杯	12.1	6.6	3.8		
4Cグリッド	4C-17	土師器	杯	13.2	---	---		
4Cグリッド	4C-18	土師器	杯	12.0	7.0	3.6		
4Cグリッド	4C-19	土師器	高杯	---	10.0	---		
4Cグリッド	4C-20	土師器	高杯	17.8	---	---		
4Cグリッド	4C-21	土師器	杯	11.4	6.8	4.1		
4Cグリッド	4C-22	土師器	杯	13.0	---	---		
4Cグリッド	4C-23	土師器	高杯	---	---	---	外外面赤彩 外面赤彩	
4Cグリッド	4C-24	土師器	高杯	---	11.7	---		
4Cグリッド	4C-25	土師器	杯	12.8	8.4	3.5		
4Cグリッド	4C-26	かわらけ	内耳	---	---	---		
4Cグリッド	4C-28	土師器	甕	22.0	9.6	32.0		
4Cグリッド	4C-29	土師器	甕	19.4	---	---		
4Cグリッド	4C-30	土師器	甕	---	9.0	---		
4Cグリッド	4C-31	土師器	甕	19.2	---	---		
4Cグリッド	4C-32	土師器	甕	24.9	---	---		

表4 土器一覧表(5)

出土遺構	押附番号	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
4Cグリッド	4C-33	土師器	小型甕	---	6.5	---	
4Cグリッド	4C-34	土師器	小型甕	13.2	6.4	11.7	
4Cグリッド	4C-35	土師器	甕	---	9.0	---	
4Cグリッド	4C-36	土師器	小型甕	---	8.6	---	
4Cグリッド	4C-37	須恵器	蓋	15.8	---	3.5	
4Cグリッド	4C-38	須恵器	蓋	14.0	---	---	
4Cグリッド	4C-39	須恵器	杯	12.9	7.6	4.1	
4Cグリッド	4C-40	須恵器	蓋	14.8	---	---	
4Cグリッド	4C-41	須恵器	高台付杯	16.0	10.3	7.1	
4Cグリッド	4C-42	須恵器	高台付杯	14.2	11.3	3.5	
4Cグリッド	4C-43	須恵器	甕	10.8	---	---	
4Cグリッド	4C-44	須恵器	大甕	24.0	---	---	
4Cグリッド	4C-45	須恵器	横瓶	8.7	---	---	
4Cグリッド	4C-46	須恵器	平瓶	---	---	---	
4Dグリッド	4D-1	須恵器	杯	12.2	6.6	4.3	
4Dグリッド	4D-2	土師器	小型鉢	10.4	---	---	
4Dグリッド	4D-3	かわらけ	燈明皿	8.2	6.0	1.4	
5Bグリッド	5B-1	土師器	杯	14.5	---	3.9	
5Cグリッド	5C-1	土師器	杯	8.8	---	3.5	
5Cグリッド	5C-2	土師器	杯	12.1	---	---	
5Cグリッド	5C-3	土師器	杯	10.8	---	---	内外面赤彩
5Cグリッド	5C-4	須恵器	高台付杯	15.8	---	---	
5Cグリッド	5C-5	土師器	杯	17.0	11.4	4.2	
5Cグリッド	5C-6	土師器	高杯	17.7	---	---	
5Dグリッド	5D-1	土師器	杯	9.5	---	3.2	
5Dグリッド	5D-2	土師器	杯	13.8	---	---	
5Dグリッド	5D-3	土師器	杯	13.6	6.9	4.1	
5Dグリッド	5D-4	須恵器	杯	7.8	2.9	2.9	
5Dグリッド	5D-5	土師器	鉢	15.3	7.9	10.5	
5Dグリッド	5D-6	土師器	鉢	12.0	4.9	7.9	
5Dグリッド	5D-7	土師器	ミニチュア	5.1	---	2.1	
5Dグリッド	5D-8	須恵器	杯	8.0	---	3.9	
5Dグリッド	5D-9	土師器	鉢	---	9.4	---	
5Dグリッド	5D-10	土師器	鉢	---	6.2	---	
5Dグリッド	5D-11	土師器	甕	29.9	---	---	
5Dグリッド	5D-12	土師器	甕	25.2	---	---	
5Dグリッド	5D-13	土師器	甕	21.6	---	---	
5Dグリッド	5D-14	土師器	甕	18.8	---	---	
5Dグリッド	5D-15	土師器	甕	20.8	8.6	29.3	
5Dグリッド	5D-16	土師器	甕	---	8.4	---	
5Dグリッド	5D-17	土師器	甕	---	6.6	---	
5Dグリッド	5D-18	土師器	甕	---	7.2	---	
5Dグリッド	5D-19	土師器	甕	---	6.9	---	
5Eグリッド	5E-1	須恵器	高台付杯	12.4	8.5	3.0	
7Dグリッド	7D-1	陶器	燈明皿	7.8	3.2	1.6	
10Pグリッド	10P-1	土師器	甕	---	6.6	---	
11Eグリッド	11E-1	土師器	杯	11.0	---	4.0	
11Fグリッド	11F-1	土師器	杯	11.8	5.0	3.6	
11Gグリッド	11G-1	土師器	杯	12.1	6.0	3.9	
17Lグリッド	17L-1	須恵器	杯	13.0	8.6	3.4	
18Iグリッド	18I-1	土師器	杯	13.0	8.1	3.0	
18Jグリッド	18J-2	土師器	鉢	10.9	6.2	6.8	
19Jグリッド	19J-1	土師器	杯	15.8	9.0	5.1	
21Jグリッド	21J-1	須恵器	高台付杯	15.4	---	---	
21Jグリッド	21J-2	土師器	杯	14.5	---	---	
21Jグリッド	21J-3	土師器	杯	13.4	7.0	4.5	
21Jグリッド	21J-4	須恵器	甕	20.2	---	---	
21Jグリッド	21J-5	土師器	高台付杯	8.7	6.3	5.1	
21Jグリッド	21J-6	土師器	高台付杯	8.1	5.8	5.0	
表棟	表棟	土師器	杯	12.3	6.5	3.9	
トレンチ	トレンチ	土師器	杯	11.6	---	4.0	
谷部	谷部	陶器	小皿	6.6	3.6	1.4	
南側調査区	南側調査区	土師器	甕	14.7	---	---	
塚	塚	かわらけ	内耳	---	---	---	

表4 土器一覧表(6)

出土遺構	押図番号	器種及び部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
住居9	第96図 13	刀子の茎	7.97	1.00	0.42	12.83
住居11	第96図 2	刀子	5.76	1.46	1.13	13.33
住居11	第96図 3	刀子	5.56	1.55	0.70	15.22
住居20	第96図 23	火打金	8.00	3.24	1.09	45.66
住居28	第96図 8	刀子	5.13	1.39	1.20	22.54
建物2	第96図 5	刀子	4.10	1.59	0.66	8.26
土坑2	第96図 1	刀子	3.26	1.10	0.60	17.26
土坑2	第96図 24	環	3.86	3.22	1.13	16.40
古墳	第78図 1	鍔	3.70	1.65	0.18	2.41
古墳	第78図 2	鍔	2.73	1.45	0.15	1.51
古墳	第78図 3	鍔	3.56	1.68	0.19	2.81
古墳	第78図 4	鍔	4.00	1.74	0.28	4.07
古墳	第78図 5	鍔	4.19	1.53	0.22	3.13
古墳	第78図 6	鍔	2.99	1.54	0.22	1.83
古墳	第78図 7	鍔	4.02	1.16	0.25	3.67
古墳	第78図 8	鍔	4.85	1.88	0.19	4.00
古墳	第78図 9	鍔	4.21	1.58	0.18	2.59
古墳	第78図 10	鍔	4.55	1.22	0.21	3.55
古墳	第78図 11	鍔	4.69	1.89	0.13	3.39
古墳	第78図 12	鍔	3.57	1.84	0.15	2.82
古墳	第78図 13	鍔	4.45	1.97	0.27	3.79
古墳	第78図 14	刀子	5.77	1.97	0.74	10.90
古墳	第78図 15	刀子	8.46	1.46	0.63	20.56
古墳	第78図 16	鍔の茎	3.77	0.90	0.64	15.43
古墳	第78図 17	〃	8.18	0.63	0.43	4.39
古墳	第78図 18	防塵車軸	9.00	0.44	0.50	16.80
古墳	第78図 19	刀子	2.50	0.56	0.40	0.92
古墳	第78図 20	刀子	3.20	0.72	0.57	6.24
古墳	第78図 24	鈿	7.00	6.86	0.38	35.47
3Bグリッド	第96図 11	刀子の茎	2.88	1.05	1.02	5.16
3Bグリッド	第97図 27	鋤先	8.30	2.50	1.06	312.97
3Cグリッド	第96図 20	鍔の茎	7.80	0.85	0.75	8.53
3Cグリッド	第96図 25	斧	8.80	4.04	1.14	146.08
4Bグリッド	第96図 10	刀子の茎	0.24	1.07	0.58	13.36
4Bグリッド	第96図 14	〃	3.70	0.77	0.40	3.42
4Bグリッド	第96図 15	〃	2.77	0.95	0.69	4.98
4Bグリッド	第96図 16	〃	6.96	0.90	0.40	6.67
4Bグリッド	第96図 17	〃	4.72	1.14	0.73	7.67
4Bグリッド	第97図 29	不明鉄製品	4.23	2.53	0.55	6.94
4Cグリッド	第97図 30	キセル管	6.39	1.00	1.00	11.55
5Cグリッド	第96図 9	刀子の茎	5.73	0.80	0.97	7.67
5Cグリッド	第96図 12	〃	5.47	1.74	0.75	14.60
5Cグリッド	第96図 18	不明鉄製品	5.38	1.91	0.49	14.98
5Cグリッド	第96図 22	鍔	6.66	4.17	0.54	25.16
5Cグリッド	第96図 26	斧	4.80	3.83	1.51	59.63
5Cグリッド	第97図 28	釘	5.88	0.91	0.94	13.41
5Dグリッド	第96図 6	刀子の茎	4.64	1.33	0.78	13.77
6Cグリッド	第96図 19	鍔の茎	7.62	0.47	0.42	7.01
12Gグリッド	第96図 4	刀子	9.16	1.19	4.90	13.58
21Jグリッド	第96図 7	刀子	6.73	1.36	1.43	18.94

表5 金属製品一覽表

出土遺構	押図番号	種類	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
住居32	第46図 13	土製品	支脚	19.00	7.67	6.65	690.92
住居32	第46図 14	土製品	支脚	19.40	6.73	6.17	624.98
住居32	第98図 2	石製品	砥石	5.05	2.61	1.95	55.33
古墳	第78図 21	石製品	砥石	6.81	4.65	0.82	31.48
古墳	第78図 22	ガラス製品	玉	0.46	0.45	0.47	0.18
古墳	第78図 23	石製品	巡方	4.03	4.01	0.66	23.81
3Bグリッド	第99図 3	木製品	丸板	16.30	15.30	0.80	—
3Bグリッド	第98図 6	土製品	土鏝	1.89	1.33	1.26	3.69
3Bグリッド	第98図 7	土製品	土鏝	4.10	1.58	1.65	7.42
4Bグリッド	第98図 1	石製品	砥石	7.40	2.72	0.73	23.10
4Bグリッド	第98図 3	石製品	砥石	18.20	4.57	2.23	432.26
4Bグリッド	第89図 4B-133	土製品	支脚	15.70	7.52	7.64	1004.66
4Bグリッド	第89図 4B-134	土製品	支脚	8.30	7.84	—	216.53
4Cグリッド	第98図 5	石製品	砥石	5.58	2.48	3.29	91.15
4Cグリッド	第91図 4C-27	土製品	支脚	9.20	5.26	5.92	380.59
6Cグリッド	第98図 4	石製品	砥石	7.73	5.19	2.57	200.08
包含層	第99図 1	木製品	不明	32.50	24.50	5.50	—
包含層	第99図 2	木製品	杭	39.80	10.00	8.50	—

表6 その他の遺物一覧表

第3章 ま と め

今富遺跡の遺構は、大部分が古墳時代から奈良時代に属する。それ以前の時代の遺構としては、縄文時代の陥穴と炉穴、弥生時代の壟棺墓がある。縄文時代の遺構については、遺物がほとんど出土しなかったため遺構の年代は不明であるが、おそらく炉穴については縄文時代早期と思われる。弥生時代の壟棺墓の年代は、弥生時代中期である。

遺物が出土して、年代の比定できる住居は13軒あった。その他に、出土土器によって年代のわかる遺構は、土坑、古墳、包含層等がある。掘立柱建物跡については、遺構に伴う遺物が僅少であったために、その年代を比定するのが困難である。

主に土器器杯の土器編年を基準にして、遺構の編年を考えてみたい(第103、104図)。7世紀前半の住居跡として、住居10、15、31、32、3、34がある。住居19および包含層から出土した土器は、7世紀後半と考えられる。古墳出土の土器は、7世紀後半から7世紀末の時期であろう。住居13、25および土坑2、5、粘土採掘坑1から出土した土器は8世紀のものであり、住居27、1、28から出土した土器は、8世紀後半のものである。住居8から出土した土器は9世紀前半のものである。

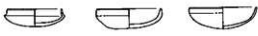


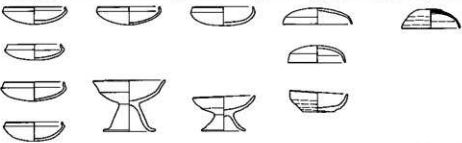




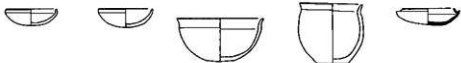



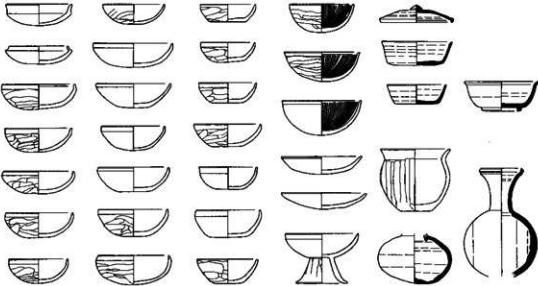

土器編年を基準に遺構の年代を確定したが、年代推定の基準となる遺物が出土しなかった遺構については、時期を確定することができなかった。

7世紀前半の住居は今富遺跡の調査範囲全体に散在していた。調査区北側の段丘上、中央の平地、南側の古墳墳丘下に分布していた。7世紀後半の住居は調査区中央の平地上にあった。8世紀の住居は、調査区北側の段丘上、中央の平地、南側の古墳周辺に分布し、7世紀の住居とほぼ同じように調査範囲全体に散在していた。9世紀前半の住居は1軒だけ、調査区北側の段丘上にあった。それぞれの時代の住居は、特定の場所に集中することなく散在していた。また、住居の主軸方位も北西を向く住居が多かった。調査区南側の古墳周辺では、古墳墳丘下に7世紀前半の住居があり、その後住居が廃絶されてから終末期の古墳が築造され、さらに古墳周辺に奈良時代の住居が営まれていた。局地的であるが、時間的に断絶することなく土地が利用された。

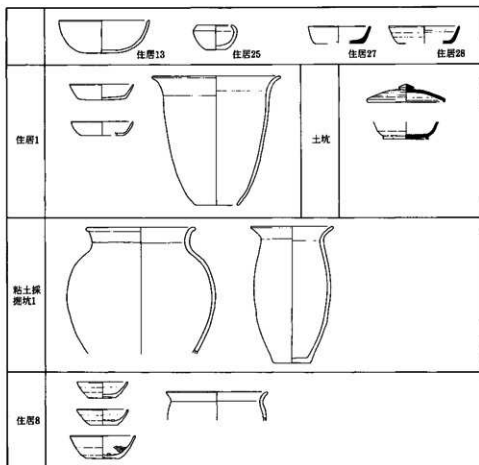
建物跡については、調査区南側で数棟が集中する以外は、調査範囲全体に散在していた。また、ほとんど住居跡と共伴しないので、建物と住居の関連性は薄かったと思われる。調査区南側で集中していた数棟の建物は、ほぼ同一の方向を向いており、築造時期にさほど大きな時間差がなかったと思われる。1軒をのぞいて付近に住居跡がないので、住居との関連性はあまりうかがえない。

調査区北側の段丘上から検出された粘土採掘坑は、住居内のカマド袖部構築用に粘土を採取した際の土坑であっただろう。

大量の土器が出土した調査区北側段丘の遺物包含層の性格については、不明な点が多い。包含層に伴う明確な遺構はない。また、土器の出土状況および数量から判断からすると、日常的な居住空間として利用されて遺物が残ったような状態ではない。出土した土器は、時間的にほぼ7世紀後半の比較的短い時間帯に比定できるため、単純に長期間にわたって廃棄物が滞留したわけではなさそうである。上屋構造の存在した可能性も考えられるが、そのような構造物を物語る木質の遺存体は出土していない。遺物の中には主に古墳から出土する須恵器瓶のような特異な遺物も含まれていた。おそらく非日常的な特殊行為の遂行に伴って大量の土器が消費され、それが遺物となって出土したのであろう。

住居10				
住居15				
住居31				
住居3				
住居32				
住居34				
住居19		土坑6		
包含層				
古墳				

第103図 7世紀の土器編年



第104図 8・9世紀の土器編年

調査区南側の古墳の年代は、7世紀後半ないしは世紀末である。大量に土器が出土した包含層の年代よりもやや新しい。この古墳は、7世紀前半の住居が廃絶された後に築造され、そして、築造されてから8世紀に周囲に隣接して住居が営まれた。奈良時代になると居住空間が少なくなったからであろうか、古墳のすぐ側の人々は住居を構えたのであった。

今富遺跡は古墳時代から奈良時代にかけての集落であり、また集落に付随するかのようにして終末期の古墳が築造された。古墳時代から奈良時代にかけての集落と古墳の状況を示す数少ない考古資料である。

写真図版



今富遺跡周辺航空写真（1967年撮影、約1/10,000）



今富遺跡周辺航空写真（1997年撮影、約1/10,000）



灶穴



陷穴



蛋棺墓



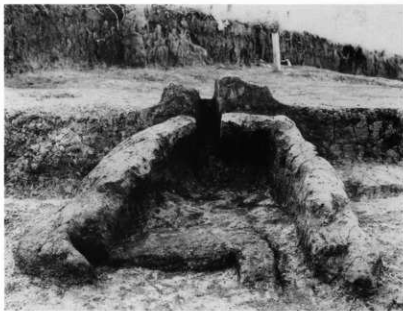
住居1



住居3



住居3カマド
遺物出土状態



住居3カマド



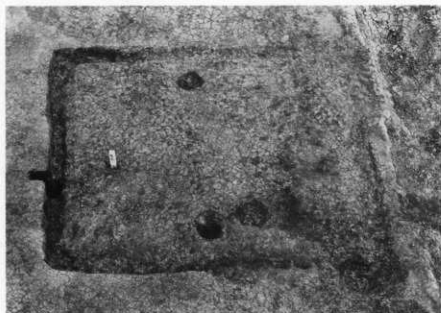
住居4



住居5、6



住居7
カマド



住居9



住居10



住居10
カマド



住居11~14



住居15
土坑1



住居16



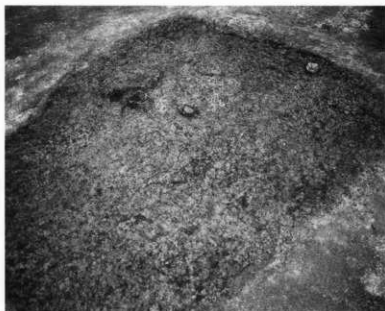
住居17



住居18



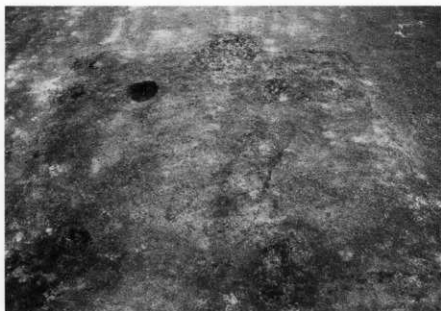
住居18



住居19



住居20



住居21



住居22
建物13



住居23、24
土坑5

住居25
遺物出土状態



住居25



住居26





住居27、28



住居29



住居30



住居31



住居31
遺物集中地点



住居32



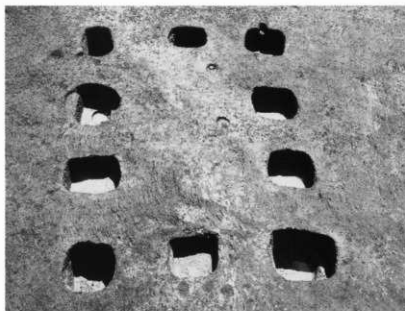
住居33



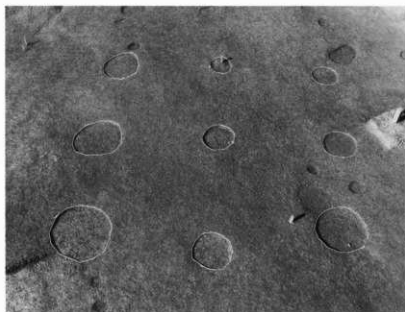
住居34



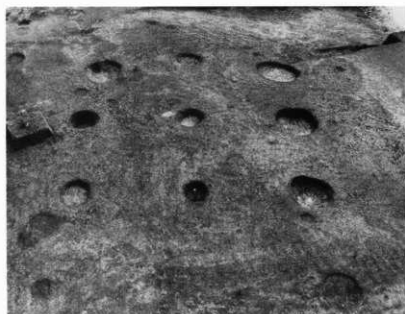
建物I



建物1



建物2



建物2



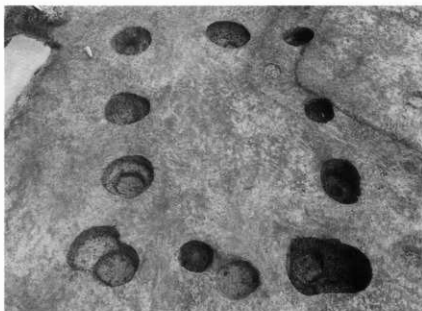
建物3



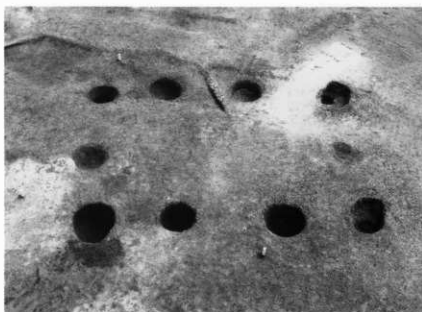
建物4



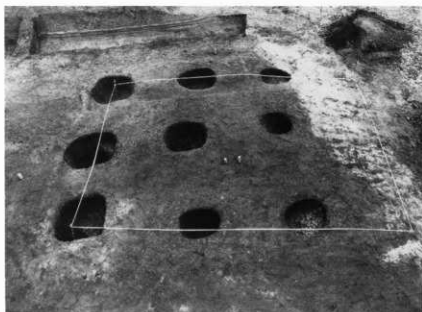
建物9



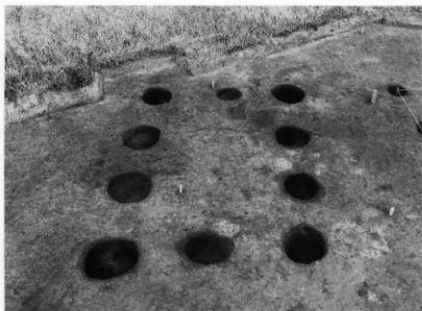
建物11



建物12



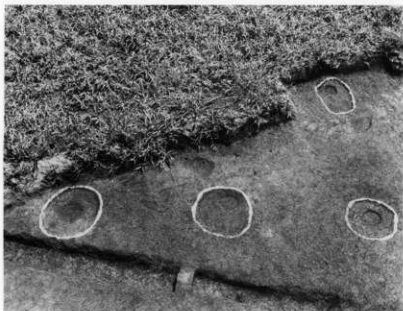
建物13



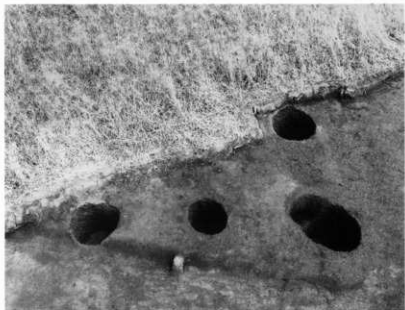
建物14



建物15



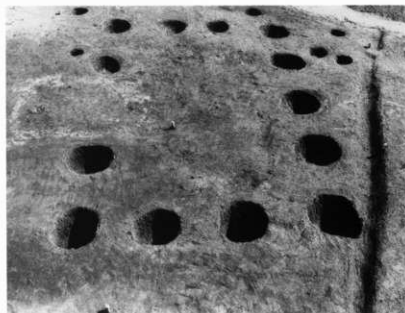
建物16



建物16



建物17



建物17



粘土採掘坑2



古墳（長老塚）
調査前



古墳（長老塚）
調査前



古墳 (長老塚)
調査前



古墳 (長老塚)
調査後



古墳 (長老塚)
調査後



古墳（長老塚）
東側周溝土層断面



古墳（長老塚）
西側周溝土層断面



古墳（長老塚）
北側周溝土層断面



古墳（長老塚）
墳丘北側土層断面



古墳（長老塚）
墳丘南側土層断面



古墳（長老塚）
主体部残存状態



包含層遺物出土状態



包含層遺物出土状態



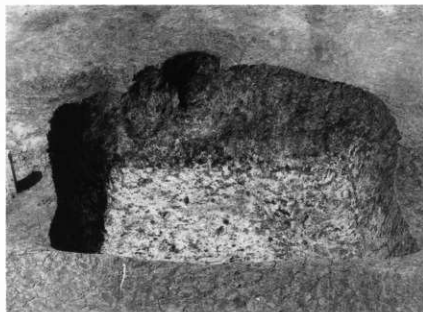
塚



塚断面 (南北)



塚断面 (東西)



火葬墓



住居1-2



住居1-3



住居3-2



住居1-1



住居3-3



住居3-4



住居8-1



住居8-2



住居8-4



住居10-2



住居10-3



住居10-4



住居10-5



住居10-6



住居10-7



住居10-9



住居11-2



住居11-3



住居13-2



住居15-2



住居19-1



住居25-3



住居28-2



住居31-1



住居31-2



住居31-4



住居31-5



住居31-6



住居31-7



住居31-8



住居31-10



住居31-11



住居31-17



住居31-16



住居31-18



住居31-13



住居31-14



住居32-8



住居32-3



住居32-4



住居32-5



住居32-6



住居32-7



住居32-11



住居32-9



住居32-10



住居32-16



住居33-1



住居33-2



住居33-3



住居34-1



住居34-3



住居34-4



住居34-5



谷部



トレンチ



住居34-2



粘土採掘坑1-1



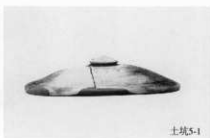
粘土採掘坑1-2



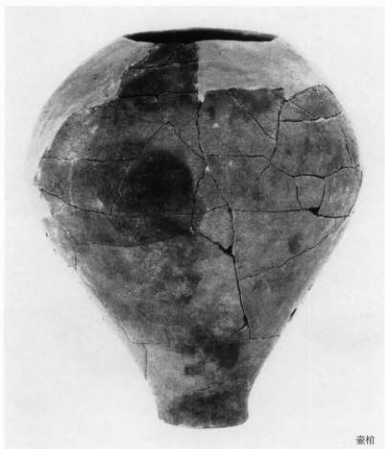
土坑6-1



土坑6-2



土坑5-1



壺棺



SX014



古墳-4



古墳-6



古墳-7



古墳-9



古墳-8



古墳-10



古墳-11



古墳-12



古墳-15



古墳-17



古墳-18



古墳-19



古墳-26



古墳-27



古墳-29



古墳-30



古墳-32



古墳-33



古墳-37



古墳-41



古墳-42



古墳-44



古墳-46



古墳-47



古墳-51



古墳-52



古墳-53



古墳-58



古墳-61



3B-1



3B-5



3B-4



3C-2



3C-3



3C-5



3C-6



4B-2



4B-3



4B-4



4B-5



4B-6



4B-7



4B-8



4B-11



4B-12



4B-13



4B-14



4B-15



4B-16



4B-17



4B-18



4B-19



4B-20





4B-46



4B-47



4B-48



4B-50



4B-51



4B-52



4B-53



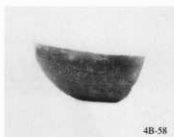
4B-55



4B-56



4B-57



4B-58



4B-59



4B-60



4B-61



4B-62



4B-63



4B-64



4B-65





4B-86



4B-81



4B-82



4B-83



4B-89



4B-92



4B-94





4B-114



4B-119



4B-120



4B-118



4B-122



4B-121



4B-135



4B-136



4B-137



4B-138



4B-141



4B-142



4B-143



4B-144



4B-145



4B-146



4B-149



4B-150



4B-152



4B-155



4C-4



4C-2



4C-3



4C-5



4C-8



4C-9



4C-10



4C-11



4C-14



4C-16



4C-15



4C-17



4C-18



4C-20



4C-21



4C-22



4C-23



4C-28



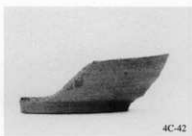
4C-31



4C-32



4C-30





5D-3



5D-8



5D-5



5D-6



5D-15



5D-11



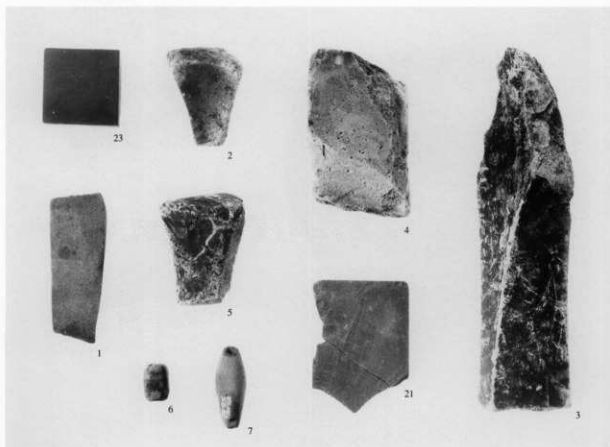
11E-1

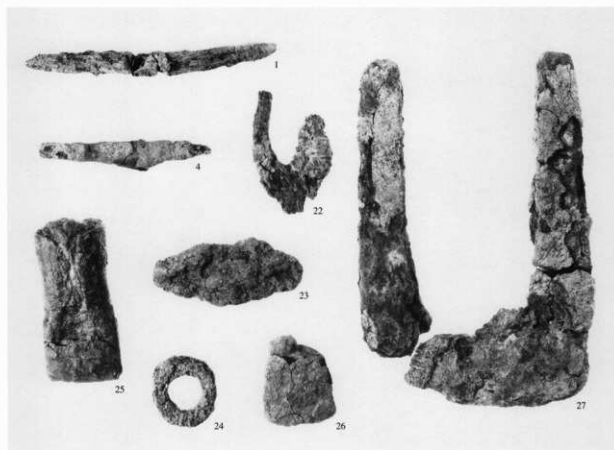
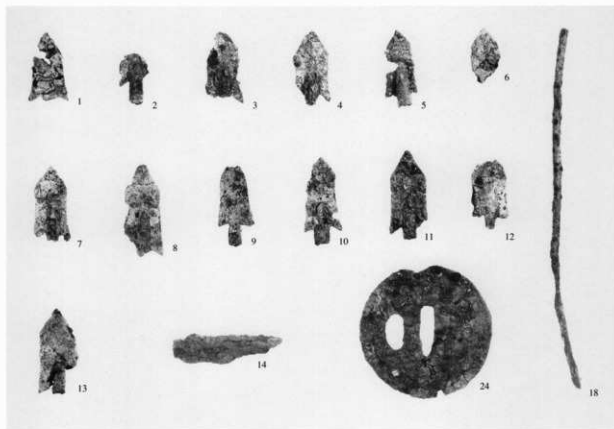


11F-1



11G-1





報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう(ちばふっせん)まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書2							
副書名	市原市今富遺跡							
巻次	2							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第336集							
編著者名	森本和男							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いま 今富	ちばけんいわけほらしいま 千葉県市原市今 富字文蔵733	219	042	35度 28分 10秒	140度 5分	19890201～ 19890331 19890401～ 19891031 19900402～ 19900930	2,500 21,200 11,200	道路(東 関東自動 車道)建 設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
今富	散布地 集落跡 墓 祭祀	縄文	弥生	古墳	奈良	近世		明確な遺構に伴わず に多量の土師器が出 土した。
				陥穴 炉穴	1基 1基			
				壺棺墓	1基	弥生土器(壺)		
				竪穴住居跡	34軒	土師器、須恵器、		
				掘立柱建物跡	17棟	鉄器(鉄鏃、鋤先)		
				粘土採掘坑	2基			
				土坑	6基			
				古墳	1基			
				塚	1基			
				火葬墓	1基			

千葉県文化財センター調査報告第336集

東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 2
－市原市今富遺跡－

平成10年3月31日

編 集	財団法人 千葉県文化財センター
発 行	日本道路公団 東京都港区虎ノ門1-18-1
	財団法人 千葉県文化財センター 千葉県四街道市鹿渡809-2
印 刷	大和美術印刷株式会社 千葉県木更津市潮浜2-1-10
